太宰府市の文化財　第115集

太宰府市文化遺産情報 1

― 文化遺産からはじまるまちづくり ―

未来の市民に伝えたい

「今」

平成24年
(2012)

太宰府市教育委員会

「太宰府市文化遺産情報　1」　正誤表

※お手数ですが、以下のとおり訂正いただきますようお願いします。

頁	登録番号	名称	訂正箇所	誤	正
p.20	A0072	竈門神社	文化遺産情報	白鳳2年（天武天皇3年、674）	白鳳2年（天武天皇2年、674）
p.26	B0008	庚申天	文化遺産情報	天保期（1830～1843）	天保期（1830～1844）
p.27	B0018	石灯龍	名称	石灯龍	石灯籠
p.28	B0027	慈母観音（子安観音）	文化遺産情報	昭和48（1974）年	昭和48（1973）年
p.37	B0077	岩屋城合戦犠牲者追悼伝要	名称	岩屋城合戦犠牲者追悼伝要	岩屋城合戦犠牲者追悼法要
p.50	C0023	清水谷トンネル	文化遺産情報	また、大正5年・・・・されなくなった。	この時から使われなくなった。
p.64	E0039	「水城」銘墨書土器発見場所	文化遺産情報	第10次調査（1978年12月1日～19791月31日）	第10次調査（1978年12月1日～1979年1月31日）
p.89	F0014	玄清法印之墓	文化遺産情報	しかし没後1150年忌この地に特定された。	しかし明治34（1901）年当地で墓が見つかったとされ、没後1150年忌を記念し、昭和43（1968）年に墓所が営まれた。
p.92	F0037	観音堂と観音橡	名称	観音堂と観音橡	観音堂と観音像
p.94	F0053	関屋	所在場所	坂本	坂本1丁目
p.98	F0072	都督府古址	名称	都督府古址	都督府古址碑
p.105	F0121	岩屋城合戦関連石造物3	所在場所	太宰府（四王寺山）	大字観世音寺
p.106	F0128	坂本のダブリュウ	所在場所	坂本	観世音寺4丁目
p.108	F0146	旧小字標　油田	名称	旧小字標　油田	旧小字標石　油田
p.113	G0001	落合橋（おちあいばし）	文化遺産情報	平成18年（2007）9月	平成18年（2006）9月
p.115	G0023	都府楼団地夏祭り	所在場所	都府楼団地	都府楼3丁目（都府楼団地）
p.114	G0022	都府楼教員住宅	文化遺産情報	23（2011）年に	平成23（2011）年に
p.128	H0038	国鉄鹿児島本線赤煉瓦造架橋	所在場所	向佐野	向佐野2丁目
p.131	H0062	水城跡	所在場所	国分・市外（大野城市）	吉松1丁目～2丁目・市外（大野城市）
p.132	H0064	水城・線路切り通し	所在場所	吉松	吉松2丁目
p.134	H0080	宮座祭	所在場所	大佐野地区	大佐野3丁目
p.134	H0081	宮座祭	所在場所	大佐野（地禄神社　公民館）	大佐野3丁目（地禄神社　公民館）
p.135	H0083	池ん谷の池	所在場所	大佐野（光妙教会敷地内）	大字大佐野（光妙教会敷地内）

太宰府市教育委員会

太宰府市文化遺産情報 1

― 文化遺産からはじまるまちづくり ―

未来の市民に伝えたい

「今」

平成24年
(2012)

太宰府市教育委員会

序

平成16年度に策定しました『太宰府市文化財保存活用計画』にて、本市のまちづくりの方針として「文化遺産からはじまるまちづくり」を表明し、その後実務計画として策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』と併せて、『太宰府市歴史文化基本構想』を立ち上げ、平成22年度から実践へと移してきました。これら全ての計画の基本には、太宰府市民が未来の市民に伝えていきたいと思う「文化遺産」が基礎にあり、市民の皆さんが自らの力で集めてきた情報が、全ての出発点であると考えています。

本書に収録された文化遺産に関する情報は、太宰府市民遺産を構成する上で、最も基礎的な情報で、なによりも自主的に参加された市民の力で収集されたものです。併せて、現在の「太宰府」を語る上で、多様で貴重な情報であるということが誇れる成果と言えます。

「文化遺産からはじまるまちづくり」を進める上のキーワードとして、太宰府市民遺産の取り組みを促進するために、本書が基礎的な情報となり、多くの方々に活用していただけることを願います。

最後に、本書を作成するにあたり、太宰府に関わる多様な文化遺産を収集していただいた文化遺産調査ボランティアの皆さん、そして情報を提供いただいた市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成24年
太宰府市教育委員会
教育長　關　敏治

目次

1. 本書の説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
a. 目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
b. 文化遺産情報の見方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 文化遺産情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3. 文化遺産調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
a. 文化遺産調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
文化遺産情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
A 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
B 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
C 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
D 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
E 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
F 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
G 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
H 地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
4. 文化遺産から太宰府市民遺産へ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
a. 本書の活用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
b. 文化遺産からはじまるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
c. 太宰府市民遺産 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・137
d. 行政計画の中の文化遺産 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・138

附編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
1. 文化遺産調査ボランティアの活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
2. 基本文献一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・143

索引 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・147

1. 本書の説明

a. 目的

本書は、平成20年度より開始し、平成23年12月までに収集できた文化遺産に関する調査報告です。ここに収録した文化遺産に関する情報は、市民有志による文化遺産調査ボランティアを結成し、多様な感性で、未来の市民に伝えたいモノを収集していただきました。そこには、市役所が主動しつくり出した偏った見方から抽出されたものではなく、参画された市民の方々の様々な思い、未来の市民に伝えたい「今」を表現した多彩な文化遺産の情報です。

本書に収めた内容は、市域を８つの地域に分け、各々に所在する文化遺産に関する説明を記しています。８つに分けた方法は、７つの小学校区を基本としつつも小学校区の範囲、町名、大字界など様々な要素を考慮した上で分けています。それぞれの範囲は、**図２**に記していますので、そちらをご参照ください。

b. 文化遺産情報の見方

●地図表記

地区割線：地図内の青線は、８つの地区割りを表現した線です。

町名線：地図内の赤線は、町名ならびに丁目境界を表現した線です。

文化遺産番号：以下の要領で表現しています。

A0001

地区記号　文化遺産番号

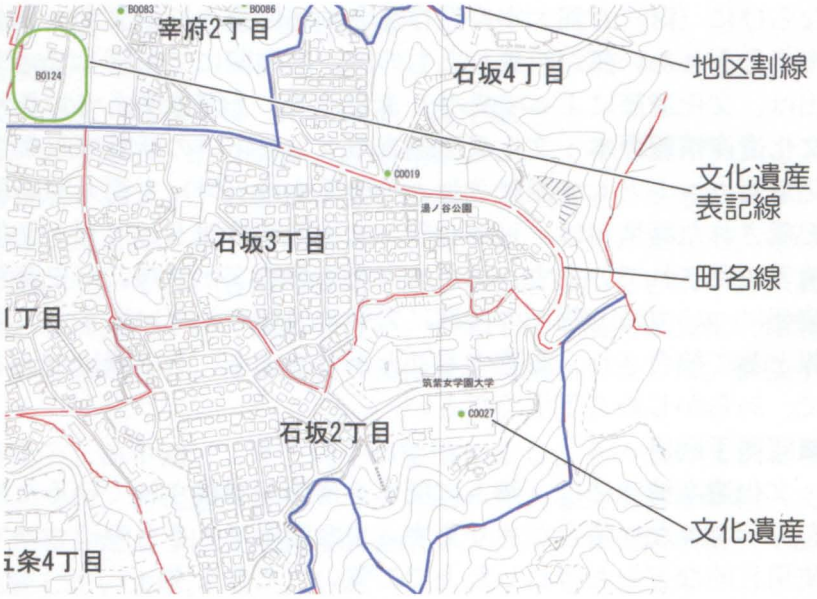


図１. 文化遺産地図の見方

文化遺産解説：文化遺産調査で収集されたものの内、個人所有など公開できないものを除いた情報を掲載しています。また、解説内容は、可能なかぎり多くの文化遺産を掲載したいため、概略の説明に留めています。更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、下記の機関にお尋ねください。

①太宰府市教育委員会　文化財課 電話：092 － 921 － 2121（内線 470）	**②（財）古都大宰府保存協会** 電話：092 － 922 － 7811
③太宰府市史資料室 電話：092 － 921 － 2322	**④太宰府市文化ふれあい館** 電話：092 － 928 － 0800

●記載事項

文化遺産調査で収集された情報には、物件名称、所在地、由来・経緯、概要・特色・現状、関連文献など５項目にわたります。その中から、名称（文化遺産名称）、登録番号（地図番号と一致）、時代区分、所在場所、文化遺産写真、文化遺産情報を掲載しています。文化遺産情報の解説文章は、収集された５項目の情報を集約し、物件を表現していると判断される内容で表記しています。各情報の見方については、以下の要領をご参照ください。

時代区分：物件を表現するに相応しいと判断される時代を表記しています。文化遺産個々によって代表する年代に、築造年、使用年、廃絶年、継承年など様々な捉え方があるため、そのものの

時代性を最も表現していると判断される時代で表記しています。

概ね、時代区分は、以下のように捉えて表記しています。

原始（人の出現から飛鳥時代まで）、**古代**（奈良時代から平安時代中期まで）、**中世**（平安時代後期から戦国時代まで）、**近世**（織豊時代から江戸時代）、**近代**（明治時代から昭和時代前期【第2次世界大戦まで】）、**現代**（昭和時代後期以降）。自然物については、植樹時期などが明らかな場合を除き、特記していません。なお、現代に造作された溝でも、施工時期が遡る可能性があるものは、明らかになった施工時期を記していますが、由来不詳などのため明らかにできないものは「-」表記をしています。

所在場所：自然物で、場所特定を避けた萌芽望ましいと判断されるものもあるため、丁名表記で留めています。

●収集された情報

写真情報：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された写真は、太宰府市教育委員会文化財課ならびに（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。また太宰府市史資料室ならびに太宰府市文化ふれあい館が収集したものは、両機関にて保管しています。なお収集された写真情報の貸出は、文化遺産によって異なりますので、上記機関までお尋ねください。

文化遺産情報原本：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された調査に関する情報は、全て文化遺産カードとして記載され、その原本は（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。なお記載された諸情報は、可能な限り文化遺産情報としてデータ化され検索することができるように情報処理されています。また太宰府市教委文化財課、市史資料室、文化ふれあい館が収集した諸情報については、個々の機関にて管理保管されていますが、全ての情報は、先述した文化遺産情報として統合され、閲覧することができます。その際には、下記手続きが別途必要となりますので、あらかじめご了承ください。

■閲覧手続き

文化遺産情報には、個人に関する情報が記載されているため、文化遺産によっては全ての情報を開示できない場合があります。また開示できるものについても、閲覧者の氏名、住所、連絡先、使用目的などをお尋ねした上でご覧いただきます。

■本書の制作

本書は、文化遺産調査ボランティア活動の事務局である（財）古都大宰府保存協会と、文化庁の受託事業として実施した文化財総合的把握モデル事業の受託団体であった太宰府市教育委員会文化財課ならびに、関係課として太宰府市都市整備課の三者で作成しました。制作にあたった各団体の組織は、以下のとおりです。

【太宰府市教育委員会】

総括	教育長	關　敏治	
庶務	教育部長	齋藤廣之	
	文化財課長	井上　均	
	保護活用係長	菊武良一	
	調査係長	池本義彦	
	事務主査	橋川史典	
	主事	古川あや	
調査	主任主査	山村信榮	**中島恒次郎**（編集総括）
		井上信正	
	技術主査	髙橋　学	宮崎亮一
	主任技師	遠藤　茜	
	技師（嘱託）	白石渓冴	

【太宰府市】

総括	市長	井上保廣
庶務	建設経済部長	神原　稔
	都市整備課長	今村巧児
景観・歴史のまち推進係々長		城戸康利（文化財課併任）
	主任主査	佐藤政吾
	主事	大塚春菜

【（財）古都大宰府保存協会】

総括	理事長	佐藤善郎
庶務	事務局長	**重松敏彦**（調査総括）
	嘱託職員	鶴浜京子　中村由起
		山本典子（調査担当）　**星原めぐみ**（調査担当）
	臨時勤務員	猿渡克己　森　靖幸　桑野満典
	文化財調査員	**髙橋史子**
	集計労務員	武石智恵　雨森史枝　**尾花純子**　**田中健一**
		瀬戸口みな子　市川晴美　吉村有紀

なお、本書の作成は、文化遺産調査ボランティアの統括を重松敏彦、山本典子、星原めぐみが行い、収集された文化遺産情報の基礎整理を山本典子、髙橋史子、田中健一が行いました。その後、文化遺産データベースの追補訂正については、各部門総括である重松敏彦ならびに中島恒次郎とともに髙橋史子、田中健一の両名を加えた４名で議論を行い、森弘子氏（福岡県文化財保護審議会委員　太宰府発見塾々長）の御指導のもと、本書掲載の文化遺産情報としました。森弘子氏に記して感謝申し上げます。

本書記載の文化遺産情報は、髙橋史子、田中健一、尾花純子が整備作成し、その他の文章ならびに編集は中島恒次郎が行いました。なお、文化遺産データベース原本である文化遺産情報（文化遺産カード、写真情報など）は、先述したように文化遺産調査ボランティアの統括事務局である（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。

なお、文化遺産情報内における挿入イラストについて、以下の方々の協力を得ました。記して、心より感謝申し上げます（敬称略）。

江上真太郎、福井円、中島志野

2. 文化遺産情報

市内の７つの小学校区を基本とし、小学校区の範囲、町名界、丁目界、さらには所在する文化遺産数などを考慮し、８つの地区に区分しました。また太宰府に関わる文化遺産は、特別史跡基肄城跡をはじめ近代初期に周辺各地に避難のため持ち出された太宰府天満宮の仏像など市域の外に広がるものも多々存在しており、本来は太宰府に関わる文化遺産情報としては、これらを含めたものを掲載する必要があります。しかし、市域外の太宰府に関わる文化遺産については、十分整理がついていないこともあり、今回の報告からは除外しました。今後改訂版を検討する際には、太宰府に関わる文化遺産として掲載していきたいと思います。

a.A 地区

市域北東部、大字北谷・内山、そして御笠地区を対象地区とします。なお宝満山に所在する文化遺産については、未収録です。今後収録していきます。

b.B 地区

市域東部の太宰府天満宮を含む地区で、大字太宰府、三条、宰府、連歌屋を包含します。

c.C 地区

市域東部で五条ならびに白川地区を指します。

d.D 地区

市域南東部で、昭和 40 年代以降に宅地化された地域ですが、昔ながらの景観を留めた場所も残されています。高雄、梅ヶ丘、梅香苑地区を包含します。

e.E 地区

市域北部、水城、国分、吉松地区が包含されます。

f.F 地区

市域中央部北寄りで、大宰府政庁跡など主要な大宰府関連史跡群を含む地域です。坂本、観世音寺を含み、通古賀、五条地区が僅かに入ります。

g.G 地区

市域中央部南寄りで、朱雀、通古賀、都府楼南から主に構成され、坂本ならびに観世音寺が僅かに入ります。

h.H 地区

市域南西部に位置し、吉松を含みつつ、多くは向佐野、大佐野という佐野地区から構成されます。

3. 文化遺産調査

平成 16 年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』において、市域に点在する文化遺産を、九州芸術工科大学（現九州大学）の協力のもと悉皆調査が実施され、ほぼ 5,000 件近くの文化遺産に関する情報がデータ化されました。この時の調査は、文化財保護法に規定されない市域に点在する様々な「古そうなモノ」全てを対象に情報収集が行われ、その結果として多様な「記念物」的遺産が拾い集められました。モノだけでなく行為の産物である行事も併せて市史編纂の際収集された情報を基礎に拾い集められました。細部に渡る情報が収集されましたが、ひとつ課題が残されました。それは、文化遺産を見守る行為が生まれなかったことです。その課題を克服するために、平成 20 年度から再度開始された文化遺産調査は、①市民ボランティアによって調査者を構成する。②自らが未来の市民に伝えたいモノを調査対象とするという二つの考えを掲げ調査に着手しました。①については、昭和 60 年に発足した大宰府史跡解説員制度というボランティア活動の原点がある太宰府ゆえに、100 名近い参加者を得ることができた。一方調査対象物については、一部の人間の意図による拘束を避けるため、あえて対象物を与えず、自らが未来の市民に伝えたいモノという漠然とした表現で調査を御願いした。しかし結果として、不明確な対象物という印象を参画された調査員の方々に抱かせ、調査開始当初は意思の浸透に相当な時間を要してしまいました。時間の経過とともに、調査対象物に関する意思が次第に浸透し、昭和 40 年代に造成された団地では、文化遺産は無いと困っておられた班で、自治会活動の記録の中に、市民図書館設立の基礎となった出来事が記されたり、日々の散歩道からみる宝満山の「雄姿」を見ることができる場所が記載されるなど、文化財課職員の狭い技量では計り知れない多種多様なものが集まってきました。いわば、平成 23 年までの「太宰府」が記録されているといえます。

a. 文化遺産調査

平成 20 年度から市民参画型の文化遺産調査活動は、当初 100 名近い参加者を得、スタートしました。その後、事務局の説明不足から講義型の文化遺産講座と誤認された方々の欠席を招きましたが、平成 22 年度まで 86 名の方々が参加していただきました。その後、平成 23 年度を迎えるにあたり、文化遺産調査の今後のあり方を議論していただいたところ、積極的な継続要望が出され、平成 23 年度も 62 名の方々の参加がありました。

文化遺産調査は、ボランティア参加していただいている方々の身近な文化遺産を調べていただくことを目的として、市内在住者の方々は、住んでいる小学校区を調査範囲として活動を御願いしました。市外から参加いただいた方々は、適宜班編制の人数バランスを考慮して各班へ割り振

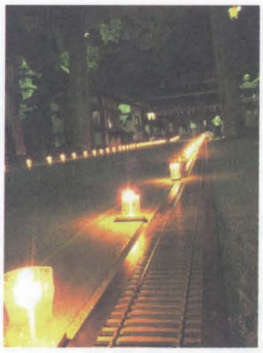
りを行い参加していただきました。
それぞれの年度ごとの参加者は、以下のとおりです。

■文化遺産調査ボランティア参加者【平成22年度　86名】

荒井慶子　飯野昭夫　石川冨美江　石黒加枝子　井土善博　稲田和子　井上和代　井上俍子
今泉美子　大浦健児　大河内トシ子　大田和子　大坪久仁子　大場　明　大藪善治　奥野　悠
尾沢　勝　尾仲博子　鬼丸康治　川瀬満知子　川野隆生　神寄祐雄　北原雅子　草場徳生
工藤常泰　久保田久美子　小沼秀人　近藤佐代子　齋田恒子　斉藤マチ子　齋藤喜徳　佐伯
誠酒匂輝昌　猿渡節子　清水康子　白石常雄　菅原靖子　杉谷朝雄　関　久江　高木保幸
田島哲生　堤　克哉　寺田七郎　徳光芳文　富田サナヱ　富田　進　中尾武史　長尾多重子
中澤雄二　中島伊佐子　長野瑞子　中村　昭　中山虎夫　菜畑健治　西岡文敏　西田省三
二宮正美　野中美由喜　萩原圭司　橋口郁朗　八谷知子　濱晋一郎　林きよみ　早瀬ひろ子
姫野英一　深川勝重　深野容子　藤田百合子　藤丸　健　本田　圭　増野芳枝　松尾セイ子
松尾満子　松尾保伸　松岡良一　松田良治　迎　明子　村山哲勇　杢尾幹雄　森田敏博
森山幸美　焼山正憲　矢野文夫　八尋千世　山崎俊治　山田乃ぞみ

■文化遺産調査ボランティア参加者【平成23年度　62名】

相野久枝　荒井慶子　飯野昭夫　石川冨美江　石黒加枝子　井土善博　井上和代　井上俍子
内村桂典　大浦健児　大坪久仁子　大場　明　大藪善治　尾沢　勝　鬼丸康治　川瀬満知子
川野隆生　工藤常泰　久保田久美子　小沼秀人　近藤佐代子　齋田恒子　佐伯　誠　酒匂輝昌
猿渡節子　白石常雄　杉谷朝雄　陶山真弘　関　久江　田島哲生　堤　克哉　寺田七郎
富田サナヱ　富田　進　中尾武史　長尾多重子　中澤雄二　長野瑞子　中村　昭　菜畑健治
西岡文敏　西田省三　二宮正美　野中美由喜　橋口郁朗　林きよみ　早瀬ひろ子　姫野英一
深川勝重　深野容子　藤丸　健　本田　圭　増野芳枝　松尾セイ子　松尾満子　松尾保伸
松岡良一　松田良治　村山哲勇　森田敏博　焼山正憲　山崎俊治



文化遺産情報

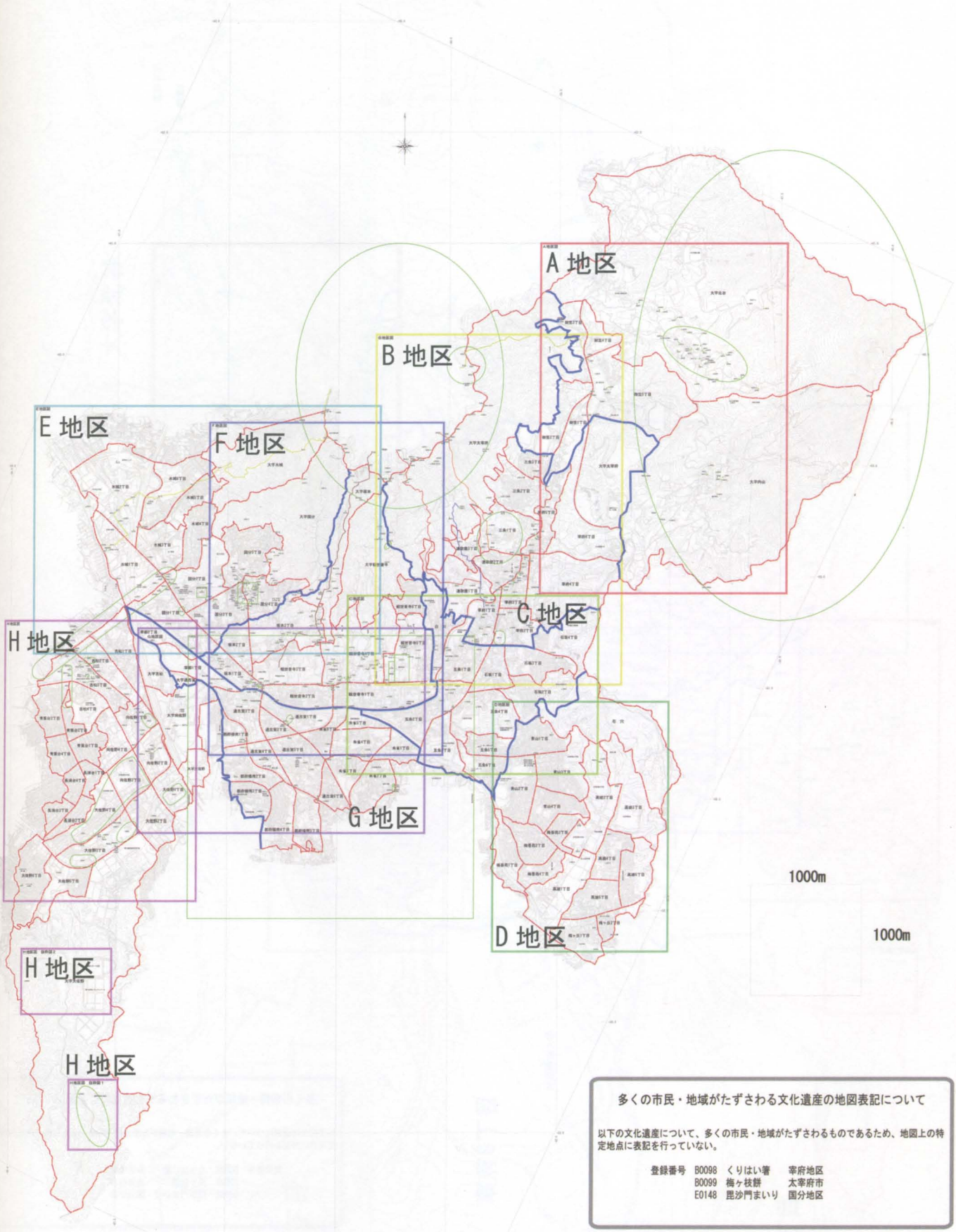
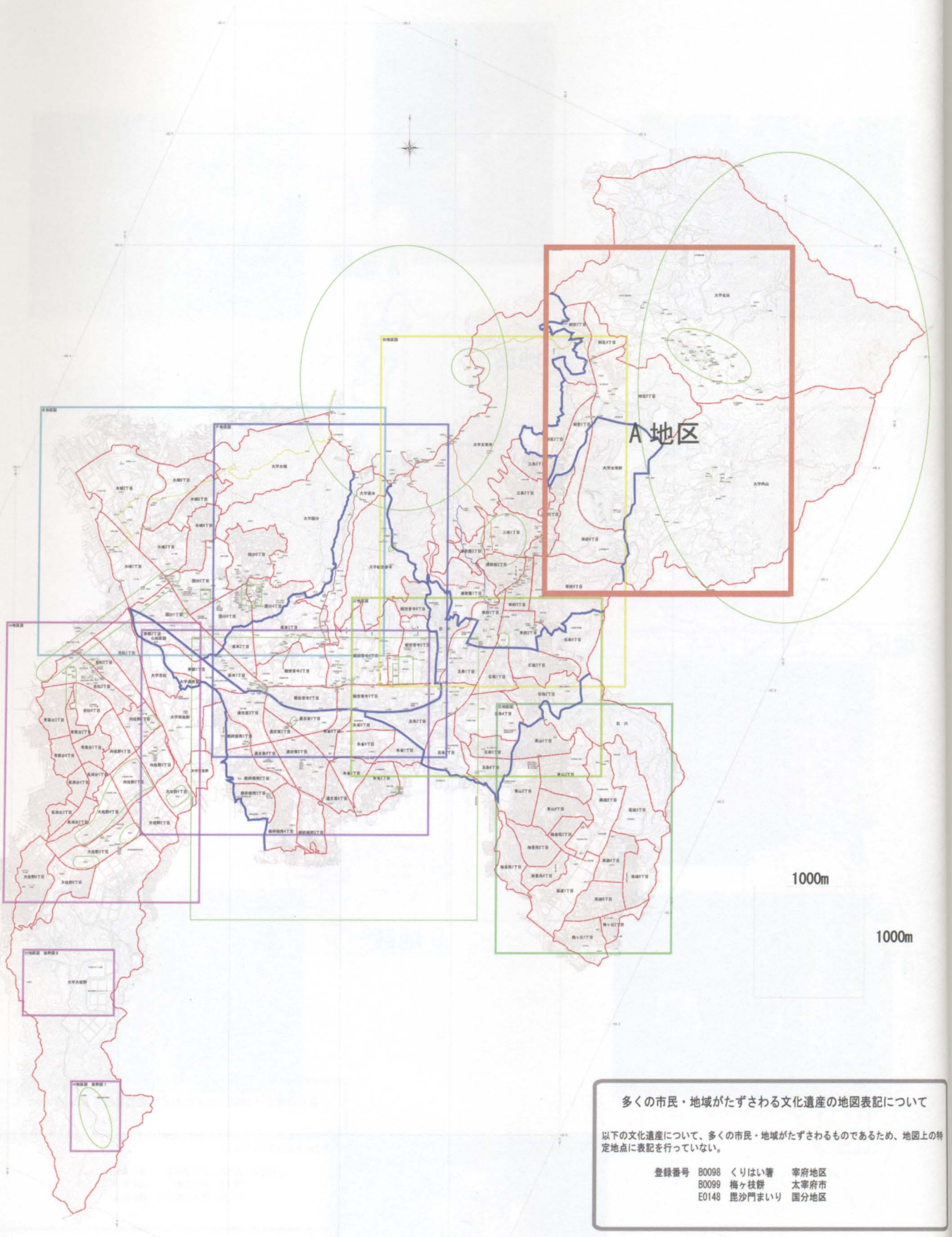

A 地区
B 地区
C 地区
D 地区
E 地区
F 地区
G 地区
H 地区
H 地区
H 地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい箸 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 2. 地区解説図



多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について

以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。

登録番号	B0098	くりはい箸	宰府地区
	B0099	梅ヶ枝餅	太宰府市
	E0148	毘沙門まいり	国分地区

図 3. A 地区位置図

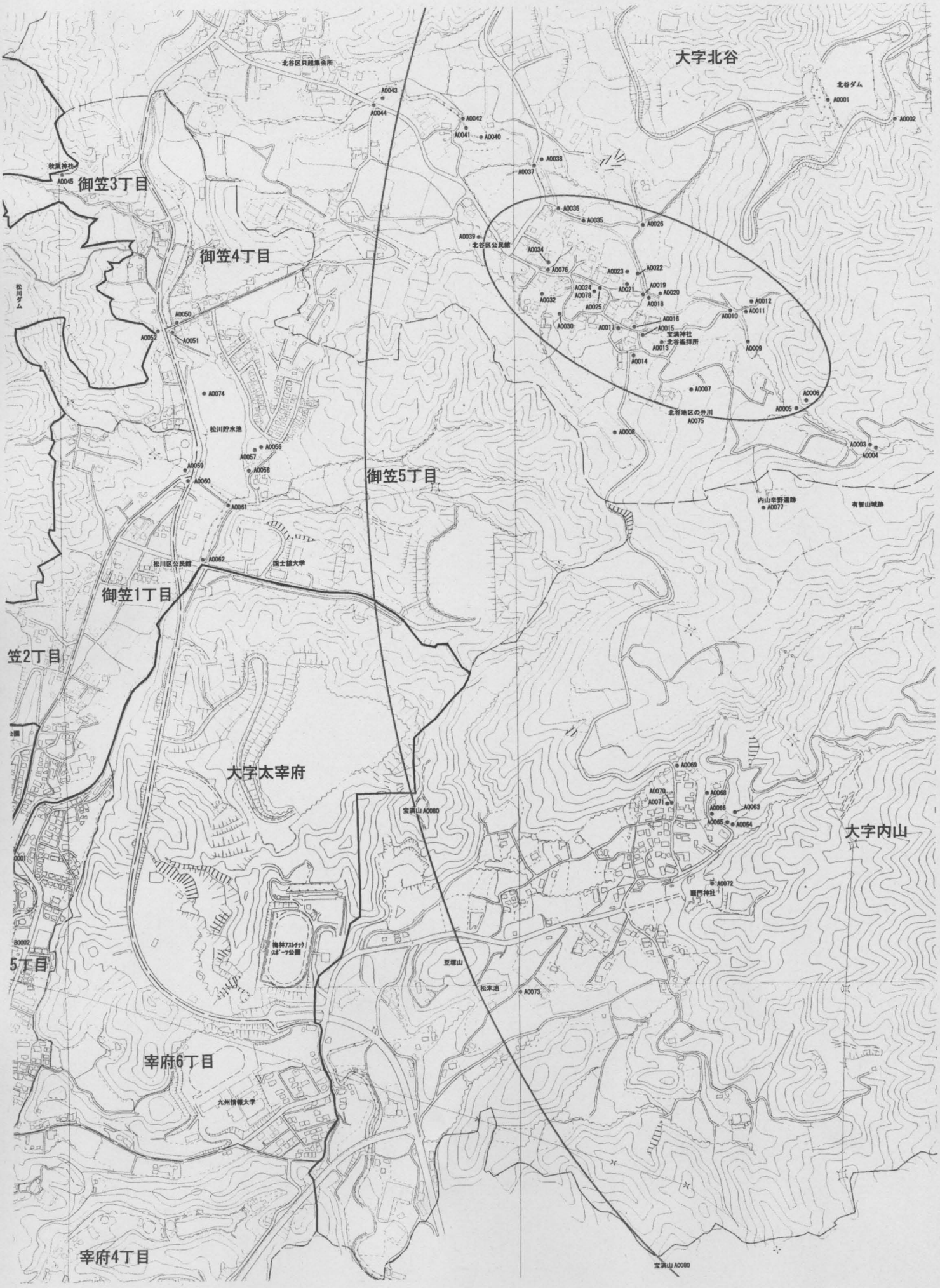


図 4.A 地区文化遺産位置図

名称 **北谷ダム**

登録番号 A0001 現代

所在場所 **北谷**

山の神川の上流にある多目的ダム。県営北谷ダムとして平成11年(1999)11月に完成し、総貯水量は251,000立米。貯水は、灌漑用水補給、既得用水の安定化、河川環境の保全などに利用されている。

名称 **山の神**

登録番号 A0002

所在場所 **北谷**

北谷区で祭られている山の神様。本来ダムの下流に祀られていたが、北谷ダム建設(昭和63年度着工)により、現在地に移された。

名称 **宝満山橋**

登録番号 A0003 現代

所在場所 **北谷**

御笠川に架かる橋の中で最も上流に架かる橋。福岡営林署によって昭和49年(1974)に俊工したものである。

名称 **一のイデ**(小野井手または一番井手)

登録番号 A0004

所在場所 **北谷**

北谷地区の高所の水田への取水口。側溝の中に水量の調整をするための大きな石(ハネ石)がある。

名称 **二のイデ**

登録番号 A0005

所在場所 **北谷**

北谷地区を流れる、御笠川に設けられた取水口のイデの1つ。ここで取り込まれた水は、井川を通って北谷宮ノ下地区へと流れていく。名前の由来は、北谷地区にある御笠川のイデのうち、上流から二番目に位置することからと考えられる。

名称 **新溜池・新池**

登録番号 A0006 近代

所在場所 **北谷**

北谷地区を流れる御笠川上流部沿いに位置する溜池。近代に造られたもので、面積は1,206㎡。現在は防火用水として使用されており、地元では「火事の時以外は絶対に使ってはならない」と言い伝えられている。

A 地区

名称　しかけ水路

登録番号 A0007

所在場所 北谷

この水路は、二のイデから北谷地区内に流れ込む井川の途中から分かれ、谷池に入れ込む為のもの。谷池の水を使っている人達で、水路の掃除を定期的に行っているとのこと。

名称　谷池

登録番号 A0008　近世

所在場所 北谷

明和4(1767)年頃、谷ノ池と農業用水路(掛け樋)が完成し、出口・小畑・ロノ坪一帯の畑が水田化されたと伝え聞く。

名称　オッゴヤのイデ

登録番号 A0009

所在場所 北谷

地元で「オッゴヤのイデ」と呼ばれるもので、田畑へ水を引く取水口。北谷には小字名として「奥小屋」があり、それがなまって呼び名が変化したと考えられる。

名称　イヤノ浦橋

登録番号 A0010　現代

所在場所 北谷

北谷地区を流れる御笠川に架かる橋で、平成17年(2005)5月に俊工したもの。このイヤノ浦橋が架かる御笠川上流部は、「北谷川」とも呼ばれている。

名称　自然石

登録番号 A0011

所在場所 北谷小野

イヤノ浦橋の右側にある自然石で、触ると祟りがあると昔から言われている。

名称　真誉親王墓

登録番号 A0012

所在場所 北谷小野

高さ143cmほどの自然石の表面に「親世親王墓」と刻まれている。真誉親王は、鳥羽院の第八皇子で、7才のとき母を亡くして出家し、18才で法眼の位にのぼったが、その後、姿を消したという。法皇は諸国に尋ねたが、実は真誉親王はこの地にしばらく隠棲していたという。

名称 **竈門神社新宮(北谷遙拝所)**

登録番号 A0013　近代

所在場所 **北谷**

地誌類には「宝満宮」「新宮」「新宮宝満社」と様々な表記があり、旧社地は字大黒寺の上にあったといい、元宮の地名が残っている。西南戦争後に社名を竈門神社遙拝所とされたが、ムラ人は氏神様と呼んでいる。祭神は玉依姫命・神功皇后・応神天皇の三神である。

名称 **北谷の道標**

登録番号 A0014

所在場所 **北谷**

太宰府市北谷のウジガミの近くにある道標。石には、「左ほうまん　右をたけ山」と彫られている。

名称 **共同井戸**

登録番号 A0015

所在場所 **北谷**

昔は、この井戸を共同で使っていたが、現在は使用していない。

名称 **たな池**

登録番号 A0016

所在場所 **北谷**

このたな池に、宮ノ下地区における井川利用の基本形を見ることができる。主流の井川と、それから各家に引き込み、洗い物に利用した池の形がよく分かる。

名称 **庚申天**

登録番号 A0017　近世

所在場所 **北谷　宮ノ下**

集落を縦断する道(現道)と宝満山へ行く旧道の分かれに置かれた庚申天で、高さ＝157cmを測り、天明7年(1787年)建立であることが銘文から読み取れる。

名称 **はね石**

登録番号 A0018

所在場所 **北谷**

各家に引き込む水量を調節するため、水路内に石を置いている。

A 地区

名称　大水避け石垣

登録番号 A0019

所在場所 北谷

川の側に家があるため、洪水の備えに石垣が築かれている。

名称　ウランカワイデ

登録番号 A0020

所在場所 北谷

北谷地区を流れる御笠川にある井手。地域の方からは「ウランカワのイデ」と呼ばれている。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は4.6ヘクタール程の田を灌漑していた。

名称　貴船神社

登録番号 A0021

所在場所 北谷　宮ノ下

水の神様として信仰されている。以前は木造瓦葺の小祠であったが、昭和初期にコンクリートの祠となる。ご神体には白布がかぶせられている。社の下に大きな石があり、その下の水を「貴船様の水」と呼んで飲み水としていた。正月には注連縄が張られ、お餅が供えられる。

名称　別所2号橋

登録番号 A0022

所在場所 北谷

御笠川に架かる橋。

名称　湧水取水口

登録番号 A0023

所在場所 北谷

林の中にあり、大石の下から水が湧き出ている。ここからパイプを引き、家に水を引き込んでいる家がある。

名称　北谷地蔵堂

登録番号 A0024　近世

所在場所 北谷宮ノ下

北谷村の小野にあった智光寺の名残であったが、後に現在地に移ったと『筑前国続風土記拾遺』は伝えている。堂内には棟札があり、江戸時代の宝暦2(1752)年4月に建立。本尊の地蔵菩薩は像高127cmの桧材一木造であり、平安時代後期の彫刻で、福岡県指定有形文化財。

名称 **大師堂**

登録番号 A0025

所在場所 **北谷　宮ノ下**

北谷地区の地蔵堂横に所在する。木造トタン屋根の祠内には、石造弘法大師坐像(高さ103cm)、石造地蔵菩薩坐像(高さ66cm)が祀られている。個人祈願の対象にもなっており、正月にはムラ内で注連を張り、餅を供えている。

名称 **ソイラ2号橋**

登録番号 A0026

所在場所 **北谷**

御笠川の源流の一つである、山の神川に架かる橋。

名称 **共同井戸**

登録番号 A0030

所在場所 **北谷**

宮ノ下地区の谷組が利用していた井戸。危なくない様に大きな石を井戸の上に乗せてある。

名称 **井戸**

登録番号 A0032

所在場所 **北谷**

個人宅の井戸。現在空地となっている。

名称 **共同井戸、共同風呂跡**

登録番号 A0034

所在場所 **北谷**

宮ノ下地区の下組が利用していた共同井戸、風呂の跡で、今は個人の敷地内で、その面影は全くない。

名称 **ソイラ3号橋**

登録番号 A0035　現代

所在場所 **北谷**

御笠川に架かる橋。「ソイラ3号橋」のプレートがある。

A 地区

名称　ソイラ4号橋

登録番号 A0036　現代

所在場所 北谷

御笠川に架かる橋。橋名のプレートはないが、平成15年の災害プレートがある。

名称　ソイラ橋

登録番号 A0037　現代

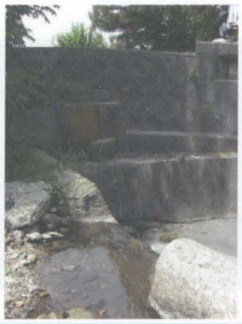
所在場所 北谷

北谷地区を流れる御笠川に架かる橋。昭和58年(1983)2月に竣工したものである。

名称　ソイライデ

登録番号 A0038

所在場所 北谷



北谷地区を流れる山の神川に設けられた井手。この取水口から周辺の田へ水を引き込んでいる。江戸時代に記された『享和明細記』には「そハら」と記されている。

名称　大日如来

登録番号 A0039

所在場所 北谷(公民館の裏)

高さ160cmを測る自然石で、梵字が刻まれている。

名称　ミョウカクイデ

登録番号 A0040

所在場所 北谷

ゴタンダイデの少し上流に位置する井手。周辺の田への灌漑用水の取水口で、江戸時代の記録にもその名がみえるものであったが、平成15年(2003)の大水で損壊してしまった。現在はこの水を使っていた農家の方が、自分で石を重ねて水を引き込む様に工夫してある。

名称　ゴタンダイデ

登録番号 A0041　現代

所在場所 北谷

北谷地区を流れる御笠川にある井手。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は5.5ヘクタール程の田に引き込まれていた。

名称 **ソイラ5号橋**

登録番号 A0042　現代

所在場所 **北谷**

御笠川に架かる橋。太宰府市建設課によって設置された橋で、平成6年(1994)4月1日より使用開始されたものである。橋の側面には、設置に伴って許可を受けた「河川許可標」のプレートが掲示されている。

名称 **八反田イデ**

登録番号 A0043　現代

所在場所 **北谷**

北谷地区を流れる御笠川にある井手。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は3.7ヘクタール程の田を灌漑していた。

名称 **八反田橋**(はったんだばし)

登録番号 A0044　現代

所在場所 **北谷**

北谷地区を流れる御笠川に架かる橋で、八反田井堰の少し下流に位置している。橋は、昭和60年(1985)2月に完成したものである。

名称 **秋葉神社**

登録番号 A0045　近世 近代

所在場所 **御笠3丁目(秋葉神社内)**

松川(まつごう)区は文化年間(1804～1818)ごろ入植してきた人々によって集落が形成されたという伝承があり、火除けの神である秋葉神社の勧請も比較的新しい時期かと思われる。太宰府天満宮の神職が祭祀を受持ち、松川区によって村氏神同然に大切に祀られている。

名称 **一丁坂道路拡張工事記念碑**

登録番号 A0050　近代 現代

所在場所 **御笠4丁目**

大正9年、昭和40年に一丁坂道路を拡張工事した。その記念碑が上下2層に重ねられている。

名称 **北谷口橋**

登録番号 A0051　現代

所在場所 **御笠4丁目・5丁目**

御笠川に架かる橋(きただにぐちはし　昭和46年3月竣工)橋の拡張工事により県道側の銘板なし。

A 地区

名称　大師堂

登録番号 A0052

所在場所 御笠3丁目

松川(まつごう)バス停の側にある大師堂。木造瓦葺の祠内に、石造地蔵菩薩立像(像高59cm)、石造弘法大師座像(像高27cm)、石造弘法大師座像(像高56cm)が祀られている。

名称　大行事塔

登録番号 A0056　近代

所在場所 御笠5丁目

松川(まつごう)が三条から分離した時に建立された大行事石塔。大正4(1915)年御大典記念に建立。

名称　五穀神

登録番号 A0057　近代

所在場所 御笠5丁目

松川(まつごう)が三条から分離した時に祀られた五穀神石塔。大正4(1915)年建立。

名称　龍頭不動明王院

登録番号 A0058

所在場所 御笠5丁目

松川(まつごう)集会所に不動明王と釈迦如来像をまつり、毎月20日前後に地区の方々が集まり数珠繰りをしている。

名称　県道開通記念碑

登録番号 A0059　近代

所在場所 御笠2丁目

只越(ただごえ)線は、太宰府町～大字北谷只越～糟屋郡宇美町に至る道。大正7(1918)年4月2日竣工して三浦橋が完成、この日渡橋式が挙行された。翌8(1919)年12月には記念碑が松川(まつごう)浄水池畔に立てられ、この時の町長古川勝隆氏が寄せた「選併書」を刻む。

名称　太宰府天満宮の常夜燈

登録番号 A0060　近世

所在場所 御笠1丁目

松川(まつごう)集落から宰府へ入る道にある常夜燈。台座に「日田」を記されている。

名称 **松川橋**(まつごうばし)

登録番号 A0061　現代

所在場所 **御笠5丁目**

御笠川に架かる橋。「御笠川」(貯水池側)／「みかさがわ」(貯水池側)／「松川橋」／「昭和42年3月竣工」

名称 **天拝橋**(てんぱいきょう)

登録番号 A0062　現代

所在場所 **御笠5丁目**

御笠5丁目を流れる御笠川に架かる橋。県道35号線と国土館大学を結ぶ橋で、昭和46年(1971)9月に完成した。

名称 **式部稲荷下宮**

登録番号 A0063

所在場所 **内山　御供屋谷(宝満山登山口)**

御祭神は、倉稲魂命。旧暦2月初午日に、竈門神社境内で「初午まつり」が行われる。奥の院は中宮跡付近にあったようだが、今は危険で寄りつけない。

名称 **地蔵堂**

登録番号 A0064

所在場所 **内山　御供屋谷(宝満山登山口)**

コンクリート造の祠内に、石造地蔵菩薩立像が祀られている。

名称 **地蔵堂**

登録番号 A0065

所在場所 **内山　御供屋谷(宝満山登山口)**

コンクリート製の祠内に、石造地蔵菩薩立像、石造千手観音坐像1体、石造不動明王坐像が祀られている。

名称 **歌碑**(春はもえ･･･)

登録番号 A0066　古代　近代

所在場所 **内山　御供屋谷(宝満山登山口)**

昭和15(1940)年紀元節に設立。寛和二(986)年、肥後守として赴く途次、太宰府で詠んだ連句が「捨(拾カ)遺和歌集巻18雑賀」に入集。「春はもえ秋はこがるるかまとやま　かすみも霧もけふりとそ見る　元輔」。作者については諸説あり、清少納言の父としても有名な清原元輔だとする説もある。

A地区

名称　五輪塔

登録番号 A0068

所在場所 内山　御供屋谷

観音堂の横に祀られている「五輪塔」で、本来「火輪」ならびに「地輪」である部分が「水輪」に置換されている。おそらく周辺に五輪塔が存在している可能性がある。この付近は、むかし少弐氏の菩提寺 釈迦院跡といわれている。

名称　猿田彦尊

登録番号 A0069　近世

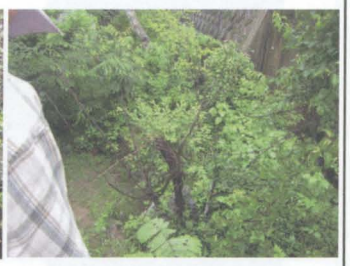
所在場所 内山本谷

内山本谷(有智山山荘側たにがみばし横)にある猿田彦尊。天保5(1834)年建立。

名称　金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸

登録番号 A0070　中世

所在場所 内山



刀鍛冶金剛兵衛が使用していたと伝えられている井戸。金剛兵衛は、鎌倉(南北朝)から室町時代にかけて太宰府で活躍していた刀鍛冶の一派。もとは宝満山の山伏鍛冶でその大部分は大宰少弐武藤氏に従属した鍛冶集団だったともいわれている。

名称　地蔵菩薩

登録番号 A0071

所在場所 内山(金剛兵衛井戸そば)

金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸そばにある像。高さ52cmを測る地蔵菩薩像。

名称　竈門神社

登録番号 A0072　古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 内山

御祭神は、玉依姫命・神功皇后・応神天皇。白鳳2年(天武天皇3年、674)に心蓮が啓示を受けて開山したという。上宮は宝満山山頂、下宮はその登山口にあり、明治の廃仏毀釈までは、中宮が中腹の八合目にあった。

名称　地蔵菩薩(板碑)

登録番号 A0073　中世

所在場所 内山(地蔵原)

元来は、近くの田畠にあったものをここに祀ったという。板碑上部左右に「バーン」「キリーク」、つまり金剛界大日如来の種字と阿弥陀如来の種字がうっすら線刻してある。浮きぼりの形は地蔵にみえるがそうとも言い切れないようだ。今は、お地蔵様として信仰を集める。高さ180cm。

名称 **松川貯水池(松川(まつごう)ダム)**

登録番号 A0074　現代

所在場所 **御笠5丁目**

都市用水の需要の高まりに応じて昭和40年(1965)に着工され、昭和42年(1967)3月に完成した。総貯水量は約72000□で太宰府市民にとっての水瓶である。内部にはダム建設に伴って廃止された古川井手の堰の残骸が残っている。

名称 **北谷地区の井川**

登録番号 A0075

所在場所 **北谷**

北谷宮ノ下地区を流れる井川(イガワ)の流路。

名称 **庚申尊天**

登録番号 A0076　近世

所在場所 **北谷　宮ノ下**

安永3(1774)年建立の庚申尊天。田植え後に、苗束を供える。

名称 **内山辛野遺跡(うちやまからしのいせき)**

登録番号 A0077　中世

所在場所 **内山、北谷**

太宰府市の内山・北谷に広がる遺跡。発掘調査から、礎石建物群・土塁・石垣・人為的造成面等が確認されている。また、鎌倉時代から室町時代にかけての庭園遺構も確認されている。

名称 **古墓(自然石)**

登録番号 A0078

所在場所 **北谷　宮ノ下**

北谷集落の中ほどに位置する、高さ184cmほどの自然石。伝承では西行法師の墓といわれている。また、真誉親王の墓であるという話も伝えられている。

名称 **宝満山**

登録番号 A0080　古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 **太宰府市内山・北谷**

太宰府市の北東に位置し、古代大宰府が置かれた時を同じくして祭祀遺跡が確認でき、飛鳥時代まで遡る竈門神社。そして中世における大山寺、さらには近世における修験の山として命脈を保ち続けている。現在は、登山の山として多くの来訪者が登る山として親しまれている。

B 地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい著 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 5. B 地区位置図

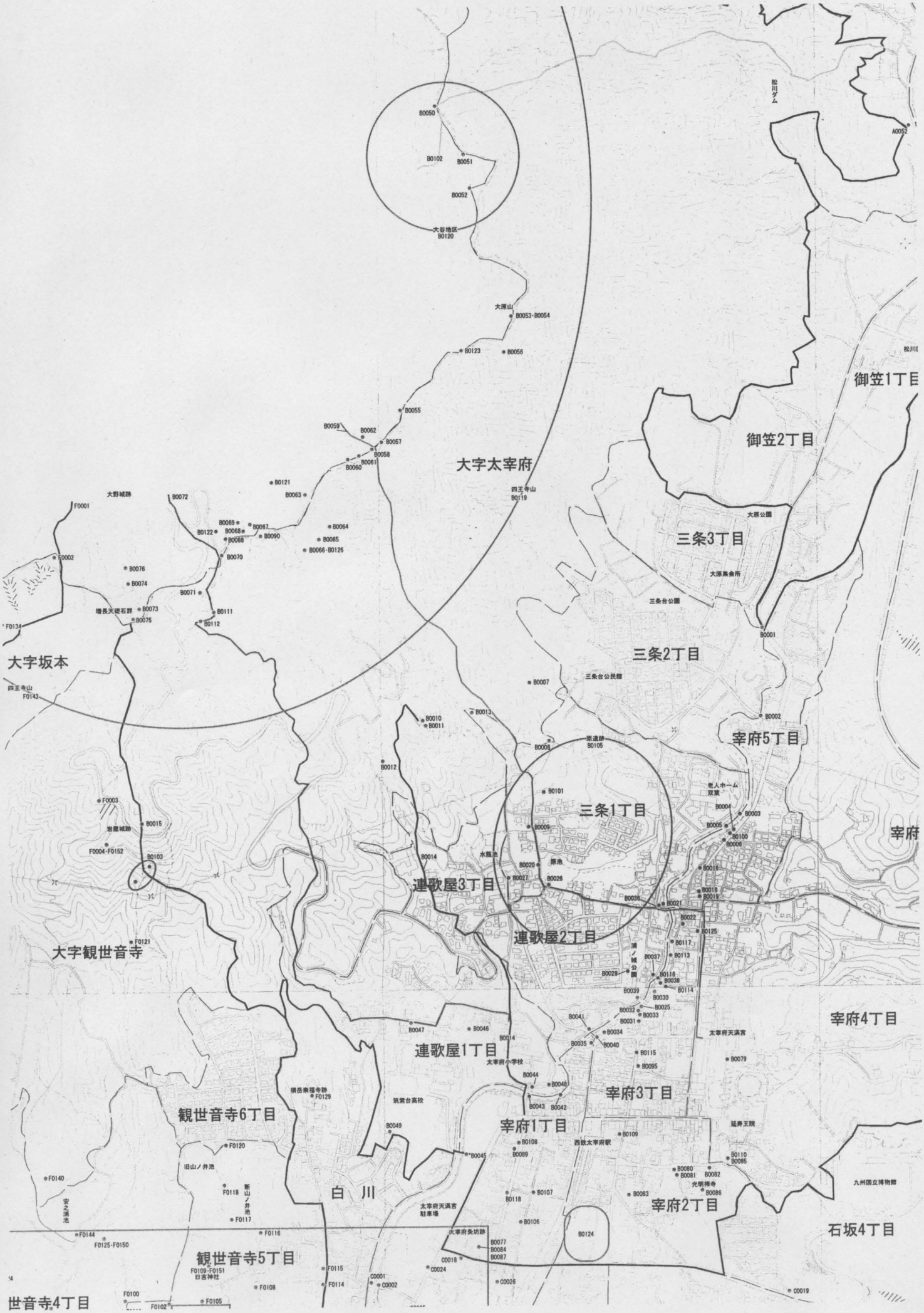


図6.B地区文化遺産位置図

名称 **三浦橋**

登録番号 B0001 現代

所在場所 **宰府5丁目**

宰府5丁目を流れる御笠川に架かる橋で、現在の橋は、昭和55年(1980)5月に完成したもの。太宰府と宇美を結ぶ県道35号筑紫野-古賀線が通っている。交通量の増加に併せて道路拡幅が行われており、橋梁の片側には銘板が無い。

名称 **普賢橋**(ふけんはし)

登録番号 B0002 現代

所在場所 **宰府5丁目**

宰府5丁目を流れる御笠川に架かる橋。宰府地区と三条地区を結ぶ橋で、三条台の入口にあたる。現在の橋は昭和46年(1971)4月に完成したものである。

名称 **高砂橋**

登録番号 B0003 現代

所在場所 **宰府6丁目**

宰府6丁目を流れる御笠川に架かる橋で、昭和46年(1971)4月に完成。宰府地区から老人ホーム双葉への出入り口となっている橋である。現在は高砂橋という名称だが、以前は「幸の元橋」と呼ばれていたという。

名称 **三浦潮井碑**

登録番号 B0004 近代

所在場所 **宰府5丁目**

三浦とは紀伊の和歌浦、伊勢の二見ヶ浦、筑前の箱崎浦のことで、その「御潮井」で、川の水を清め、太宰府天満宮参詣の人々が身を清めた。しばらく行方不明となっていたが、平成15(2003)年に起きた豪雨災害の復旧工事の際、三浦橋より上流の高砂橋付近で見つかった。

名称 **幸の元井堰取水口跡**

登録番号 B0005 古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 **宰府5丁目・三条1丁目**

連歌屋・馬場・新町・大町・五条などの水田灌漑のため、御笠川から取水する井堰。取水した水は、古くから天満宮門前町の生活用水や防火用水も兼ね、江戸時代には幾度も修復工事が行われた記録が残っている。平成15年(2003)の水害により、現在は使用されていない。

名称 **板碑**

登録番号 B0006

所在場所 **宰府5丁目**

県道筑紫野古賀線の傍らにあるムクノキの根元に祀られた板碑。地蔵様と呼ばれている。

B地区

名称　普賢菩薩堂

登録番号 B0007　古代　現代

所在場所 太宰府

太宰府市三条の普賢山山頂にあり、弘仁9(818)年に伝教大師、または智証大師の創立と伝えられている。筑紫国第99番札所にもなっている。

名称　庚申天

登録番号 B0008　近世

所在場所 三条2丁目

天保期(1830～1843)建立の可能性がある。高さ150cmを測る石製の庚申天。

名称　天原山安楽寺太宰府天満宮 検校坊墓所

登録番号 B0009

所在場所 三条1丁目

天原山安樂寺(太宰府天満宮)の社家、味酒安行の子孫「検校坊」の墓所。検校坊は太宰府天満宮を創始した味酒安行の次男を始祖とする宮司(みやじ)で、本殿の宿直を勤め、更衣祭などの役職を担っていた。

名称　水瓶山(雲龍神)祠と石

登録番号 B0010　中世　現代

所在場所 太宰府(水瓶山)

水瓶山は雨乞い祈願(リョウアゲ)が行われている大切な場所で、この祠はその行事に関わる一族の方が昭和61年頃に建てられたもの。以前は法華曼荼羅の板碑が山頂に建てられているだけであったが、祠が建立された後は祠内に大切に祀られている。

名称　善五郎稲荷祠(中宮)

登録番号 B0011　現代

所在場所 三条1丁目

黒岩稲荷神社の末社として昭和60年(1985)建立されたものである。砂防ダム右岸に鳥居がある。また、水瓶山には祠も所在している。

名称　四王寺山三十三石仏　第1番札所

登録番号 B0012　近代　現代

所在場所 太宰府(水瓶山)

四王寺山を巡る三十三石仏の札所。現在、お堂内には如意輪観音菩薩座像が2体並んで祀られているが、向かって左側は昔から伝えられているもので「一番　太宰府　施主　柴田市次」と銘が残されている。一方、向かって右側は真龍雲寺の前堂主が、昭和の初め頃に建立。

名称 **黒岩稲荷神社**

登録番号 B0013　近代 現代

所在場所 **三条1丁目**

博多区吉塚の「善門稲荷大明神」（吉塚校区の文化財）が伏見稲荷神社の本山で、明治初期に堅粕地区の武家屋敷（松岡家）に尊座されたとの記述がある。本家横の石鳥居に「明治15年」とあることから同時期に黒田藩（松岡家）より当地に分霊され祀られたのではないかと思われる。

名称 **龍上げの道**

登録番号 B0014

所在場所 **連歌屋3丁目**

水不足の折、雨乞いの儀式として龍上げを行った。その際通る天満宮から水瓶山への道が、「龍上げの道」と呼称されている。昭和61年の市民まつりの際、復原された。

名称 **岩屋城跡**

登録番号 B0015　中世

所在場所 **太宰府**

四王寺山地南腹に築かれた戦国期の山城跡。15世紀半ばより、大内氏の御笠郡代が在城する地域支配の拠点。天正14年7月、九州制圧を目指す島津軍の攻撃に対して高橋紹運は籠城して戦い、城兵と共に壮絶な討死を遂げた。現在、本丸跡に石碑、二の丸跡に紹運の墓がある。

名称 **夜泣き石地蔵堂**

登録番号 B0016

所在場所 **宰府5丁目**

平たい石があり、その上に夜泣きの赤ん坊を寝かせると夜泣きがなおるといわれている。

名称 **石灯龍**

登録番号 B0018　近世

所在場所 **宰府5丁目**

寛政12年（1800）12月に、宿坊真寂坊を通して宗像郡津屋崎と田野村の人が寄進した石灯籠。

名称 **恵比寿神**

登録番号 B0019　近世

所在場所 **宰府5丁目**

慶応3（1867）年。全高125cmを測る線刻の恵比寿さま。吉嗣梅仙（よしつぐ　ばいせん）の筆。

B 地区

名称　原八坊本堂跡

登録番号 B0020　古代

所在場所 三条1丁目

四王寺山東部から南へ下る斜面一帯にあった天台宗の寺院、原八坊の中堂跡。原八坊(原山無量寺)は、四王院の別院で、延暦寺五代座主智証大師円珍の弟子達が八つの坊を開き、その中心となる本堂、中堂、宝塔などを建てたと伝えられる。

名称　普賢道路修繕費寄付表

登録番号 B0021　近代

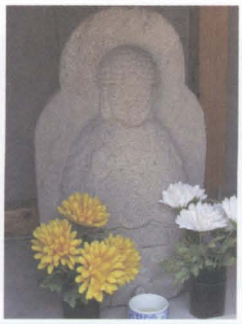
所在場所 三条1丁目

大正7(1918)年、三条普賢の道路を改修した時の寄付者の名前記した記念碑。

名称　薬師如来堂

登録番号 B0022

所在場所 宰府3丁目



木造トタン葺の祠の中に石製の薬師如来様が祀られている。

名称　毘沙門堂

登録番号 B0025　現代

所在場所 宰府3丁目

連歌屋橋の畔にある小祠。阿弥陀三尊板碑などを集合して祀る。祠は昭和59年建立。

名称　水瓶山道標

登録番号 B0026

所在場所 三条1丁目

昔雨乞いの行われた水瓶山に向かう道標。

名称　慈母観音(子安観音)

登録番号 B0027　現代

所在場所 三条1丁目

昭和48(1974)年の水害による死亡者を供養するために建てられた慈母観音像。

名称 **浦之城公園**

登録番号 B0028　中世　近代

所在場所 **連歌屋2丁目**

浦ノ城は、中世期に少貳氏(武藤氏)の居城として築城。史跡の一部にある連歌屋区の公園。

名称 **大日堂**

登録番号 B0030

所在場所 **宰府3丁目**

連歌屋橋側の小祠。大日如来の梵字のある自然石、お大師様等を祀る。かつて祭日に奥岩淵組が接待をしていた。筑紫第9番札所。

名称 **庚申塔**

登録番号 B0031

所在場所 **宰府3丁目**

現在は、鬼門除けに祀られている。

名称 **幸神天(庚申天)**

登録番号 B0032

所在場所 **宰府3丁目**

連歌屋橋の側にある庚申塔。表記されている字が変化し「幸神天」と記されている。

名称 **大日堂**

登録番号 B0033

所在場所 **宰府3丁目**

連歌屋橋たもとの小祠。木造トタン葺の祠内に自然石、板碑が祀られている。

名称 **大師堂**

登録番号 B0034

所在場所 **宰府3丁目**

浦之城橋のたもとに建立されている大師堂。なかに石造弘法大師(像高51cm)、板碑(高さ35cm)が祀られている。

B 地区

名称　猿田彦尊

登録番号 B0035　近世

所在場所 宰府1丁目

浦之城橋のたもとに建立されている猿田彦尊。天明2年銘(1782)が読み取れる。

名称　三條橋(さんじょうばし)

登録番号 B0036　現代

所在場所 宰府3丁目ほか

宰府地区・太宰府天満宮と連歌屋・三条地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。以前の橋は昭和9年(1934)に架けられたもので、「普賢橋」とも呼ばれていたという。現在の橋は昭和63年(1988)11月に建設されたもので、全体を木目調でつくり、欄干には擬宝珠の装飾がある。

名称　岩踏橋(いわふみばし)

登録番号 B0037　現代

所在場所 宰府3丁目・連歌屋2丁目

宰府3丁目と連歌屋2丁目を結ぶ橋。現在の橋は昭和53年(1978)1月に建設され、欄干には擬宝珠の装飾がある。昔は橋周辺の御笠川を「岩踏川」ともいい、清流が流れ、子供やお母さん達の集まる社交場であった。近年の水害や樹木伐採により、風景は様変わりしている。

名称　「岩踏川」の石柱

登録番号 B0038　近代

所在場所 宰府3丁目

明治16年(1883)4月に製作された石柱。高さ135cm程で、表面に「岩踏川」と刻む。当時の岩踏川は自然豊かな場所で、明治17年の刊行の吉嗣拝山の『太宰府二十四詠』にも名勝として記す。昭和48年の水害により流失し行方不明となったが、昭和53年頃再建されている。

名称　連歌屋橋(れんがやばし)

登録番号 B0039　現代

所在場所 宰府3丁目・連歌屋2丁目

宰府3丁目と連歌屋2丁目を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は昭和52年(1977)8月に建設されたもので、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。橋の宰府地区側には、大日堂と庚申塔が祀られている。

名称　浦之城橋石柱

登録番号 B0040　近代　現代

所在場所 宰府1丁目

四王寺山への登り口の浦之城橋にある石柱。表面に「浦之城橋」の刻銘があり、側面には橋の架け替えの記録が刻銘されている。記録からは明治14年(1881)5月に架橋、昭和2年(1927)と昭和21年(1946)に個人により架け替え、昭和25年(1950)に町営にて架け替えられた。

名称 **浦之城橋**(うらのじょうばし)

登録番号 B0041 現代

所在場所 **宰府3丁目・連歌屋2丁目**

宰府・連歌屋地区を流れる御笠川に架かる橋。岩屋城跡・四王寺地区・宇美町へと続く四王寺林道の入口でもある。現在の橋は昭和52年(1977)3月に建設されたもので、欄干は美しく朱に塗られ、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **醍醐橋**(だいごばし)

登録番号 B0042 現代

所在場所 **宰府1丁目・連歌屋1丁目**

平成8年(1996)3月に改築された、宰府地区と連歌屋地区を結ぶ橋。橋のすぐそばには大町公園・大町区公民館があり、御笠川の水辺へと下る広い石造階段も設けられている。

名称 **朝日橋**(あさひばし)

登録番号 B0043 現代

所在場所 **宰府1丁目・連歌屋1丁目**

宰府1丁目と連歌屋1丁目を結ぶ、御笠川に架かる橋。太宰府小学校への入口にあたり、平成3年(1991)3月に現在の橋が完成した。

名称 **朝日橋関連石柱三本**

登録番号 B0044 近代

所在場所 **連歌屋1丁目**

大正15年9月17日に鉄筋コンクリートの朝日橋が架けられた。当時としてはりっぱな橋であった。架けたのは「かわうそ屋」の永松圓次郎氏と伝えられる。平成3年、橋が新しくつけかえられる時、古い橋の親柱と寄進の碑が新しい橋の側に記念として残された。

名称 **建重寺橋**(けんじゅうじばし)

登録番号 B0045 現代

所在場所 **宰府1丁目・五条1丁目・連歌屋1丁目**

御笠川に架かる橋で、筑紫台高校と西鉄太宰府駅方面とを結ぶ。戦前の建重寺橋は、川の中央にあった花崗岩の杭に木を渡した丸木橋であったという。その後、筑紫台高校の創立に関連して昭和31(1956)年に架橋され、昭和51(1976)年3月に現在の橋へと架け替えられている。

名称 **平重盛の墓**

登録番号 B0046 中世

所在場所 **連歌屋1丁目**

太宰府小学校校庭にある平(小松)重盛の墓と伝える祠。祠には揚羽蝶の平氏の紋があり、「小松内大臣平重盛之墓・正安二年(1300)」と刻まれている。以前は、太宰府小グラウンド西半分が谷になり、その西側の崖の中腹にあった大きな松の木のそばにあったという。

B 地区

名称　庚申天

登録番号 B0047

所在場所 連歌屋1丁目

太宰府小校門前にある庚申塔。現在は宇美町へ移転。

名称　万葉歌碑（妹が見し…）

登録番号 B0048　現代

所在場所 連歌屋1丁目

大伴旅人（おおとものたびと）は、神亀4（727）年、奈良の都から大宰帥として赴任してきた。着任後間もなく妻を亡くし、その悲しみを部下にあたる筑前守（ちくぜんのかみ）山上憶良（やまのうえのおくら）が自らの悲しみのごとく感じて、この歌を奉った。日本挽歌の一つ。

名称　大師堂

登録番号 B0049　近世

所在場所 連歌屋1丁目

筑紫台高校正門脇から登った所にある小堂。四国17番札所から砂をいただいて代々祀る。文政十（1827）丁亥年八月建立。

名称　四王寺山三十三石仏　第18番札所

登録番号 B0050　現代

所在場所 市外（糟屋郡宇美町四王寺）

高さ48cmほどの凝灰岩に彫られた十一面観音菩薩座像が祀られている。また、台座は上下2段で、「第十八番十一面観音　三井郡北野町広木法蓮同行一同　昭和四十五年七月」と刻銘のある上部台座は新しく、「十八番」の刻銘が残る古い下部台座は建立当初のものと考えられる。

名称　四王寺山三十三石仏　第17番札所

登録番号 B0051

所在場所 市外（糟屋郡宇美町四王寺）

四王寺山三十三石仏の第17番札所には、2体の聖観音菩薩立像が並んで祀られている。向かって右側の聖観音菩薩立像には「桜馬場組　十七番　女講中」の刻銘が残されており、こちらが第17番札所の仏像であると思われる。

名称　四王寺山三十三石仏　第16番札所

登録番号 B0052

所在場所 市外（糟屋郡宇美町四王寺）

四王寺山三十三石仏の第16番札所には、高さ77cmほどの花崗岩に彫られた千手千眼観音菩薩立像が祀られている。また、「太宰府　冨美大夫母　十六番」という刻銘が残されている。

名称　**四王寺山三十三石仏　第15番札所**

登録番号 B0053

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺　持国天跡)**

四王寺山三十三石仏の第15番札所は、標高355mの大原山に位置している。高さ61cmほどの花崗岩に彫られた十一面観音菩薩立像が祀られており、「博多住」「十五番」などの刻銘が残されている。

名称　**四王寺山の井戸　持国天ノ井**

登録番号 B0054

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

増長天ノ井(鏡ヶ池)や広目天ノ井(ケイサシの井戸)とよく似た摺鉢状にくぼんだ場所が、持国天のあった大原山(355m)にある。このくぼ地は烽火場の跡だといわれているが、くぼ地の底を発掘調査すると他の3ヶ所の井戸と同じような石組みの井戸が現れそうである。

名称　**四王寺山三十三石仏　第13番札所**

登録番号 B0055

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

四王寺山三十三石仏の第13番札所には、高さ61cmほどの花崗岩に彫られた如意輪観音菩薩像が祀られている。「十三番　宰府　六助」という刻銘が残されている。

名称　**四王寺山三十三石仏　第14番札所**

登録番号 B0056

所在場所 **太宰府(四王寺山)**

四王寺山三十三石仏の第14番札所は、大原山の南に位置しており、高さ48cmほどの花崗岩に彫られた如意輪観音菩薩像が祀られている。

名称　**四王寺山三十三石仏　第12番札所**

登録番号 B0057　近世

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

高さ61cm程の凝灰岩に彫られた千手観音菩薩座像が祀られている。少し青みがある彩りと、穏やかな中にみえる凛とした表情は、参拝者の間でも大変人気が高い。また、観音像周辺の自然石には刻銘があり、十数名の人々によって寛政12年(1800)8月に建立された。

名称　**四王寺山三十三石仏　第11番札所**

登録番号 B0058

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。第11番札所には、高さ49cmほどの水成岩に彫られた聖観音菩薩座像が祀られている。また、「十一番　太宰府」の刻銘も残されている。

B 地区

名称　三条・天満宮方面への仕事道

登録番号 B0059　近代 現代

所在場所 太宰府(四王寺山)

昭和40年代迄(四王寺林道が完成する迄)四王寺村落より太宰府三条方面、天満宮方面へ主に女性が仕事のため通ったと言われる道。

名称　四王寺山三十三石仏　第9番札所

登録番号 B0060

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。それらのうち第9番札所は一番西にあるもので、一部欠損しているが、高さ39cmほどの花崗岩に彫られた不空羂索観音菩薩座像が祀られている。

名称　四王寺山三十三石仏　第10番札所

登録番号 B0061

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。第10番札所には、高さ72cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られている。

名称　四王寺山のビューポイント 6

登録番号 B0062　現代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

大野城東側の土塁線、焼米ヶ原と持国天跡のほぼ中間点にあたる小高い丘の上から眺めた景色。北には遠く博多湾が広がり、北東から南東にかけ若杉山～砥石山～三郡山～宝満山の山並みが圧倒的な存在感を示しており、宝満山が最もよく見える場所である。

名称　四王寺山三十三石仏　第8番札所

登録番号 B0063

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第8番札所は、焼米ヶ原の東方に位置している。高さ79cmほどの花崗岩に、聖観音菩薩立像が彫られている。

名称　四王寺山三十三石仏　第2番札所

登録番号 B0064　近世

所在場所 太宰府(水瓶山)

四王寺山三十三石仏の第2番札所は、水瓶山から九州自然歩道を登り四王寺山を目指すと、四王寺山を巡る土塁線に至る手前の斜面に祀られている。高さ96cmほどの花崗岩に聖観音菩薩立像が彫られており、刻銘から寛政12年(1800)に建立されたことがわかる。

名称　**四王寺山三十三石仏　第3番札所**

登録番号 B0065　近世

所在場所 **太宰府（水瓶山）**

第3番札所は、四王寺山三十三石仏で唯一の磨崖仏。花崗岩の石壁には千手千眼観音菩薩立像が彫られ、右上には梵字も残る。付近では文化遺産調査中に江戸期の通貨「寛永通宝」が見つかり、江戸時代に霊場巡りをして祈りをささげた人々の面影を今に伝えてくれる。

名称　**四王寺山三十三石仏　第4番札所**

登録番号 B0066

所在場所 **太宰府（水瓶山）**

第4番札所は2番・3番と並ぶようにあり、高さ68cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られている。

名称　**四王寺山三十三石仏　第7番札所**

登録番号 B0067

所在場所 **市外（糟屋郡宇美町四王寺　焼米ヶ原）**

四王寺山三十三石仏の第7番札所は焼米ヶ原に位置している。背面は欠落しているが、高さ46cmほどの花崗岩に如意輪観音菩薩座像が彫られている。

名称　**四王寺山三十三石仏　第5番札所**

登録番号 B0068

所在場所 **市外（糟屋郡宇美町四王寺　焼米ヶ原）**

台座の石に、刻銘「四王寺　五番　若者中」とある。自然石の上に千手観音菩薩が置かれているが、本来は5番札所の菩薩様ではない可能性がある。

名称　**四王寺山三十三石仏　第6番札所**

登録番号 B0069

所在場所 **市外（糟屋郡宇美町四王寺　焼米ヶ原）**

四王寺山三十三石仏の第6番札所には、現在、三宝荒神が祀られている。札所を示す表示札の関係で、現在は「六番札所」となっているが、本来は違う石仏が祀られていたと考えられている。

名称　**四王寺山のビューポイント 5**

登録番号 B0070　現代

所在場所 **太宰府（四王寺山）**

焼米ヶ原一帯の土塁線上。東に背振・九千部山、正面南に基山、その奥に耳納の山々が長々と連なっている。さらに東の方には古処山が大根地山の後ろに望遠でき、宝満山群へと続いている。視界が開けたこの場所は、元日早朝御来光を拝む人々で埋め尽くされる。

B 地区

名称　岩屋城合戦 関連石造物 1

登録番号 B0071　近代

所在場所 太宰府(四王寺山 大野城焼米ヶ原)

大野城の土塁上、岩屋城の水ノ手上砦付近に建立されている石碑。戦国時代の天正14年(1586)に行われた岩屋城合戦で討ち死にした、高橋紹運の家臣村山刑部以下68名を記したものである。石碑には高橋紹運の辞世句と建立者の方々の名前が刻まれている。

名称　旧太宰府町道

登録番号 B0072　近代 現代

所在場所 太宰府(四王寺山)

四王寺村から太宰府中心部への約4kmの山道で、古地図には「太宰府町道」とある。太宰府小学校へ通う四王寺村の子供達が使う通学路として賑やかな日常風景がみられた。2011年1月30日に、太宰府市民遺産第3号として認定。

名称　四王寺山三十三石仏　第32番札所

登録番号 B0073

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺　増長天礎石群)

四王寺山三十三石仏の第32番札所は、増長天跡に位置している。高さ79cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られており、台座には「三十二番」の刻銘が残されている。

名称　四王寺山三十三石仏　第31番札所

登録番号 B0074

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第31番札所は、増長天跡の北方に位置している。高さ50cmほどの花崗岩に彫られた聖観音菩薩立像が祀られている。台座には「寅歳女性　三十一番　亥歳女性」の刻銘が残され、現在でも子供を守って下さる神様として信仰されている。

名称　四王寺山の井戸　増長天ノ井

登録番号 B0075

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 増長天跡)

山上にあるにもかかわらず、常に水が湧き出ていて、今だかつて一度も涸れたことのない井戸。摺鉢状の底に井戸が石垣で丸く組まれ、戦後しばらくまでは四王寺村の人達により雨乞いの井戸掃除が行われていたという。ここの水は水瓶山で行われた雨乞いにも使用されている。

名称　ヌノハエ石(推定)

登録番号 B0076

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山33石仏の31番札所(聖観音菩薩)からセンターの方へ50mほど下った場所にある大石。「旧蹟全図」に描かれている位置と現状が一致することから、この大石が「ヌノハエ石」と推定される。斜面から露出している部分だけでも、3.5m×6.1m×高さ1.5mの大きさ。

名称 **岩屋城合戦犠牲者追悼伝要**

登録番号 B0077

所在場所 **宰府1丁目**

天正14年(1586)の岩屋城合戦での犠牲者の供養のため、毎年7月27日に行われる法要。御子孫や関係者、関心のある方々が、岩屋城へ御参りした後、太宰府市新町の西正寺(岩屋山)にて法要と懇親会を行っている。古くから代々行われ、50年毎に大きな法要を行っている。

名称 **八朔の千燈明**

登録番号 B0079　近世 近代 現代

所在場所 **五条1丁目(五条公民館)～太宰府天満宮**

江戸後期に流行病が発生した際、太宰府天満宮に祈願したところ病人が出なくなった。このため八朔の夜(9月1日)に天満宮へお礼の御参りを行い、御祓いを受け、人々の無病息災を願い、楼門前から燈明を奉納する行事。2011年1月30日に市民遺産第2号に認定。

名称 **染川(藍染川)**

登録番号 B0080

所在場所 **宰府2丁目**

光明寺の北側を東西に流れる小川。中務頼澄と梅壺との恋愛悲話が残る小川として古来から名所として知られ、歌枕として平安時代の『伊勢物語』『後撰和歌集』『拾遺和歌集』など多くの和歌に詠み込まれている。

名称 **伝衣塔(でんえとう)**

登録番号 B0081　中世

所在場所 **宰府2丁目**

渡宋天神伝説にまつわる塔。菅神は、博多の承天寺の鉄牛和尚(梅千代)の枕元に、禅師から賜った僧袈裟を持って現われ、これを一所に収めてほしいと頼まれた。その告の通り太宰府の岩崎(藍染川のそば)の場所に収めて伝衣塔を立て、鉄牛和尚は横に「神護山光明寺」を開山。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 B0082　近世

所在場所 **宰府2丁目**

光明寺前にある猿田彦石神。銘文　文久四(1864)年甲子年／正月吉日。総高111㎝。

名称 **旗立石**

登録番号 B0083

所在場所 **宰府2丁目**

馬場公民館敷地内にある旗立石。2本立っているが年号、銘文はコンクリートで塗りつぶされている。

B 地区

名称 板碑

登録番号 B0084

所在場所 宰府1丁目西正寺

西正寺の境内にある板碑。由来等は、不明。

名称 庚申尊天

登録番号 B0085　近世

所在場所 宰府4丁目

銘「文化四(1807)丁卯歳」／「昭和七(1932)年十月吉日補修」、総高120㎝。大黒神社と同じ敷地。

名称 光明寺石庭

登録番号 B0086　現代

所在場所 宰府2丁目

光明寺は「九州石庭苔寺」といわれ、49種の苔を用いて造られた枯山水の庭園で有名。庭園は、光明寺住職橋本節道師の依頼により重森三玲が1957(昭和32)年夏に、渡宗天神の縁起発祥地であるこの地に、菅公が海を渡り中国に行ったという伝説をもとに作庭したもの。

名称 石塔

登録番号 B0087

所在場所 宰府1丁目西正寺

西正寺の境内にある宝篋印塔を浮彫にした石塔。由来など詳細は不明である。

名称 座頭の塔(玄清法印墓)

登録番号 B0088　近世

所在場所 市外(宇美町四王寺)

四王寺山の一角に建立されている石碑。「玄清法印之墓」と刻まれていて、土地の人は「座頭の塔」と呼ぶ。天保5(1834)年再建とある石碑は、玄清法印の一千年忌に因んで新しく建立された。

名称 新町

登録番号 B0089

所在場所 宰府1丁目

太宰府市の地名の一つ。古くは大町の内であったが、独立して新町とした。地名の由来は、太宰府天満宮の門前町として新しい町なので、新町と呼ばれるようになったといわれる。明治18年の大火で大部分が焼失するが、その後町並みは再建されている。

名称 **太宰府口城門跡**

登録番号 B0090　古代

所在場所 **太宰府**

大野城の南側に二重になっている土塁の外郭土塁に設けられ、両側は石垣(水の手石垣)で固められている。門礎は約5.4mの間隔をおいて2列平行し、両方とも門礎には円形柱座、方立柱の孔があり、北側のみ扉軸受孔を持つ門礎がある。

名称 **恵比寿神**

登録番号 B0095　近世

所在場所 **宰府3丁目**

この恵比寿様は、文化7(1810)年に建立され、旧小野(小鳥居小路)上組により商売繁昌の神として祀られてきた。現在は小鳥居小路えびす会が組織されている。祭日は、12月3日で、祭りの準備は「座元」で行い、古くはお参り後、戸主が座元の家にて朝座・昼座が行われる。

名称 **くりはい箸**(くりあい箸)

登録番号 B0098

所在場所 **宰府地区**

「ものごとのくりあいがよくなるように」「やりくり上手になるように」との願いから、山の栗の木を切ってきて年の暮れに作った箸を、元日の朝から小正月まで使う風習。太宰府では、栗幣箸と書いて“くりあいばし”と言う。両端を削り、握る部分のみ皮を残す。

名称 **梅ヶ枝餅**

登録番号 B0099

所在場所 **太宰府市内**

ある老婆が、不遇の菅公を慰めようと、時折餅を差し上げたとも、また、菅公の死後、梅の一枝を添えて餅を柩に捧げたのが始まりともいわれる。焼き餅とも呼ばれ、天満宮参詣のお土産になっている。焼き餅二つの間に餡を挟み食べることもある【右写真】。

名称 **板碑**

登録番号 B0100

所在場所 **宰府5丁目**

高さ65cmを測るもので、自然石様を呈している。

名称 **原八坊中堂跡**

登録番号 B0101　古代

所在場所 **三条1丁目**

四王寺山東南麓一帯にあった天台宗の寺院、原八坊の中堂跡。原八坊は、四王院の別院で、延暦寺五代座主智証大師円珍の弟子達が八つの坊を建て、その中心となる本堂、中堂、宝塔などを建てたと伝えられる。完成は天安2(858)年とされ、原八坊の起こりである。

B地区

名称　松川道（まつごうへのみち）

登録番号 B0102

所在場所 御笠（松川地区）・市外（糟屋郡宇美町四王寺）

太宰府市御笠の松川地区から登り、四王寺山の土塁線上のある四王寺三十三石仏の第18番札所付近へと至る道。四王寺と大宰府を結ぶ生活の道として、また三十三石仏や毘沙門天詣りなど信仰の道として多くの人々に利用された。

名称　岩屋磨崖石塔群

登録番号 B0103　中世

所在場所 太宰府

四王寺山南斜面で高橋紹雲胴塚から降りた所にある磨崖石塔群。岩盤を利用して陽刻された石塔が並んでいる。鎌倉時代後半から室町時代にかけての頃に、この地域一帯での盛んな宗教活動がうかがえる資料。

名称　原遺跡

登録番号 B0105　原始　中世

所在場所 三条1丁目ほか

太宰府市の小字原・水瓶・醍醐・普現・幸ノ元・建重寺・岩淵・梅ヶ谷の地域に広がる遺跡群である。中世の原山無量寺跡および諸坊跡が全体に広がり、12世紀の経塚も発見されている。その他旧石器や縄文時代早期の遺物なども発見されている。

名称　薬師如来・伝教大師・弘法大師

登録番号 B0106

所在場所 宰府１丁目

宰府1丁目で祀られている薬師像と二体の大師像。それぞれ別の場所にあった御像だが、再開発や土地の所有者の変更などにより、現在地に三体併せて祀るようになった経緯がある。由来など詳細は不明である。

名称　弘法大師・地蔵様

登録番号 B0107

所在場所 宰府1丁目

宰府1丁目で祀られている弘法大師と地蔵様。詳しい由来などは不明であるが、昔から祠に入れて大切に祀られてきたので御像の状態は良好である。昭和45年頃までは近所の10軒位が持ち回りで、4月にお祭りを行っていたという。

名称　えびす様

登録番号 B0108

所在場所 宰府1丁目

新町一組の人々によって祀られている線刻の恵比寿さま。以前は12月3日に当番持ち回りで体や紅白の鏡餅などを供えて、えびす祭りが行われていた。現在、祭りなどは行われていないが、初詣の人々がお参りする姿が見受けられる。

名称 **恵比寿像(線刻)**

登録番号 B0109

所在場所 **宰府2丁目**

旧溝尻(錦町)上組により商売繁盛の神として祀られている。12月3日の恵比寿祭には当番の家が供物を準備しお飾りをしていた。当番渡しでは恵比寿像(萱島鶴栖筆)の掛軸と献立表が新旧の当番間で引き渡されていた。

名称 **大国神社**

登録番号 B0110

所在場所 **宰府4丁目**

宰府4丁目に所在する大国神社。祭神として大国主命が祀られており、その温和な姿から家庭円満・災難除け・商売繁栄の神として信仰されている。

名称 **毘沙門天の鳥居**

登録番号 B0111 近代

所在場所 **太宰府(四王寺山)**

太宰府口城門跡を過ぎると見えてくる石造鳥居。太宰府からの毘沙門天参りの入口となる鳥居で、扁額には「毘沙門天王」と刻まれている。昭和10年(1935)に屋山軍兵衛氏が発起人となり建立されたもので、鳥居の石材は四王寺村近辺の石切場から運んだものと伝えられる。

名称 **水手(今、田アリ)**

登録番号 B0112

所在場所 **太宰府(四王寺山)**

太宰府口城門に続く石垣を「水の手砦」と称していた。今も石垣に水が流れており、古来、水確保のうえで重要な役割を果たしていたと考えられる。また、『太宰府旧蹟全図北』には、「今、田アリ」と記述があり、江戸時代にはその水を使い、田があった様子がうかがえる。

名称 **宰府の溝(1)ふれあい広場**

登録番号 B0113 現代

所在場所 **宰府3丁目**

平成15年(2003)の水害により幸の元井堰が壊れ、井堰からの取水は不可能となり、ポンプによる取水が行われるようになった。その整備に併せて、水辺公園としてふれあい広場が作られ、側の水路に設けられた堰礎には鯉や小さな川魚が泳いでいる。

名称 **宰府の溝(2)**

登録番号 B0114

所在場所 **宰府3丁目**

宰府地区を流れる幅75cm、深さ62cm程の溝。昔は溝端(みぞばた)とも呼ばれており、顔を洗ったり野菜を洗ったりなど、地域の人々の生活にとって大切な溝であった。

B 地区

名称　宰府の溝(3)小鳥居小路

登録番号 B0115

所在場所 宰府3丁目　小鳥居小路

幸の元井堰から取水して門前町を流れ、藍染川へと流れ込む用水路。小鳥居小路に沿って流れる部分には、花崗岩で蓋がされている。農業用水・灌漑だけでなく、門前町の生活用水や防火用水の役目を果たしており、人々にとって大変重要な水路であった。

名称　昔の洗濯場(岩踏川)

登録番号 B0116

所在場所 宰府3丁目

岩踏橋の下にある岩床。昔はここを「洗濯銀座」と言って、沢山の人が洗濯物を洗いに来ており、多い時は大人が10人程並んで洗っていた。当時は橋の横にある土管は無く、滝のようにきれいな水が流れ落ちていた。しかし、昭和48年(1973)の水害の際、岩床は破砕される。

名称　宰府の溝への取水場

登録番号 B0117

所在場所 宰府3丁目

御笠川から宰府の溝へ水を汲み上げる取水場。河床に大きなタンクを埋設し、中に溜まった水をポンプで宰府の溝に汲み上げている。自動で汲み上げるようになっているが、ポンプの管理は太宰府市から三条区の自治会長さんへ委託されている。

名称　庚申尊天

登録番号 B0118

所在場所 宰府1丁目

宰府1丁目に所在する庚申尊天。以前は大学生や高校生が水をあげて詣っていた。

名称　四王寺山　三十三石仏

登録番号 B0119　近世

所在場所 太宰府市・市外(糟屋郡宇美町四王寺)

江戸時代後期の寛政年間(1789～1801)、災害や凶事が続いた博多の人々が発起してつくられたという。石仏は四王寺山を一周する土塁線上を周回するように配置されており、「三十三石仏巡り」として参拝する人や、散策を楽しむ根強いファンをもっている。

名称　大谷

登録番号 B0120　近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺　大谷)

江戸時代に描かれた『太宰府旧蹟全図(北)』に記されている地名。現在の大谷地区は田園地帯が広がっており、四王寺周辺では最大の耕作地帯である。

名称 **鬼ノコシカケ**

登録番号 B0121

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

焼米ヶ原から尾根を大原山方面に5分程歩いた地点にある。この岩は「鬼の腰掛け伝説」の場所とされ、「1月7日の太宰府天満宮の鬼すべの夜、鬼がこの岩に腰かけて下を見ると、鬼すべ堂でひどい目に遭っている仲間の姿が見えて、涙を流した」という伝説がある。

名称 **大人足形(オオヒノアシガタ)**

登録番号 B0122

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺　焼米ヶ原)**

四王寺山の焼米ヶ原付近にある窪んだ一帯を『太宰府旧蹟全図北』では「大人足形」と記しており、地元の方によると以前は沼地であったという。巨人伝説に関連して「大人足」「大人足形」などの地名が全国各地に残されており、四王寺山のこの「大人足形」もその1つ。

名称 **ムマノセ**

登録番号 B0123

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

『太宰府旧蹟全図北』には「ムマノセ」と記され、「ムマ」は「馬」の古語読みで、「ムマノセ」→「ウマノセ」→「馬の背」と転じて、馬の背を意味する「馬のこうね」へと至る。ここは鞍部になっており、ここから大原山に駆け上がる土塁は素晴らしい風景を呈している。

名称 **奥園遺跡(おくぞのいせき)**

登録番号 B0124

古代 中世 近世

所在場所 **宰府1丁目ほか**

西鉄太宰府駅の南側に位置する遺跡。発掘調査から、縄文～奈良時代・平安時代後期・鎌倉～江戸時代という主に3面の遺構面が確認されている。

名称 **ヒトツバタゴ**

登録番号 B0125

所在場所 **宰府3丁目**

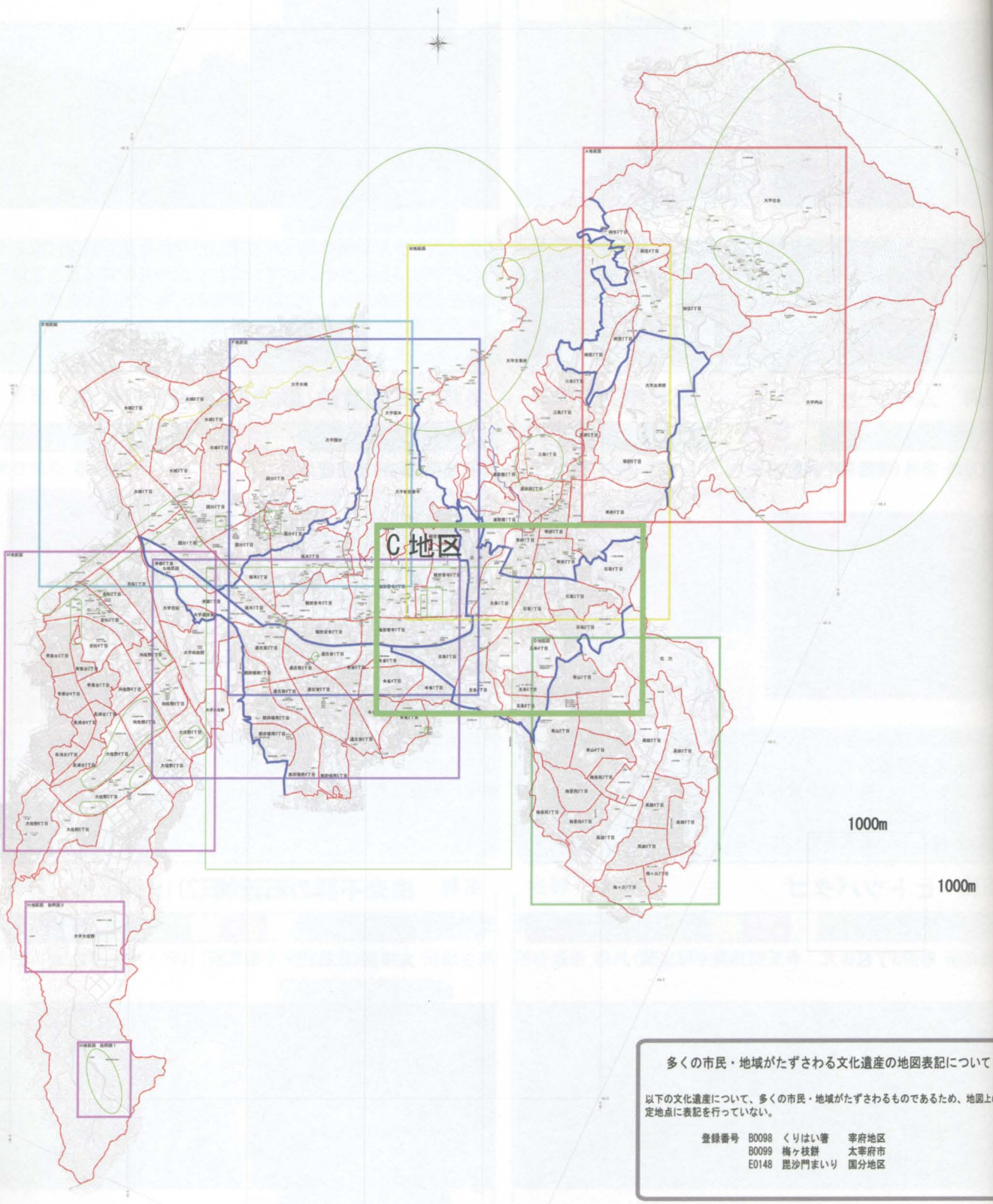
ヒトツバタゴは、モクセイ科ヒトツバタゴ属ので、別名ナンジャモンジャノキ。托葉を持たない単葉である事に名前は由来する。日本では長崎県対馬・岐阜県・愛知県に隔離分布する珍しい形態をとる。この木は、書家古賀井卿が対馬から頂いたものを譲り受けたものである。

名称 **由来不詳の石造物(2)**

登録番号 B0126

所在場所 **太宰府(水瓶山)**

四王寺三十三石仏4番札所前にある石造遺物。人工的に加工された跡があるが、何に使われたか不明。

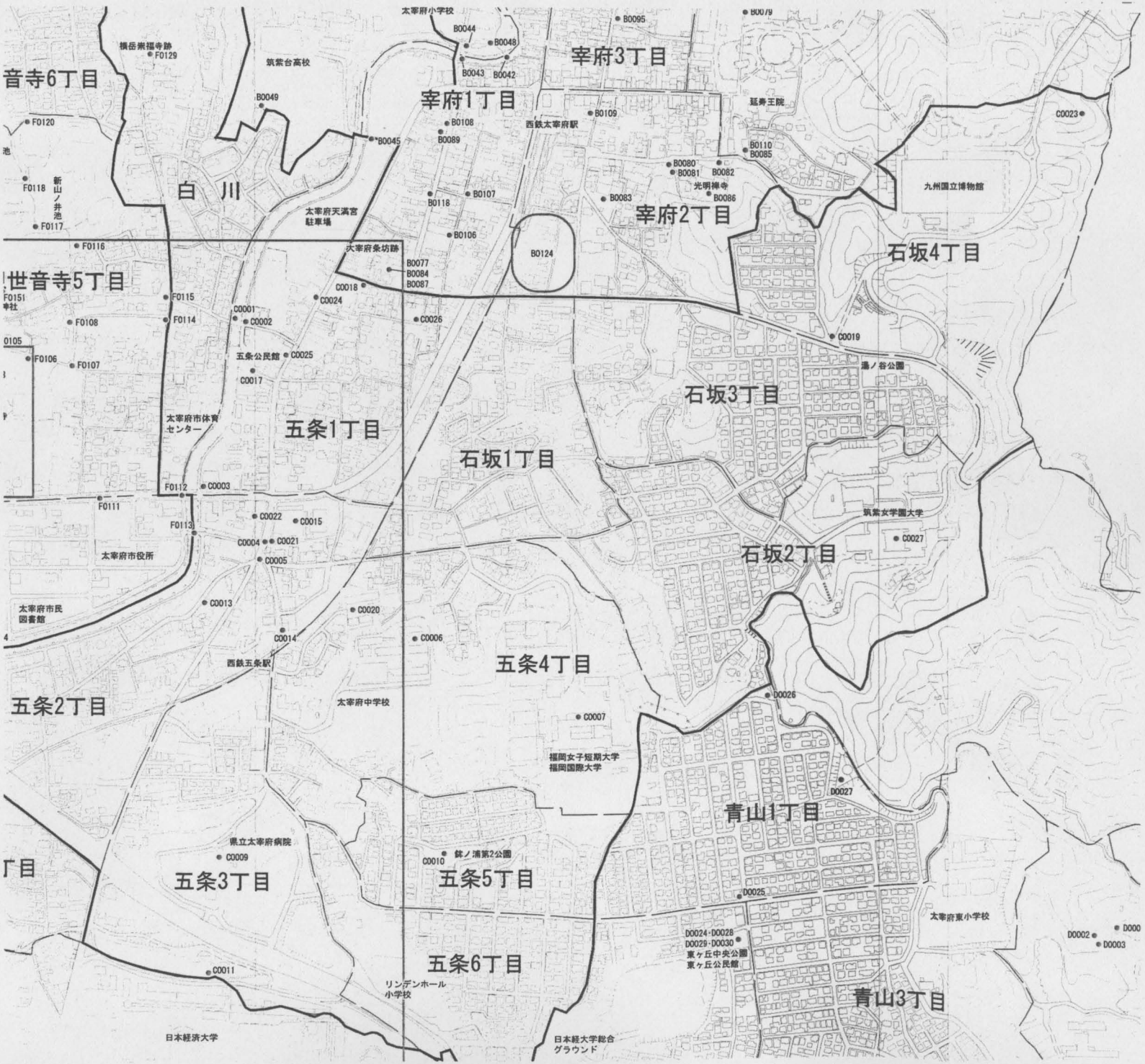


多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について

以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。

登録番号	B0098	くりはい箸	宰府地区
	B0099	梅ヶ枝餅	太宰府市
	E0148	毘沙門まいり	国分地区

図 7. C 地区位置図


音寺6丁目
世音寺5丁目
白川
宰府1丁目
宰府2丁目
宰府3丁目
石坂1丁目
石坂2丁目
石坂3丁目
石坂4丁目
五条1丁目
五条2丁目
五条3丁目
五条4丁目
五条5丁目
五条6丁目
青山1丁目
青山3丁目
太宰府小学校
筑紫台高校
横岳崇福寺跡
新山ノ井池
太宰府天満宮駐車場
太宰府条坊跡
西鉄太宰府駅
延寿王院
光明禅寺
九州国立博物館
湯ノ谷公園
五条公民館
太宰府市体育センター
太宰府市役所
太宰府市民図書館
西鉄五条駅
太宰府中学校
筑紫女学園大学
福岡女子短期大学
福岡国際大学
県立太宰府病院
鈍ノ浦第2公園
東ヶ丘中央公園
東ヶ丘公民館
太宰府東小学校
リンデンホール小学校
日本経済大学
日本経大学総合グラウンド

名称 **白川橋**(しらかわばし)

登録番号 C0001 現代

所在場所 **五条1丁目・白川**

五条1丁目と白川地区を結ぶ橋。以前は周辺に沢山のヤブカンゾウ(別名ワスレグサ)が咲いており、橙赤色の花が綺麗だったという。また、昭和50年(1975)頃までは建重寺橋付近にあった80～100cm程の洗濯石が近くまで流されてきていたが、近年なくなってしまったという。

名称 **「白川橋」の石柱**

登録番号 C0002 近代

所在場所 **五条1丁目**

表面に白川橋と刻まれた高さ162cmほどの石碑。明治15年(1882)に建立されたもので、側面には「区長平野正弘」をはじめ計12名の氏名が刻まれている。

名称 **三浦の碑(五条)**

登録番号 C0003 近世

所在場所 **五条1丁目**

文政13年(1830)に、伊勢の二見浦・紀伊の和歌之浦・筑前箱崎の浦の三浦のお潮井でこの地を清め、その行事の記念碑として建てられた碑。昭和48年の水害によってこの付近の護岸も流され、三浦の碑も流されてしまった。その後の改修工事によって、川底から発見。

名称 **五条小橋**(ごじょうこばし)

登録番号 C0004 現代

所在場所 **五条2丁目**

五条地区を流れる藍染川に架かる橋。五条駅入口交差点の北側に位置しており、県道35号線が通っている。現在の橋は平成16年(2004)3月に完成したもので、木製の欄干が特徴的である。昔はこの橋のそばに、太宰府への出入り口である五条の構口が存在していた。

名称 **梅大路の道標**

登録番号 C0005 近代

所在場所 **五条2丁目**

明治11(1878)年に建てられた道標。天満宮を中心とする宿場町の入口を示す、瓦葺で石垣の基礎を持つ「構え口」と呼ばれる施設があった。一説には、西南戦争の際、地理に不案内な官軍兵士のために建てられたとも伝えられている。

名称 **宇佐八幡宮祠**

登録番号 C0006 現代

所在場所 **五条4丁目(太宰府中学校)**

太宰府中学校敷地内にある石祠(写真右側)。昔この祠のある下町・鉾ノ浦あたりを府中宇佐町と呼んでいた。江戸時代に記された『筑前続風土記拾遺』には「このあたりがもと宇佐領であったので八幡宮を祀ったのであろう」とあり、そのまま産神となったと記している。

C地区

名称　福岡女子短期大学・福岡国際大学

登録番号 C0007　現代

所在場所 五条4丁目

福岡国際大学では、平成19年度より毎年春、公開講座「太宰府の歴史と文化」が開講されている。

名称　福岡県立太宰府病院

登録番号 C0009　現代

所在場所 五条3丁目(太宰府病院)

現況の建物は、平成13年全面改築されている。病院の敷地は、君畑遺跡、今川了俊居館跡と伝えられる。桜並木のアプローチ、樟の森が見事。太宰府市観光ルート(名木・巨樹巡礼1)のコースのひとつになっている。

名称　鉾ノ浦溜池築造之碑

登録番号 C0010

所在場所 五条5丁目(五条台公園内)

五条には鉾の浦と渡内に二つの溜池があったが、いずれも集合住宅ができてなくなった。

名称　日本経済大学

登録番号 C0011　現代

所在場所 五条3丁目(日本経済大学)

この地は、旧小字君塚にあたり、国道3号線により太宰府市五条から分断されたかたちになっている。

名称　血方持観音(ちけもちかんのん)

登録番号 C0013

所在場所 五条2丁目

醍醐天皇(897～930在位)の御代、宮成(みやなり)某の妻が血の道(婦人病)の病に苦しんでいたのを、菅原道真の助けにより治ったという。その後、妻が亡くなり墓所に石仏を祀ったところ、婦人病に霊験あらたかとの噂が広まり、病に悩む婦人達がお参りするようになった。

名称　山伏墓(五条)

登録番号 C0014

所在場所 五条2丁目

太宰府市五条にある高さ85cmの梵字を刻む自然石である。昔は太宰府中学校の北側に抜けて峯の薬師へ通じる田圃の畦道があって、やんぶし道と言われていた。新客の山伏などは長い期間の修行に耐えられず、途中で倒れる人がいた。その山伏たちを葬った所といわれている。

名称 **金掛天満宮**（水神・大黒天・天満宮）

登録番号 C0015　中世 近世 近代 現代

所在場所 五条2丁目

『金掛けの梅』の物語が伝わる天満宮。幕末、都落ちした五卿が太宰府滞在の折に、古川家を訪れた三条実美が詠んだ「金掛けの梅」の歌が残されている。

名称 **力石**

登録番号 C0017

所在場所 五条1丁目（五条公民館）

五条公民館にある大きさが横76cm、縦27cmほどの楕円形をした石。元々の位置は不明であるが、公民館建設の後に移動してきたものと考えられる。古老の話によると、昔、近所の若者が集まり力くらべをした石という。

名称 **井上哲次郎生誕地碑**

登録番号 C0018　近代

所在場所 五条1丁目

『教育勅語衍義』等で知られる、東京帝国大学哲学科教授の井上哲次郎生誕地に建つ石碑。東洋哲学の研究、西洋哲学の日本への紹介に多大な貢献をなし、国民道徳の提唱者としても知られる。

名称 **太郎左近社**

登録番号 C0019

所在場所 石坂4丁目（国博入口）

古くから病気・怪我を治す神徳がある神様として広く信仰されている。お社には手や足の型をした木型や「耳・耳・耳」と書かれた竹筒が数多く奉納されている。この木型で患部をなでると不思議に治るという信仰がある。毎月1日には斎行が行われている。

名称 **五条遺跡**

登録番号 C0020　中世

所在場所 五条4丁目、5丁目、6丁目

太宰府市五条4丁目から6丁目にかけて広がる遺跡。第1・2次調査のみの名称であり、以後は大宰府条坊跡に名称変更されている。

名称 **高橋構口跡**

登録番号 C0021　近世

所在場所 五条1丁目

博多方面からの太宰府入口に宝永7年（1710）に設置された構口で、1840年に製作されたと考えられている博多太宰府図屏風に、御笠川の東岸に石垣の上に白壁を造り、瓦を葺いている状況が描かれている。現在は、地上げされている。

C地区

名称　恵比寿像

登録番号 C0022

所在場所 五条2丁目

石面に恵比寿の種字が彫られた恵比寿。元来は、五条交差点にあった。

名称　清水谷トンネル

登録番号 C0023　近代

所在場所 石坂4丁目

明治27年に掘られたトンネルで、太宰府天満宮東側の馬場池ノ端から吉木に抜けるものであった。しかし工法の欠陥から陥没。また、大正5年に石坂峠の道路が更正竣工したため使用されなくなった。

名称　恵比寿像

登録番号 C0024　近世

所在場所 五条1丁目

五条1丁目に所在する恵比寿像。高さ89cmほどの石に恵比寿様が浮き彫りされている。石像に残された銘文から江戸時代後期の文化11年に建立されたことが分かる。戦後すぐ迄は毎年12月3日に鏡餅や御神酒、鯛を供えてお詣りをし、その後ちり鍋などにして皆で食べたという。

名称　神牛塚

登録番号 C0025

所在場所 五条1丁目

菅公の亡骸を乗せた牛が、力尽きてこの地で死んだのを憐れみ供養塚がつくられたという。「神牛塚」の碑は、大正14年に丑年の人達が還暦祝いに建立。この碑の後ろの自然石がもともとの「神牛塚」といわれている。

名称　大師様

登録番号 C0026

所在場所 五条1丁目

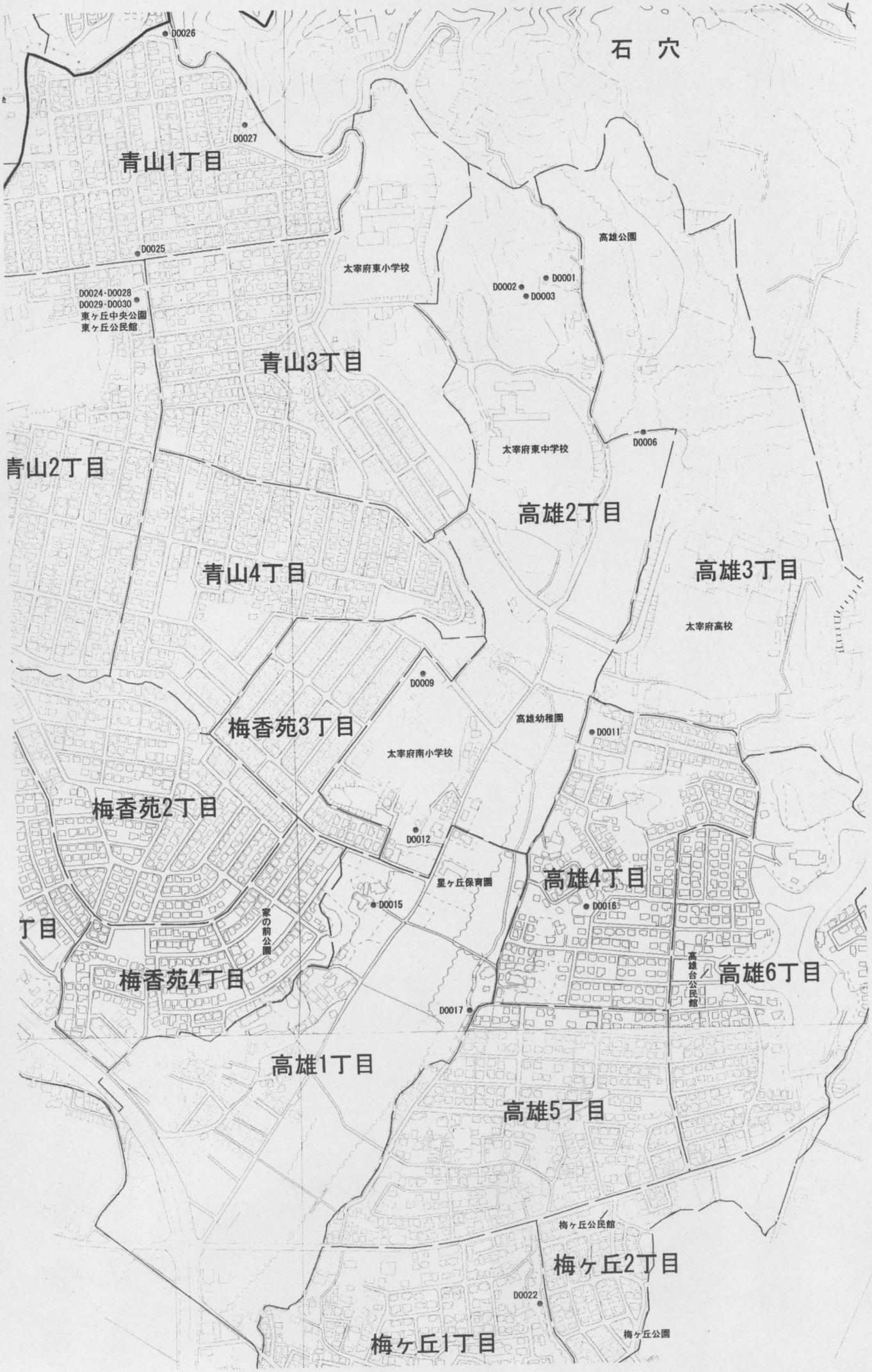
五条1丁目、雨乞い(アマコ)屋敷の東側に所在する大師堂。昔は雨乞いの儀式が行われていたという。年2回のお祀りが行われている。

名称　学校法人　筑紫女学園

登録番号 C0027　現代

所在場所 石坂2丁目　筑紫女学園

明治40年(1907)開校の私立筑紫高等女学校に始まり、浄土真宗の教えに基づく人間教育を建学の精神とし、「自律」「和平」「感恩」を校訓としている。昭和50年(1975)、太宰府市に短期大学キャンパスが移転。周辺を森林緑地に囲まれ落ち着いた環境で教育が行われる。


石 穴
D0026
D0027
青山1丁目
D0025
太宰府東小学校
高雄公園
D0001
D0002
D0003
D0024・D0028
D0029・D0030
東ヶ丘中央公園
東ヶ丘公民館
青山3丁目
太宰府東中学校
D0006
青山2丁目
高雄2丁目
青山4丁目
高雄3丁目
太宰府高校
D0009
高雄幼稚園
D0011
梅香苑3丁目
太宰府南小学校
梅香苑2丁目
D0012
星ヶ丘保育園
高雄4丁目
D0015
D0016
家の前公園
丁目
高雄台公民館
高雄6丁目
梅香苑4丁目
D0017
高雄1丁目
高雄5丁目
梅ヶ丘公民館
梅ヶ丘2丁目
D0022
梅ヶ丘公園
梅ヶ丘1丁目

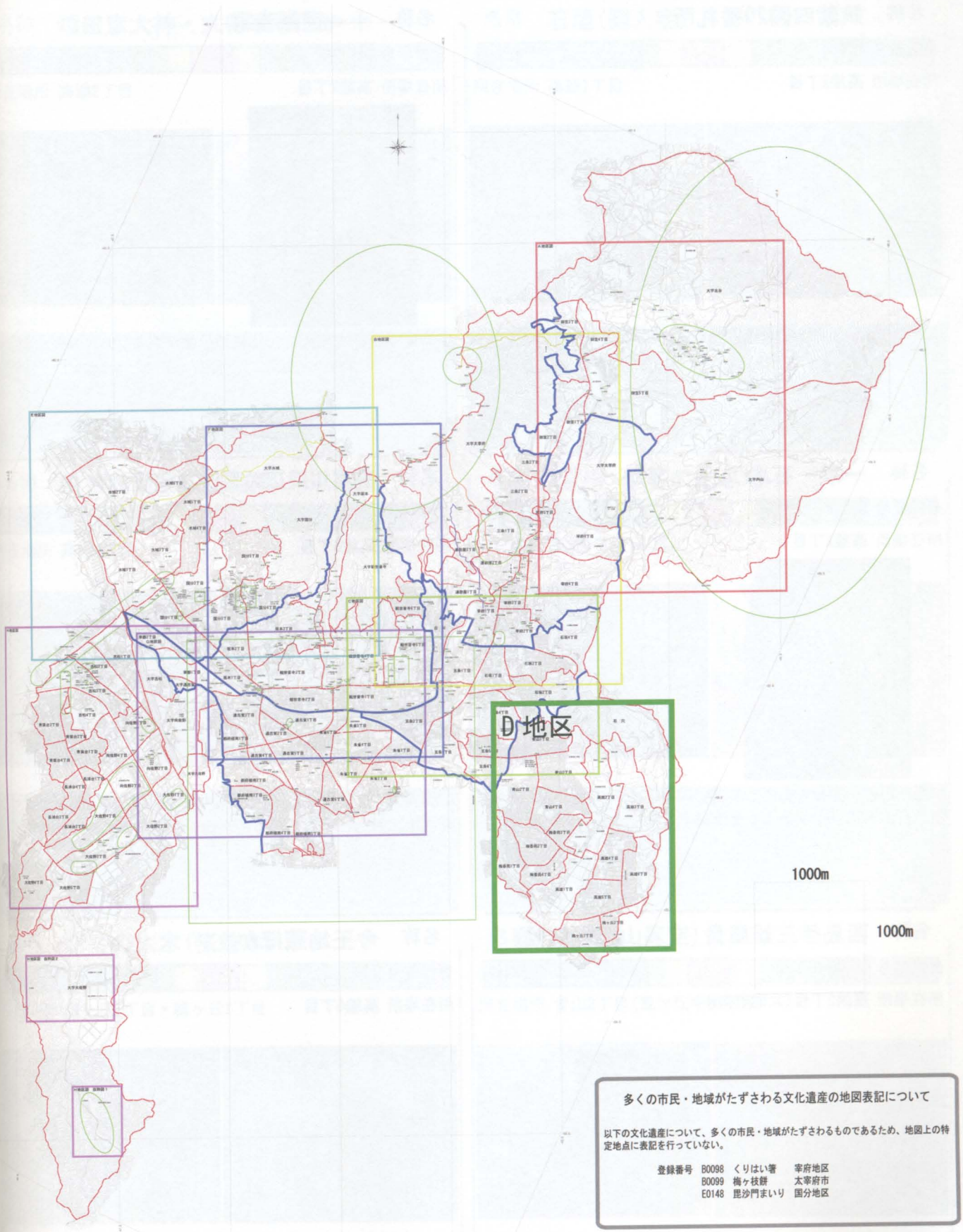

D地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい箸 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 10. D 地区位置図

D地区

名称　筑紫四国29番札所

登録番号 D0001

所在場所 高雄2丁目

山中のお堂。各所(自)から持ち込まれた仏像を、合わせ祀っている。

名称　十一面観音群

登録番号 D0002

所在場所 高雄2丁目

十一面観音を含めて、10体位の仏像がある。

名称　一字一石塔

登録番号 D0003

所在場所 高雄2丁目

お経の中の一字を一石ずつに書いて納めたものと伝えられる。自然石に「一字一石」と記されている。

名称　高尾川周辺の豊かな自然(1)

登録番号 D0006

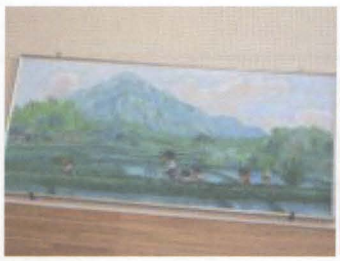
所在場所 高雄3丁目

ホタルの群生地。地元の人のみが知るホタルの名所。太宰府ゴルフ場から流れてくる用水路に生息。

名称　西島伊三雄風景(宝満山)画(油絵)

登録番号 D0009　現代

所在場所 高雄2丁目(太宰府南小)



題名「春」　西島伊三雄作。高雄から見た宝満山と子どもの風景。南小が建てられた(昭和52・1977年12月)時、PTAが寄贈。

名称　今王地蔵ほか

登録番号 D0011　現代

所在場所 高雄4丁目

昭和54年の団地開発時、現在地に移転したと考えられる地蔵。

名称　**猿田彦大神・大行事塔ほか**

登録番号 D0012　近世

所在場所 高雄2丁目

猿田彦大神に「天保七年丙申七月吉辰」の銘あり。以前(年代不明)は、この前で「お座」を開き、懇親していた。

名称　**石垣(個人宅)**

登録番号 D0015　近世

所在場所 高雄1丁目

江戸末期、先祖が五条の前田氏から庄屋として分家する時(開懇)福岡藩から築造してもらったと伝えられる石垣。

名称　**筑紫四国第12番札所**

登録番号 D0016

所在場所 高雄4丁目

札所お堂の中にお大師さま・不動明王・宝満山から担いできたという地蔵をまつる。昔はかなり大勢の御参りがあった。

名称　**鯉・ハヤ等の生息地**

登録番号 D0017　現代

所在場所 高雄1丁目(高尾川)

高尾川の中に鯉・ハヤが生息する溜まり場がある。散歩中に、「彼ら」の存在をいつも確認する。

名称　**グミの大木(桜並木)**

登録番号 D0022

所在場所 梅ヶ丘1丁目・梅ヶ丘2丁目

梅ヶ丘1丁目と2丁目の間に、桜並木とグミの大木が植樹されている。春先は桜が綺麗。

名称　**文庫部**

登録番号 D0024　現代

所在場所 青山2丁目(東ケ丘中央公園)

昭和49年春、有志数人で子供達のたまり場の様な文庫を作ろうと意気投合して作り上げたのが、子供文庫の始まり。この活動が市内に広がり、その後結成された文庫連絡協議会を中心に起こした図書館をつくる運動が実を結び、昭和61年11月市民図書館が開館した。

D地区

名称　街角と高台からの眺望

登録番号 D0025　現代

所在場所 青山1丁目・2丁目・3丁目

東山通りと東ケ丘通りの交差点は、東ケ丘区の中心点。東に向かうと太宰府東小学校で、朝には小学生が通る。

名称　街角と高台からの眺望

登録番号 D0026　現代

所在場所 青山1丁目

青山1丁目の高台からの眺望。高台より西方を望むと、山々が広がり絶景である。

名称　街角と高台からの眺望

登録番号 D0027　現代

所在場所 青山1丁目

青山1丁目の高台にある水タンクからの眺望。高台より西方を望むと、山々に沈む夕日が絶景である。

名称　東ケ丘だより

登録番号 D0028　現代

所在場所 青山2丁目(東ケ丘公民館)

現在月末に各戸に配布。「東ヶ丘たより」は、昭和62年8月15日に創刊、1回目の「東ヶ丘夏祭り」が企画され区挙げての行事を、主題として4ページ立てで発行。その後年に4回の発行を続け、時々の情勢から休刊・復刊を繰り返したが平成22年9月で69号を数える。

名称　夏祭り

登録番号 D0029　現代

所在場所 青山2丁目(東ケ丘中央公園)

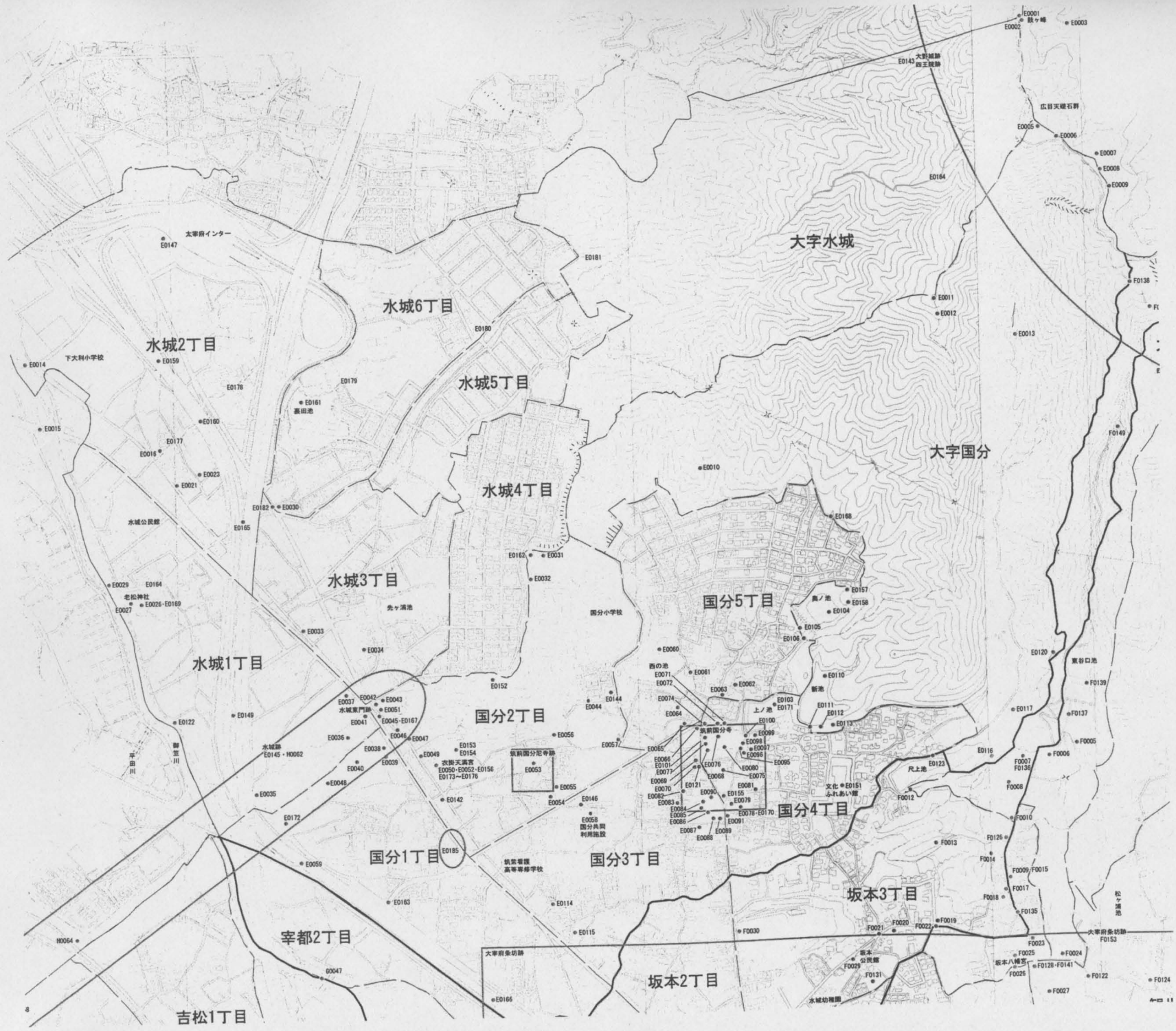
昭和49年(1974)に区が出来て以来、住民の輪を大切にしようと言う事で文化部の事業として、婦人部・子供会・老人会等に協力応援を頂き開催。昭和62年度に区の規約等が全面的に改正となり、これを機に今までの盆踊りが「区民夏まつり」となり区主催の事業として継続。

名称　東ケ丘団地簡易郵便局の開設

登録番号 D0030　現代

所在場所 東ケ丘2丁目

住民の強い要望により、昭和52年(1977)12月1日に開設された。当初は公園北側(スーパーに隣接)に建設され業務を行っていたがが、公園が整備される際に現在地へと移設されている。移設に際しては、丸太を転がして郵便局の建物自体をそのまま移転させている。


大字水城
大字国分
水城6丁目
水城5丁目
水城4丁目
水城3丁目
水城2丁目
水城1丁目
国分5丁目
国分4丁目
国分3丁目
国分2丁目
国分1丁目
坂本3丁目
坂本2丁目
宰都2丁目
吉松1丁目
太宰府インター
下大利小学校
水城公民館
老松神社
水城東門跡
水城跡
筑前国分寺跡
筑前国分尼寺跡
衣掛天満宮
国分小学校
筑紫看護高等専修学校
国分共同利用施設
文化ふれあい館
坂本公民館
坂本八幡宮
水城幼稚園
大宰府条坊跡
広目天磐石群
大野城跡四王院跡
鼓ヶ嶽
御笠川
平田川
松ヶ浦池
寛谷口池
尺上池
新池
上ノ池
西の池
先ヶ浦池
嘉田池
黒ノ池

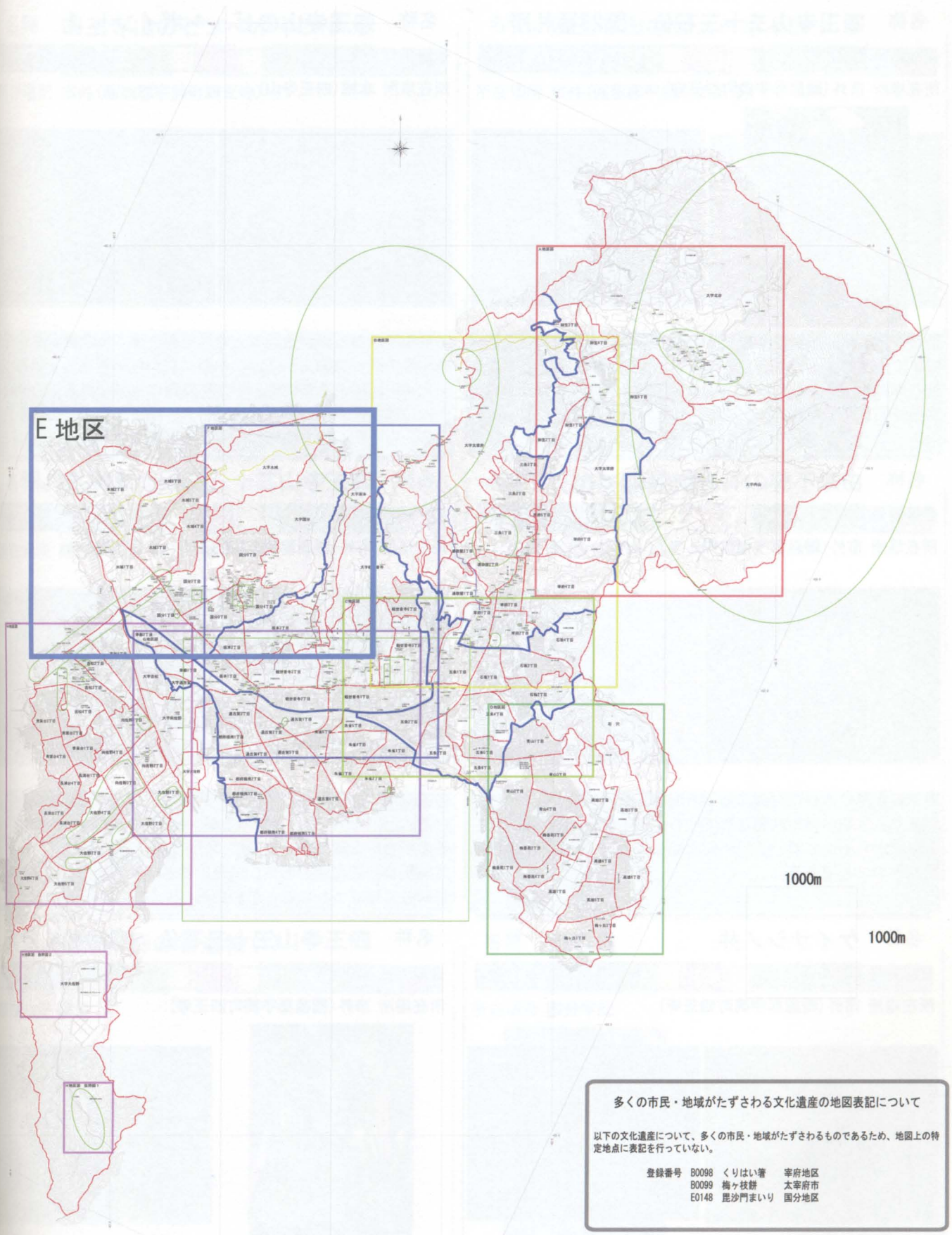

E 地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい箸 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 12. E 地区位置図

E 地区

名称　四王寺山三十三石仏　第26番札所

登録番号 E0001

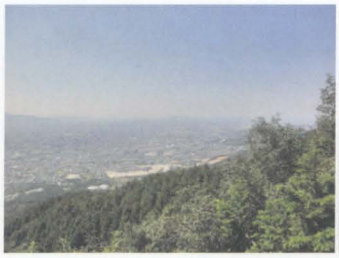
所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

第26番札所は鼓ヶ峰に位置しており、一帯は博多湾から基肄城まで一望できる素晴らしいビューポイントである。この絶景の地には、高さ63cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られている。

名称　四王寺山のビューポイント 1

登録番号 E0002　現代

所在場所 水城(四王寺山)



26番札所がある西側土塁の上の展望所。遠くに北西から志賀島・博多湾～脊振山～基山、中間に右から福岡空港・福岡市～太宰府市に至る市街地、下方には西に水城土塁を望む。西上方には九州大学の伊都キャンパス、離着陸する飛行機も見える。古と新、静と動…すばらしい眺めである。

名称　由来不詳の石造物(4)

登録番号 E0003

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺集落の入口の右側にある石造物。石造物の前には花立があり、献花が行われ祀られているが、地元区長さんによると「昔からそうしているが、何を祀ってあるのか詳細は不明」とのことである。

名称　四王寺山三十三石仏　第27番札所

登録番号 E0005　近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺　広目天跡)

四王寺山三十三石仏の第27番札所は広目天跡付近に位置している。2像並んで祀られているが、向かって右側に祀られているのが右手を膝の上から頬につけて思惟の姿をされている如意輪観音菩薩座像である。台座に残された刻銘から寛政12年(1800)に建立されたことがわかる。

名称　ケイサシノ井

登録番号 E0006

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山(大野山・大城山)は、665年に大宰府のため日本最古の朝鮮式山城「大野城」が築かれた場所。古代朝鮮式山城「大野城」が建設された当時は簡単な水場であったと思われるが、774年に四王院が建立される前後には整えられ、大事に使用されていたと思われる。

名称　四王寺山三十三石仏　第28番札所

登録番号 E0007

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第28番札所には、高さ55cmほどの凝灰岩に彫られた聖観音菩薩座像が祀られている。台座には「廿八番」の刻銘が残されている。

名称 **四王寺山のビューポイント 2**

登録番号 E0008　現代

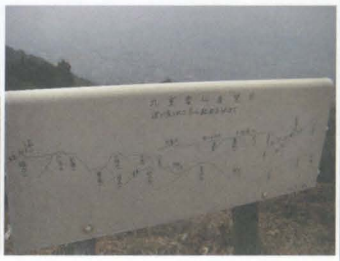
所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**

眼下に160ヘクタールに及ぶ大野城内が広がり、県民の森センター駐車場の杉並木が美しい曲線を描いている。その左に四王寺集落の人家が見え、主城原礎石群・北石垣・持国天跡なども辿ることができる。遠くに三郡山を中心に宝満山群が左右に連なり、大野城を守護しているかのようである。

名称 **四王寺山のビューポイント 3**

登録番号 E0009　現代

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



石仏三十三ヶ所28番札所と29番札所のほぼ中間、西側土塁線東横の尾根の中腹。南に雲仙岳、東に宝満山、その間に耳納連山、九住山、福岡県の最高峰釈迦ヶ岳、特徴的な古処山・大根地山が見え九州を代表する山々を眺望できる好適地である。

名称 **妙見祠(村方)**

登録番号 E0010　近代

所在場所 **国分5丁目　四王寺山の尾根**

戦前は戦神(いくさがみ)ともいわれ、国分地区の女性達が戦争に出征する男性の無事を祈って参詣していた。昭和42年(1967)頃までは、女性ばかりで当番の家に集まって座が行われていた。昭和48(1973)年に山の持ち主の方が木祠から石祠に建て直し、その後代々管理されている。

名称 **火の尾跡(推定)**

登録番号 E0011　古代

所在場所 **国分(四王寺山)**

太宰府旧蹟全図(北)に「火ノヲ」が記され、また古地図に「火ノ尾」がほぼ同地点にあることから、国分より水城口城門に通じる道(屋根線上)のほぼ中間点にある平坦地と礎石群を比定。

名称 **由来不詳の石造物(1)**

登録番号 E0012

所在場所 **国分**

四王寺山山中、火の尾跡推定地から少し南側へ下った場所にある石造遺物。人工的に加工された穴状の跡があるが、何に使われたか不明である。

名称 **観音堂**

登録番号 E0013

所在場所 **国分字辻**

観音堂をはじめ、計5つの御堂が集まっており、白衣観音立像をはじめとして30体以上の御神体が祀られている。旧来は四王寺山・毘沙門天詣りへの登り口でもあり、岩屋城合戦についての供養碑も所在している。近年の度重なる大雨による土砂災害等の諸問題もあり、移転も検討されている。

E 地区

名称　下大利橋

登録番号 E0014　現代

所在場所 水城2丁目

太宰府市水城地区と大野城市東大利地区を結ぶ橋。同じ御笠川に架かる大野城橋の少し下流に位置しており、現在の橋は昭和59年(1984)12月に完成したもの。橋のすぐ南側には親水公園が設けられている。旧日田街道に架かる橋。

名称　大野城橋

登録番号 E0015　現代

所在場所 市外(大野城市　東大利3丁目)

太宰府市水城地区と大野城市東大利地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は昭和60年(1985)12月に完成したもの。県道112号線(福岡日田線)が通っており、交通量は多い。橋のすぐ北側には親水公園が設けられている。

名称　猿田彦大神

登録番号 E0016　近代

所在場所 水城2丁目

水城2丁目にある猿田彦大神。旧日田街道や四王寺山毘沙門詣りの道が交差する場所に所在している。高さは166cm程あり、昭和12年(1937)5月に組合の方々によって建立された。田植え後に苗を供える風習が伝わる。

名称　水路(旧日田街道沿いの水路)

登録番号 E0021

所在場所 水城2丁目

日田街道は博多と日田を結ぶ街道で、国分・関屋・通古賀・二日市を通っていた。水城2丁目では、現在も旧日田街道に沿う水路が残っている。この水路は、昔は小川であり、各家には石製の渡りが設けられている。当時の面影を感じられる、残したい景観である。

名称　田圃沿いの昔の道

登録番号 E0023

所在場所 水城2丁目

水城2丁目に残る田圃沿いの道。昔は、この道側に個人宅の表門があり出入りしていたとのこと。現在は反対側の旧街道沿いに作られた門を使用している。地図には現在でも道として道幅が記載されている。

名称　老松神社

登録番号 E0026

所在場所 水城1丁目(老松神社)

太宰府市の旧水城村の産神として祀られている神社。老松神社は天満宮の神木とされていた老松が神格化されたもので、天満天神信仰の広がりと共に各地に勧請された。祭神は菅原道真。例祭は近世には9月15日(現在は10月16日)に行われ、那珂郡平尾村八幡宮の梅崎氏が奉祀を行っていた。

名称 **水城の渡し跡**

登録番号 E0027

所在場所 **水城1丁目(老松神社)**

地元の伝承では、菅原道真が船便を利用して御笠川を上り、水城老松宮の辺りの渡し場で上陸し、国分の衣挂天神の辺りを経て苅萱の関を通って宰府に向かったと言われている。現在、老松神社境内西側の御笠川岸に渡し場の跡と伝えられる7段の石段が残っている。

名称 **水城橋(みずきばし)**

登録番号 E0029 現代

所在場所 **水城1丁目**

水城1丁目を流れる御笠川に架かる橋で、車道とは別に歩道橋が設けられている。太宰府市水城地区と大野城市下大利地区を結んでおり、すぐ近くには水城の老松神社や水城の渡し跡がある。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 E0030

所在場所 **水城6丁目**

水城6丁目で祀られている高さ135cm、石製の猿田彦大神碑。もともとは水城2丁目にあったものだが、昭和47年(1972)の九州自動車道建設時に伴う道路幅拡張のため、現在地へと移動した。田植え後に苗を供える風習が伝わる。

名称 **国分小学校裏山の日の出が見える場所**

登録番号 E0031 現代

所在場所 **国分2丁目(国分小学校裏山)**

国分小学校裏手に位置する日の出が見える場所。水城台自治会の方々により、初日の出を見に来た人々に御神酒・コンブ・するめのお接待が行われている。元旦が悪天候の場合は中止するが、平成22年の元旦は天気も良く、近隣の方々20名程が拝みに来られた。

名称 **水城展望台(水城南西方向を見る)**

登録番号 E0032 現代

所在場所 **国分2丁目(国分小学校裏山)**

国分小学校裏山にある展望台。水城跡が一望できる場所である。

名称 **日田街道**

登録番号 E0033

所在場所 **水城3丁目**

商業都市・博多から太宰府を通り、幕府直轄領・日田を結ぶ重要な街道であった。博多から南下すると、水城東門、苅萱関跡・関屋鳥居、王城神社と通り、二日市宿から日田方面へと進む道筋である。往時は街道沿いに松並木が並び、街道に面して細長い民家が立ち並んでいたという。

E地区

名称　ひともっこ山(跡)

登録番号 E0034　古代

所在場所 水城3丁目

水城築造に関わる伝説の1つ。水城造営の際、「土塁ができあがったぞ！」と叫び声が聞こえると、人々は担いでいた土を、歓声をあげてその場所に捨てた。その土が盛り上がって小山になり、その小山を「ひともっこ山」と呼んだという。近年の開発に伴う駐車場・宅地造成により消失している。

名称　史蹟水城跡境界(5)

登録番号 E0035　近代

所在場所 水城1丁目(水城跡北側西)

史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称　水城跡(東門側)

登録番号 E0036　古代

所在場所 水城1丁目～国分1丁目

水城は唐・新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土塁。日本書紀に記録があり、記録に残る日本最初の城である。水城の東門側には門跡・礎石・木樋などが確認されている。現在は、春には桜、秋にはコスモスが咲き、市民の憩いの場となっている。

名称　水城跡石碑及び関連施設

登録番号 E0037　現代

所在場所 水城1丁目(水城跡 県道112号線沿)

水城跡東門側を見渡せる位置に、平成20年(2008)2月に完成した特別史跡水城跡第2広場。「特別史跡水城跡」石碑と説明板2基が設置され、駐車場・御手洗いが整備され見学者への便宜が図られている。

名称　水城木樋跡(東門)

登録番号 E0038　古代

所在場所 国分1丁目

木樋はヒノキ材の底板2枚と側板、蓋板とからなっており、内法で幅1.2m、高さ80cmである。底板2枚は柄つぎにすると同時に長さ25cm、幅5cmの鉄のカスガイでとめられている。蓋板は殆どが腐蝕してしまっていたが、痕跡から底板とは直角方向に架けられていたとみられる。

名称　「水城」銘　墨書土器発見場所

登録番号 E0039　古代　現代

所在場所 国分1丁目(東門木樋取部南側)

県と九歴は、第10次調査(1978年12月1日～19791月31日)で木樋取水部南側250㎡を行ったが、木樋に関係する遺構は検出されなかった。しかし、木枠の井戸を確認し、そこから8世紀後半頃の「水城」銘の墨書された土師器の蓋が出土した。

名称 **水城瓦窯跡**

登録番号 E0040　古代

所在場所 **国分1丁目（水城跡南側）**

8世紀中頃と考えられる瓦窯。窯の構造はロストル式の平窯で、登り窯が主流であった九州では珍しく、都でみられる平窯を用いている。

名称 **賽の神・小夜神（さいのかみ）**

登録番号 E0041

所在場所 **水城1丁目（水城跡北側東）**

水城堤の根本に祠があり、「賽の神」として祀られている。伝承では、江戸時代にこの地で斬られた武士の娘を弔うため、里人がこの地に小さな堂を建てて霊を祀ったと伝えられている。現在祠内には男性のシンボルが祀ってあり、参拝者も多く、性病が治るという信仰もある。

名称 **水城大堤之碑**

登録番号 E0042　近代

所在場所 **国分**

大正4年11月大正天皇大御典の記念事業として水城青年会の発案によって大正5年5月の建設された。裏面には、水城村出身の技手竹森善太郎が実測し、九州帝国大学教授君島工学博士の臨検を得た堤防実測の結果を刻んでいる。碑文は、上水城に住んでいた武谷水城が選書。

名称 **史蹟水城跡境界（1）**

登録番号 E0043　近代

所在場所 **国分2丁目（水城跡東門近く）**

史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年（1921）に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成15年（2003）までに10回の追加指定を受けている。

名称 **国分小学校下の風景**

登録番号 E0044　現代

所在場所 **国分2丁目**

国分小学校から下り、陣ノ尾古墳の横を入って行った地点にある高台からの景色。尼寺跡を望むと、眼下には田んぼが一面に広がっている。また遠方には天拝山や九千部山が見渡せる絶景ポイントである。

名称 **千手観音（筑紫四国第九十五番札所）**

登録番号 E0045　近代

所在場所 **国分2丁目（水城跡東門近く）**

水城東門近くにある観音堂。石造千手観音坐像（高さ61cm）と石造弘法大師坐像（高さ46cm）を祀っており、筑紫四国第九十五番札所である。現在の木祠は昭和63年（1988）3月に、国分地区の人々の寄付によって建立されたものである。

E 地区

名称　史蹟水城跡境界(2)

登録番号 E0046　近代

所在場所 国分2丁目(水城跡東門近く)

史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称　日田街道(博多往還)

登録番号 E0047

所在場所 国分2丁目

水城跡東門から日田方面に向かっての日田街道。国道3号線(現県道112号線)が開通するまでは、日田街道が主要な幹線道路であった。沿線には博多へ出向く商人たちの宿が建っていた。

名称　史蹟水城跡境界(3)

登録番号 E0048　近代

所在場所 国分1丁目(水城跡南側東)

史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称　姿見の井

登録番号 E0049

所在場所 国分2丁目

延喜元年(901)、菅原道真が大宰府へ西下した際、身支度を整えるため自らの姿を池に映したと言われている。近年の調査により、明治期以降に造られた幅1.5m、奥行2.5mの石組み池跡が確認された。現在は歴史的風致維持向上計画に基づき、「姿見井」として復原されている。

名称　衣挂神社(衣掛神社)

登録番号 E0050

所在場所 国分2丁目

延喜元年(901)、菅原道真が大宰府へ西下した際、身支度を整えたと伝えられる場所。「衣挂の石・松」、姿見の井が周辺に残る。拝殿扁額は、かつてあった衣挂けの松を使用。文化9年建立の鳥居扁額が衣を挂けるという字義を忠実に表現している。「掛ける」は、本来掛け軸など物を掛ける意味。

名称　水城の関(水城東門の礎石)

登録番号 E0051　古代

所在場所 国分2丁目(水城東門跡の公園)

水城に設けられた東西2か所の内、東側にある門の礎石。東門の礎石は、本来の位置から移動している可能性が強い。旧国道3号線沿いの石囲いした中にある。

名称　**衣挂神社(衣掛神社)焼納祭**

登録番号 **E0052**

所在場所 **国分2丁目　衣挂神社境内**

毎年12月31日の午後5時～6時に行われる神事で、古いお札・お守りに感謝の気持ちを込めて、境内中央に掘られた穴に入れお焚き上げする。12月20日から焼納受付箱を置き、お札・お守りなどを受け付ける。現在、国分小学校区には三神社あるが、焼納祭は衣挂神社だけが行っている。

名称　**筑前国分尼寺跡**

登録番号 **E0053**　古代

所在場所 **国分2丁目**

天平13年(741)年、聖武天皇の命により鎮護国家・五穀豊穣を祈るために全国に建立された寺の1つ。正式名称は法華滅罪之寺(ほっけめつざいのてら)といい、10人の尼僧が置かれた。国分尼寺は、8世紀後半に造られ100年ほどしか存続しなかったと推定され、跡地は現在田圃になっている。

名称　**筑前国分尼寺南側の境界線**

登録番号 **E0054**

所在場所 **国分2丁目**

筑前国分尼寺の領域を区切る南側の境界線。現在は有料駐車場と個人宅との敷地境界線となっている。

名称　**筑前国分尼寺の東側の道**

登録番号 **E0055**

所在場所 **国分2丁目**

筑前国分尼寺の東の境界に沿って現存する道路。

名称　**陣ノ尾川沿いの道**

登録番号 **E0056**

所在場所 **国分2丁目**

昔、国分地区は天満宮を中心とする地区を「ムラ方」、旧街道沿の地区を「マチ方」と呼んでいた。このムラ方とマチ方を結ぶ唯一の道が陣ノ尾川沿いの道であった。以前は木々が鬱蒼と生い茂る道で、人家もあまり無かったためか、「陣ノ尾婆の伝説」が伝えられていた。

名称　**陣ノ尾川の側溝**

登録番号 **E0057**　現代

所在場所 **国分2丁目**

国分小学校の児童が、川に降りて遊ぶ風景を見ることができ、むかしの風情をしのぶことができる。

E 地区

名称　国分寺南側の道路

登録番号 E0058　古代

所在場所 国分3丁目（国分共同利用施設の南側）

筑前国分寺の南を通る道路。国分尼寺・国分僧寺（国分寺）を結ぶ道路でもある。

名称　川原地下道（太宰府市-07）

登録番号 E0059　現代

所在場所 国分1丁目　国道3号線側道6号線

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5（1993）年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年（1996）12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　西ノ池

登録番号 E0060　近世

所在場所 国分5丁目

国分5丁目に所在する溜池。農業用水のため近世に造成されたもので、水面面積10047㎡の広さを誇る。また、池周辺の景観は素晴らしく、湖面に映る夕日は特に美しい。地域の方々の散策コースにもなっており、犬の散歩など多くの人々に利用されている。

名称　民家の敷地を通る道

登録番号 E0061

所在場所 国分5丁目

民家の庭を道路として使っている状態。国分台から国分に通じる道は公道として地図に載っている。

名称　身代地蔵菩薩（屋敷神）

登録番号 E0062　近代　現代

所在場所 国分5丁目

身代地蔵と呼称されるお地蔵様で、真言は「おんかかかびさんまえいそわか」を3回唱える。1日は赤飯、4のつく日は酒・塩・米を供える。また、年に一度、地蔵さんの帽子と前垂れをホーム利用のお年寄りの方がつくって、かけかえている。

名称　庚申尊天

登録番号 E0063

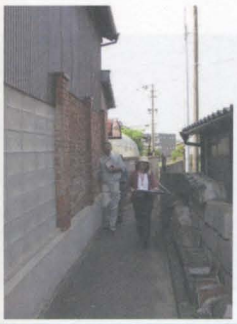
所在場所 国分5丁目（国分台団地と上ノ池への分かれ道角）

国分台団地へ上る道と上ノ池へ上る道の分岐点にある石塔。高さ140cmほどの石塔に「庚申尊天」と銘が彫られている。以前は田植えが済んだ後、立派な苗三把をよく洗って供えていたが、現在は行われていない。

名称 **国分寺西側境界の延長になる道**

登録番号 E0064

所在場所 **国分5丁目**



国分寺周辺は旧地形がそのまま残っている場所が多い。この小道は国分寺西側境界の延長線上になると思われる道で、ほぼ南北に通っている。現在も地区の方々の生活道路として使われている道である。

名称 **国分寺西側と北側の境界線が交わる所**

登録番号 E0065

所在場所 **国分5丁目**

国分寺周辺は旧地形がそのまま残っている場所が多い。この場所は、国分寺の西側境界と北側境界が交わると推定される地点である。

名称 **道路造成(田中-松本線)記念碑**

登録番号 E0066

所在場所 **国分3丁目**

土地整備事業を記念した石碑。道路を造成するにあたり、土地を提供された方が居られ、その方が事業を記念して石碑も自費で建立したといわれている。

名称 **国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(1)**

登録番号 E0068

所在場所 **国分4丁目(国分寺史跡指定地内)**

史跡整備の際の、排水計画時の溜めマス。

名称 **国分寺史跡指定境界標(5)**

登録番号 E0069 近代

所在場所 **国分3～4丁目**

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 **国分寺史跡指定境界標(4)**

登録番号 E0070 近代

所在場所 **国分3～4丁目**

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

E 地区

名称　国分寺史跡指定境界標(9)

登録番号 E0071　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　国分寺史跡指定境界標(10)

登録番号 E0072　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　旧河川

登録番号 E0074

所在場所 国分4丁目

奥ノ池から国分地区の田んぼへ、灌漑用水路として機能していた旧河川。流路沿いの個人宅は、小さな石橋を渡って出入りしていたという。現在は道路整備事業による道幅拡張のため、河川の上に道路が作られている。

名称　筑前国分寺(龍頭光山筑前国分寺)

登録番号 E0075　古代

所在場所 国分3～4丁目

聖武天皇の発願で全国の国毎に建てられた国分寺のうち、筑前国分寺の跡。現在は、後継寺院「龍頭光山筑前国分寺」という真言宗の寺があり、また周辺は発掘調査に基づいて整備されている。

名称　史跡の公有地境界石柱(1)

登録番号 E0076

所在場所 国分4丁目

筑前国分寺史跡の公有地境界を示す石柱。コンクリート製で正面には「文化財」の文字が刻まれている。筑前国分寺には2ヶ所あり、こちらは講堂跡北側斜面のものである。

名称　国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(2)

登録番号 E0077

所在場所 国分4丁目(国分寺史跡指定地内)

史跡整備の際の、排水計画時の溜めマス。

名称 **国分天満宮**

登録番号 E0078

所在場所 **国分4丁目 国分寺南側**

御祭神は菅原道真。昔は不老天神とも言われていた。縁起などは不明。当初は八幡宮であったものが、いつの時代か天満宮となり、産土神として祀られるようになった。現在は氏子の方々によって、宮座をはじめ、夏祭り、秋祭り、初詣などの祭事が執り行われている。

名称 **国分天満宮境内の石柱**

登録番号 E0079

近代

所在場所 **国分4丁目**

国分天満宮の境内にある高さ64cm程の石柱。社務所の敷地坪数等を示すもので、大正13年(1924)3月に建立されたものである。

名称 **筑前国分寺講堂跡**

登録番号 E0080

古代

所在場所 **国分4丁目**

発掘調査の成果によると、11世紀末にはすでに講堂は消失していたらしい。Ⅰ期は7間×4間の四面庇建物となる。整備はⅠ期の遺構を平面復原したもので、礎石は大部分消失しているため3個だけ配している。芝草が植えられているが、復原基壇上部や周辺部でつくし採りが楽しめる。

名称 **国分寺史跡指定境界標(8)**

登録番号 E0081

近代

所在場所 **国分3～4丁目**

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 **国分寺西側境界線の土地**

登録番号 E0082

所在場所 **国分3丁目(国分児童公園裏)**

筑前国分寺周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。道にはやや傾斜があり、国分寺が丘陵地に所在していたことがうかがえる。

名称 **国分寺西側道跡の名残をとどめる道**

登録番号 E0083

所在場所 **国分3丁目**

筑前国分寺周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。この道は国分寺の西側を画する道で、現在も地区の方々の生活道路として使われている道である。

E 地区

名称　明治百年記念碑

登録番号 E0084　現代

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内)

国分児童公園にある記念碑。御影石製。高さ130cm、幅・奥行ともに25cmを測る。この記念碑は明治生まれの方々が、明治100年を記念して昭和43年(1968)に建立したもの。当時はこの公園で運動会などの行事が行われており、その際には国旗掲揚用の基台として使用。

名称　築地塀があったと思われる場所

登録番号 E0085　古代

所在場所 国分3丁目(児童公園横の畑)

国分3丁目の児童公園南側に位置する畑にある段差。発掘調査から築地塀に遺構が確認されており、この場所に筑前国分寺の寺院地と集落を区画する築地塀があったと推定される。また、この付近は筑前国分寺南側の境界にあたるため、周辺に9m幅の前面道路も存在していたと考えられる。

名称　国分寺史跡指定境界標(2)

登録番号 E0086　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　国分寺史跡指定境界標(3)

登録番号 E0087　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　猿田彦大神

登録番号 E0088

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内)

国分3丁目の児童公園内、史蹟筑前国分寺阯碑の側に建立されている猿田彦大神の碑。石碑の表面に文字は見えないが「猿田彦大神」といわれており、1年に1回、注連縄を取り替えて祀っている。

名称　史蹟筑前國分寺阯(児童公園内)の石柱

登録番号 E0089　近代

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内 南フェンス側)

筑前国分寺跡が、史跡名勝天然記念物保存法に依り大正11(1922)年10月内務大臣指定を受けたことを記念して大正13(1924)年7月に建設された石碑。

名称 **国分区のほんげんぎょう**

登録番号 E0090

所在場所 **国分3丁目(国分児童公園)**

以前は1月7日に実施していたが、最近は第2日曜日に実施する。真竹・孟宗竹などを、組み立て、当日早朝、自治会長の火種より子ども会の代表の松明に火をつけ、四方より火入れ。炎の勢い、生竹の弾ける音が、その年の豊作を占うとされ、餅を焼いて食べると、無病息災で過ごせるという。

名称 **国分寺史跡指定境界標(1)**

登録番号 E0091　近代

所在場所 **国分3～4丁目**

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 **ムクノキの巨木3本**

登録番号 E0095

所在場所 **国分4丁目**

国分寺の北東に位置する毘沙門堂と若宮神社を覆うようにある3本の巨大なムクノキ群。太宰府市内最大で、平成21年(2009年)3月3日には市指定天然記念物に指定されている。以前は、神社で神戻しを行う際の薪に使用するため、ムクノキの枝打ちを行っていた。

名称 **史跡の公有地境界石柱(2)**

登録番号 E0096

所在場所 **国分4丁目**

筑前国分寺史跡の公有地境界を示す石柱。コンクリート製で正面には「文化財」の文字が刻まれている。筑前国分寺には2ヶ所あり、こちらは毘沙門堂横のものである。

名称 **国分　毘沙門堂**

登録番号 E0097　現代

所在場所 **国分4丁目**

四王寺山にある毘沙門天を参ることができないために、国分の人が毘沙門堂の石を持ち帰り彫って御神体にした。また、三井郡北野村の信者が四王寺の毘沙門様にお参りするのが遠いので土地を寄付してもらって建てたともいわれている。お堂は2回建て替えられている。

名称 **若宮神社**

登録番号 E0098　近世

所在場所 **国分4丁目(国分寺東北)**

国分寺の東北にある神社。石祠は江戸時代の享和4年(1804)に建立されたもので、年紀が分かる祠では最古のものである。祠背面には22名の氏名が刻まれており、また、祠内には高さ43cmの自然石が御神体として祀られている。

E地区

名称　国分寺史跡指定境界標(7)

登録番号 E0099　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　国分寺史跡指定境界標(6)

登録番号 E0100　近代

所在場所 国分3～4丁目

大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称　国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(3)

登録番号 E0101

所在場所 国分4丁目(国分寺史跡指定地内)

史跡整備の際の、排水計画時の溜めマス。

名称　上ノ池をのぞむ風景

登録番号 E0103　現代

所在場所 国分4丁目

別名「田中池」とも呼ばれ、近世に造成された溜池と考えられる。新池からの調整池とされ、新池・奥ノ池の両池から水が入り込むように仕掛け水路が設けられる。池周辺からの風景は美しく、西方には水城跡や背振山脈が広がる眺望地である。

名称　奥ノ池

登録番号 E0104　近代

所在場所 大字国分

農事用として造られた溜池で、国分区域内に5つある池のなかで最も高台に位置する。ここから九千部山、牛頸山、背振山、金山、井原山、雷山、油山など山々の景観が素晴らしく、また四季折々にワラビ摘み等が楽しめる。昭和40(1965)年以降は宅地化が進み、池水の利用が減少している。

名称　溜池「奥ノ池」の水路

登録番号 E0105　近代

所在場所 国分5丁目

昔からの灌漑用水路としての河川や水路は、道路整備事業や水害対策などにより、拡張されたり、コンクリート造りになっている。

名称 **溜池「奥ノ池」の水路**

登録番号 E0106　近代

所在場所 **国分5丁目**

昔からの灌漑用水路としての河川や水路は、道路整備事業や水害対策などにより、拡張されたり、コンクリート造りになっている。

名称 **新池(窪の池、窯の池、瓦窯の池)**

登録番号 E0110　近世

所在場所 **国分**

農業用水のため、国分区に設けられた溜池。

名称 **新池土堤**

登録番号 E0111　近世

所在場所 **大字国分字辻**

新池の周囲に広がる土堤。見晴らしがよく、散策路としても利用されている。また、季節になるとワラビが群生するなど、自然が多く残されている。

名称 **新池　墓石**

登録番号 E0112

所在場所 **国分(新池)**

池の管理者の方が管理に入るとき、柵を越える踏み台代わりにこの石を使っていたら、足が悪くなったという。よく見ると石に文字が刻まれていることに気づいた。この石が誰かの墓石であることに驚き、写真のように木に立てかけ手を合せるようになったら、足も良くなったとのことである。

名称 **国分瓦窯跡**

登録番号 E0113　古代

所在場所 **国分**

筑前国分寺に瓦を供給した古代の瓦窯跡。出土瓦は「佐」銘のある瓦が主体で、筑前国分寺などにおいて大量に出土している。大正11年(1922)年10月12日に国の史跡指定を受けている。

名称 **水準点**

登録番号 E0114　現代

所在場所 **国分3丁目(千足町第2公園内)**

千足町第2公園内にある一等水準点。建設省国土地理院九州地方測量部によって設置されたもの。一等水準点は、東京都千代田区永田町1丁目1番地にある日本水準原点を基準として、全国の国道、都道府県沿い2km毎に全国で約2万点設置されているものである。

E 地区

名称　稲子地蔵

登録番号 E0115

所在場所 国分3丁目（宝満隠しの丘の下）

高さ94cm程の自然石で出来た稲子地蔵が祀られている。由来には諸説あり、苅萱の関守の身代りになり敵刃に倒れた侍女稲子を祀るという言い伝えや、宝満山の山伏に恋をした稲子が身を投げて亡くなったのを村人が哀れに思い弔ったという話などが伝わっている。

名称　引陣地蔵（ヒキジジゾウ）

登録番号 E0116

所在場所 大字国分

引陣（ヒキジ）という地名は、天正14年（1586）の岩屋城合戦の際に島津氏の軍勢がここを通って引き上げたことに由来するという。また、合戦の戦死者を地元の人達が供養したといわれている。地蔵堂は昭和14年（1939）に建立され、その後手が加えられている。

名称　お堂跡推定地

登録番号 E0117

所在場所 大字国分（四王寺山国分側尾根）

古墳群より100mほど下った雑木林の中に、古墳群がある地形と明らかに異なる約5m四方の溝に囲われた平らな場所を発見した。

名称　大行事碑

登録番号 E0120　近世

所在場所 大字国分字辻

江戸時代の文化元年（1804）に建立されたもので、牛馬安全・五穀豊穣・村の守り神として農家の人達に信仰されてきた。毎年9月16日には「大行事参り」が行われており、以前は農家の人達が牛馬を引き連れてお参りし、御供えしたオゴク（御飯）を牛馬にいただかせる習わしであった。

名称　国分ポスト横の石

登録番号 E0121　現代

所在場所 国分3丁目

建物に自動車が当たらないようにするために埋め込んだ石。車止め石。

名称　御笠川のゴム製井堰

登録番号 E0122　現代

所在場所 水城1丁目（御笠川）

太宰府市を流れる御笠川の下流、平田川との合流点付近に位置する井堰。御笠川の河川整備に伴い、ゴム製の井堰が設けられ水位調整が行われている。

名称 **お山の見える場所**

登録番号 E0123　現代

所在場所 **国分4丁目**

四王寺山から国分へ下りてくると、左側に尺上池、目の前には遙か遠く、背振山、金山、井原山、雷山、油山などお山を見渡すことができる。

名称 **薬師堂**

登録番号 E0142

所在場所 **国分2丁目**

御神体　石造薬師如来坐像。切石　南無妙法蓮華経。切石は管理者の義母が交通事故防止を願って祀った。旧日田街道沿いに建っている。旧平嶋家の屋敷跡にある。

名称 **大野城跡**

登録番号 E0143　古代

所在場所 **市内・市外(宇美町・大野城市)**

大宰府防衛のために天智天皇4年(665)に基肄城と南北に相対して、大宰府政庁背後の大城山(410m)に築かれたものである。『日本書紀』によると百済の亡命者である憶礼福留、四比福夫の指揮のもと築造されたもので、尾根に沿って土塁を巡らし、谷を通過する部分には石垣が築かれている。

名称 **陣ノ尾1号墳**

登録番号 E0144　原始

所在場所 **国分2丁目**

国分に所在する4基からなる古墳群の1つ。1号墳(市指定)は横穴式石室をもつ6世紀後半の円墳で、鉄鏃・耳環など出土した。

名称 **水城跡**

登録番号 E0145　古代

所在場所 **国分・市外(大野城市)**

唐・新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土塁。日本書紀に「大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城といふ」とあり、記録上確認できる日本最初の城である。現存の堤防は高さ13m、幅約80m、全長1.2km、博多側に幅60m、深さ4mの外堀が確認されている。

名称 **礎石(伝国分尼寺の礎石)**

登録番号 E0146　古代

所在場所 **国分3丁目(国分共同利用施設前)**

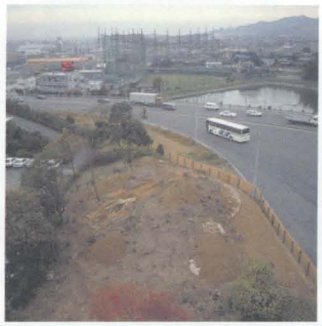
土留め用の石垣に利用されていた礎石で、耕地整備に伴って現在地に移設整備された。礎石は花崗岩製で礎石上面には径上面約68cm、下端約70cmで高さ1～1.5cmを測る円形柱座が造り出されている。

E 地区

名称　成屋形遺跡(なりやかたいせき)

登録番号 E0147　原始

所在場所 水城5丁目



四王寺山から西側に派生する丘陵群に広がる遺跡。太宰府市唯一の前方後円墳。旧石器時代から平安時代にかけての遺跡で、発掘調査は過去7回行われた。大宰府官人の館があった跡という由来から字名が「成屋形」という。

名称　毘沙門まいり

登録番号 E0148

所在場所 国分地区

正月3日には、四王寺山頂にある毘沙門様に参詣し、お賽銭をいくらか借りて帰り、翌年倍にして返すと、商売が繁盛し、金に困らないと言い伝えられている。榎の鹿島神社にも毘沙門様の祠があり、かつては四王寺山の毘沙門様と同じ日に酒を一升供えて祀っていたという。

名称　八反田地下道(太宰府市—04)

登録番号 E0149　現代

所在場所 水城2丁目　国道3号線側道3号線

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　鬼瓦

登録番号 E0151　古代

所在場所 国分4丁目(文化ふれあい館)

鬼瓦は瓦葺建築の大棟・下棟・稚児棟の端に用いる飾り瓦である。全高は49.7cm、現存最大幅35.5cm。鬼面は肉盛りが厚く、逆立つ怒髪、つり上がった眉、四天王のような鋭い目、深い眉間の皺、厚く盛上った頬、口を大きく開いた憤怒相は、他の地方にない大宰府独特のものである。

名称　妙見祠(町方)

登録番号 E0152　近代

所在場所 国分2丁目　陣ノ尾の山の水城寄りの尾根

昭和18年(1943)頃、造り酒屋を営んでいた住民の方が祀ったもの。お祀りした理由は、四王寺毘沙門堂へお参りするのが遠かったことと、戦時中に亡くなった人の供養としてお祀りされたという。当初は石造の扉があったが無くなり、御神体も行方不明である。現在は鉄製の小鳥居が残っている。

名称　供養塔

登録番号 E0153　現代

所在場所 国分2丁目(衣掛神社の裏山付近)

昭和33年(1958)頃、畑の拡張工事に際して古墳が出土し、鏡山猛・長沼賢海両氏が発掘にあたり石棺・かめ棺・土拡墓などが確認された。この時発見された人骨を供養するために建てた供養塔である。石碑は高さ100cmほどの自然石で、榊と水が供えられている。

名称 **供養塔の桜**

登録番号 E0154

所在場所 **国分2丁目　衣掛神社の裏山付近**

国分2丁目の衣掛神社裏山にある桜の木。供養塔を見守るように巨木が4本育っており、枝が大きく広がり桜花が心を和ませてくれる。この桜は元来この土地にあったものではなく、土地の所有者が植えたものという。

名称 **国分寺前石製燈籠**

登録番号 E0155　現代

所在場所 **国分3丁目**

筑前国分寺前の三叉路にある石燈籠。立地が筑前国分寺金堂跡のほぼ正面にあたることから、所縁のある総国分寺として名高い奈良東大寺大仏殿の前にある銅燈籠をイメージしたもの。素材は石で、八女燈籠の職人が製作したものである。

名称 **衣挂神社(衣掛神社)の参道(改修)**

登録番号 E0156　現代

所在場所 **国分2丁目(衣挂神社)**

平成22年(2010)11月5日より11月末まで、参道を石畳にする改修工事を氏子達自らの手で行った。石は中国から輸入したもので、地固め用の工具も氏子手作りのものを使用し、延人数45名で実施。延日数11日で工事は完成。

名称 **昔の水路(トンネル入口)**

登録番号 E0157

所在場所 **大字国分(奥ノ池の山側)**

奥ノ池付近には以前2つの池があり、その池を結んでいた水路である。2つの池の間には小山があり、その地下をトンネル状の水路が通っていた。第二次世界大戦中、この水路を防空壕として使用するために入口をアーチ状に拡げて人が出入り出来るようにした。

名称 **昔の水路(トンネル出口)**

登録番号 E0158

所在場所 **大字国分(奥ノ池の山側)**

奥ノ池付近には以前2つの池があり、その池を結んでいた水路である。2つの池の間には小山があり、その地下をトンネル状の水路が通っていた。第二次世界大戦中、この水路を防空壕として使用するために入口をアーチ状に拡げて人が出入り出来るようにした。

名称 **成屋形地下道(太宰府市—01)**

登録番号 E0159　現代

所在場所 **水城2丁目　市道丸山・島廻線**

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

E 地区

名称　裏ノ田地下道

登録番号 E0160　現代

所在場所 水城2丁目　町裏・裏ノ田線

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　国分小裏山より見る四王寺山(秋の風景)

登録番号 E0162　現代

所在場所 国分2丁目　国分小裏山

国分小学校より徒歩5分の場所にある見晴台。秋には正面に赤・黄に染まった四王寺山の美しい紅葉が見られる。

名称　水城村からの道

登録番号 E0164

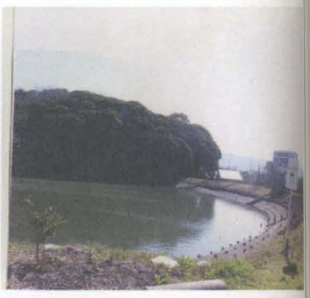
所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)・水城地区

古地図に描かれている水城から水城口城門跡へ至る道。太宰府市水城地区から毘沙門堂・四王寺村方面への道として利用されていた。現在ではほとんど通る人は無い。

名称　裏ノ田池(裏の田・浦の田)

登録番号 E0161　近世

所在場所 水城6丁目



農業用水のために造られた溜池。江戸時代の『享和明細記』に記録が残されている。面積は1994年の調査時で5846㎡である。池の側には、四王寺山の毘沙門堂へ行く古道が残っている。

名称　紺町地下道(太宰府市-05)

登録番号 E0163　現代

所在場所 国分1丁目　正尻・川久保線

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　野口地下道(太宰府市—03)

登録番号 E0165　現代

所在場所 水城2丁目　市道水城橋・小柳線

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　**鍛冶久地下道(太宰府市-06)**

登録番号 **E0166**　現代

所在場所 **国分1丁目　国道3号線側道6号線**

昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称　**集水枡**

登録番号 **E0168**　現代

所在場所 **国分5丁目**

昭和43年(1968)に国分台団地が造成された際に造られた集水枡。地すべり防止のため、四王寺山からの地表水を集水するのが目的。平成15(2003)年7月19日の大雨により大きな被害を受けたため、集水枡を大きくする工事が開始され、平成22(2010)年10月末に完成。

名称　**国分天満宮の宮座**

登録番号 **E0170**

所在場所 **国分4丁目**

宮座は年に一度行われる神事であり、氏子の総会の意味を持つ行事。昔の宮座当番は、家の畳・襖・障子の張り替えから行っており、当元になると、自宅で直会をされていた。

名称　**万葉歌碑　娘子児島・大納言大伴卿**

登録番号 **E0167**　現代

所在場所 **国分2丁目(水城東門跡の公園)**

730年に大宰師大伴旅人は大納言となり、大宰府を離れることとなった。旅人が都へ帰る際、水城に見送りに来てくれた官人達と共に居た遊行女婦児島が詠んだ歌と、それに応えた旅人の歌が記されている。もとは姿見の池に所在していたが、整備事業に伴い2011年11月頃に現在地へと移転した。

名称　**老松神社のほんげんきょう**

登録番号 **E0169**

所在場所 **水城1丁目**

ほんげんぎょうの前日に櫓を組み上げる。櫓の大きさは円錐形、周囲4m、高さ6m程の孟宗竹で組まれる。内部に竹や笹、正月のお飾りを入れて午前9時から火入れし、燃え上がると「パーン・パーン」という音が今年一年の災いを払い落とすと考えられている。

名称　**どろんこ祭り**

登録番号 **E0171**　現代

所在場所 **国分区内の5つの池**

池の水を抜き、清掃していたものを国分小学校の要請により25年程前から、学校行事「どろんこ祭り」として行う。当日は、5・6年生が池に入って魚を捕り、水槽へ移し、保護者・PTA・地域の方々と協力して別の池へと運ぶ。子供たちも楽しみにしている。

E 地区

名称　史蹟水城跡境界(4)

登録番号 E0172　近代

所在場所 国分1丁目(水城跡南側西)

水城堤に設置されている史跡境界碑。水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けた。

名称　衣挂神社(衣掛神社)の宮座

登録番号 E0173

所在場所 国分2丁目(衣挂神社)

年に一度行われる神事であり、氏子の総会の意味を持つ行事。現在は、氏子総会、神事、奉納、御神酒、謡曲、会食という流れで行われている。お供え・料理・持ち回りの道具などについて記載してある記録が、宮座帳として昭和30年から代々受け継がれている。

名称　衣挂神社(衣掛神社)のヨド

登録番号 E0174

所在場所 国分2丁目(衣挂神社)

ヨドとは、各ムラの氏神やムラに祀られている神仏の夏祭りのことで、ヨドは「宵祭り」を意味する。衣挂神社では開催の前日から御神燈作りなどを行って準備している。

名称　衣挂神社(衣掛神社)のほんげんぎょう

登録番号 E0175

所在場所 国分2丁目(衣挂神社)

前日の1月6日午後2時より準備を開始。氏子の方々が12～3名集まり、お宮の裏山から孟宗竹や笹を切り出し、衣挂神社では櫓を「井」桁に組む。翌早朝総代さんが点火し、燃え上る炎とともに竹が焼けて「パーン」と鳴る音が今年一年の災いを払い落とすと考えられている。

名称　老松図

登録番号 E0176　現代

所在場所 国分2丁目

太宰府市国分の衣挂神社に奉納された絵馬の一つ。板地で、大きさは縦51.0cm、横186.0cm。昭和28(1953)年に制作されたもので、山本南窓の作である。松が枯れたのを惜しんだ氏子が、近くに在住の中学校の美術教師山本南窓氏に依頼して制作したもの。

名称　毘沙門詣りの道1(旧道から)

登録番号 E0177

所在場所 水城2丁目　猿田彦大神がある道

水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。下水城にある旧道五差路から、猿田彦大神が建っている前の道を通り、裏ノ田地下道を潜り抜けて、四王寺山の毘沙門へと延びている。正月3日に四王寺山毘沙門様へ参る慣習は広く行われており、水城地区の人々も昔から参詣していた。

名称 **毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道～裏ノ田池)**

登録番号 E0178

所在場所 **水城2丁目**

水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。裏ノ田地下道を潜り抜け、県道574号線を渡り、事業所横の道を進み、四王寺山の毘沙門へと延びている。この道は農作業の道として利用されており、以前は太宰府インターチェンジ近くには桃畑が広がっていたという。

名称 **毘沙門詣りの道3(裏ノ田池～みどり公園)**

登録番号 E0179

所在場所 **水城6丁目　裏ノ田池の横**

水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。裏ノ田池の側を通り、みどり公園を経て、四王寺山の毘沙門へと延びている。近年、住宅の建設が進んでいるが、昔の道がよく残っている。

名称 **毘沙門詣りの道4(水城団地内に残る道)**

登録番号 E0180

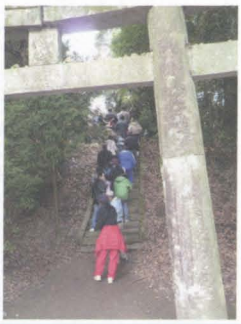
所在場所 **水城6丁目　水城ヶ丘中央公園近く**

水城団地内に残る毘沙門詣りの道。太宰府市コミュニティバスまほろば号「水城ヶ丘中央公園バス停」付近から四柄川に沿って上流へと向かう道が残されている。つき当たりには、昭和56年(1981)3月に完成した砂防ダムがある。

名称 **毘沙門詣りの道5(登山口)**

登録番号 E0181

所在場所 **大字水城**



毘沙門詣りの道(登山口)　水城ヶ丘からの登山口。水城口門礎に出る。

名称 **毘沙門詣りの道(現在の道)**

登録番号 E0182　現代

所在場所 **水城6丁目**

現在、水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際に使われている道。道は、猿田彦大神が祀られる水城6丁目の交差点から右手へと進む。また、同交差点から左手の道は急坂だが、昔はこの道を利用していたという。

名称 **国分松本遺跡**

登録番号 E0185　原始　古代

所在場所 **国分1丁目**

水城跡から太宰府側へ800m程のところにある遺跡。弥生時代から奈良時代の遺跡で、特に弥生時代中期の甕棺墓群は、太宰府市内では最多の200基以上が検出されている。

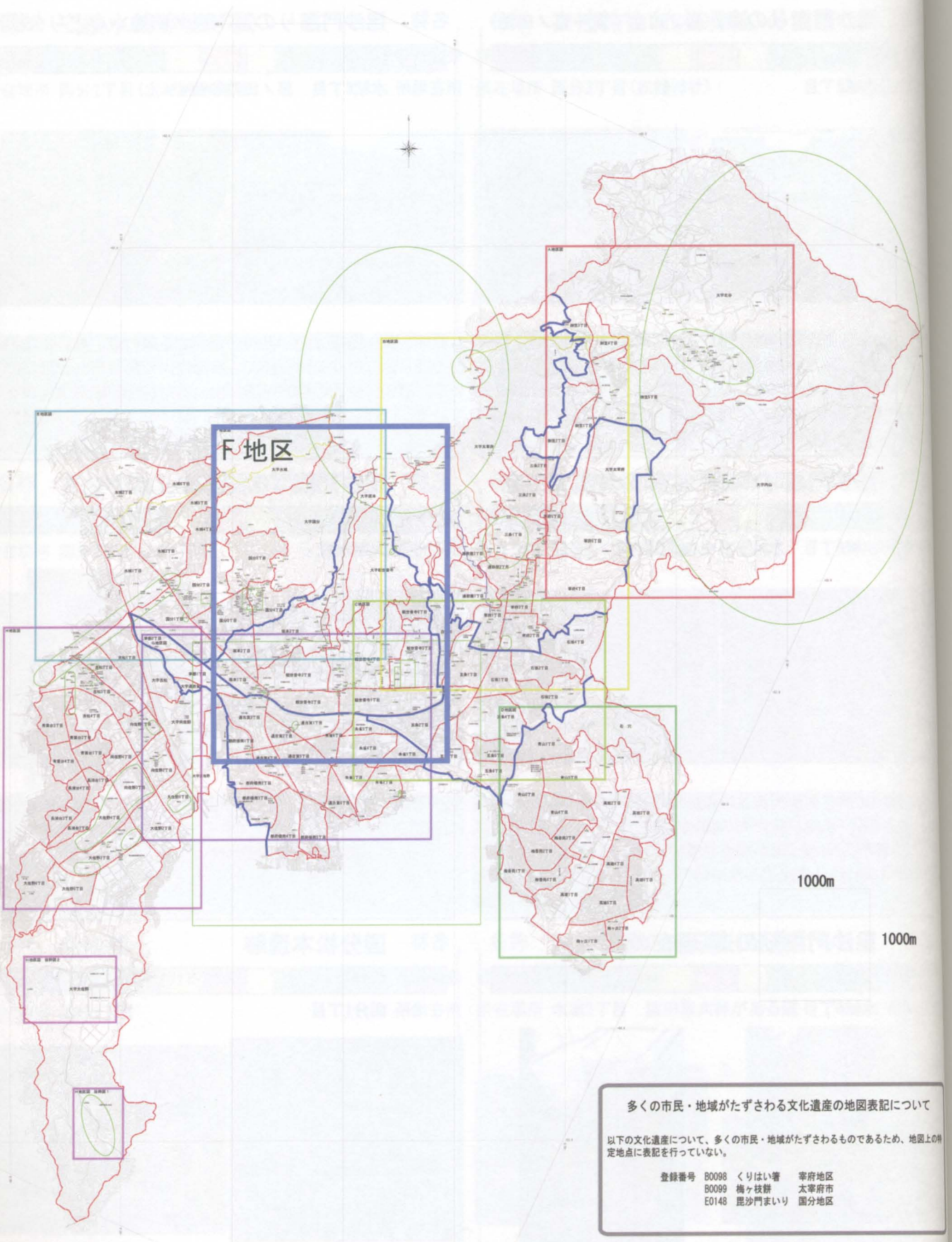

F地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい著 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 13. F 地区位置図

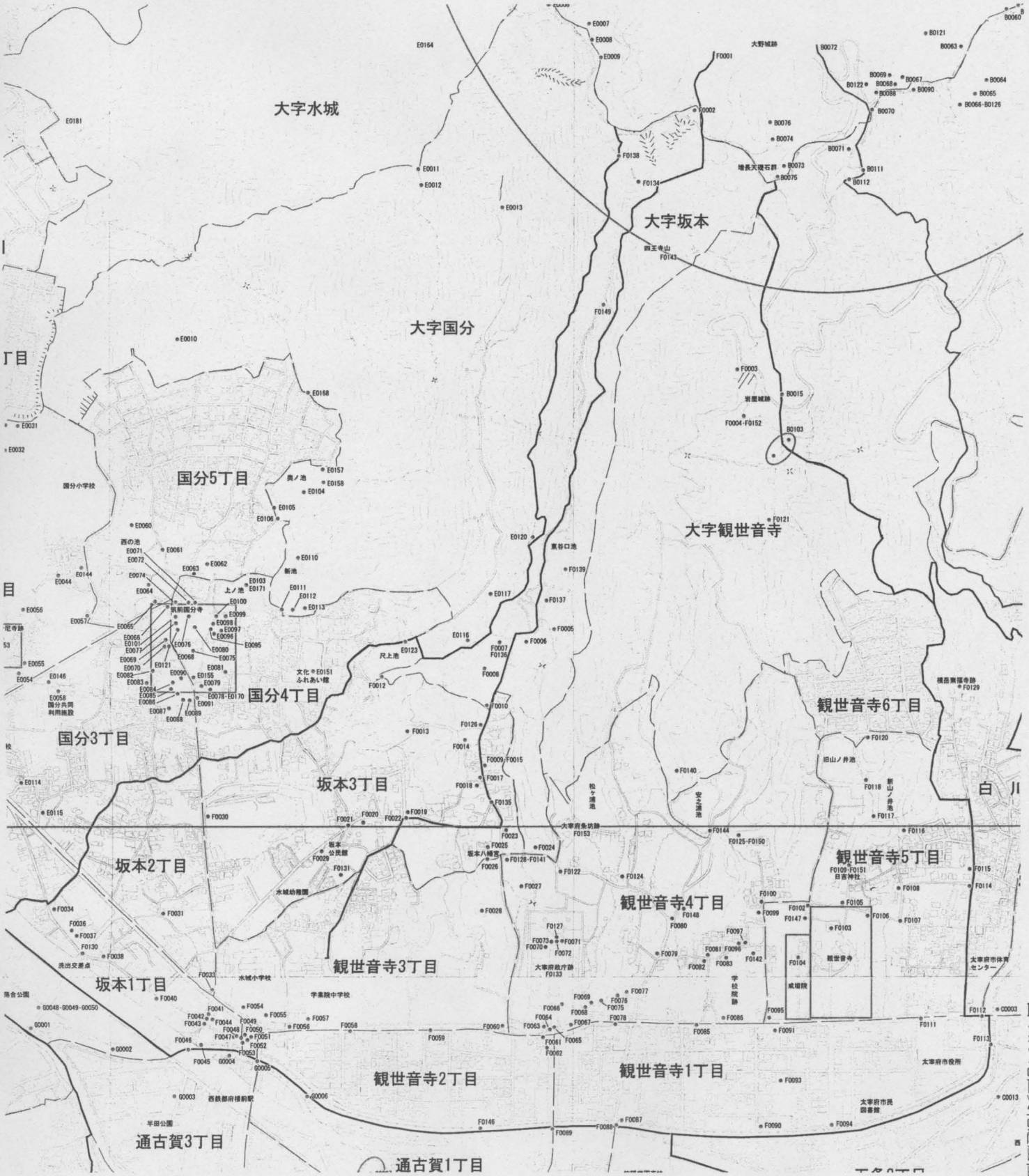


図14.F地区文化遺産位置図

名称　坂本方面への近道

登録番号 F0001

所在場所 坂本(四王寺山)

昭和22年(1947)の学業院中学開校から昭和54年(1979)太宰府中学開校までの約30年間使用された道。四王寺村から坂本に至る通学路は、山を下る登校時でも約70分かかったという。人通りが少ないため、日暮後は太宰府駅に来て、旧太宰府町道を使って帰ったという。

名称　四王寺山三十三石仏　第30番札所

登録番号 F0002

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)

四王寺山三十三石仏の第30番札所には、高さ69cmほどの花崗岩に彫られた千手千眼観音菩薩立像が祀られている。

名称　四王寺林道開設記念碑

登録番号 F0003　現代

所在場所 観世音寺(四王寺林道)

太宰府方面から四王寺村に至る県道(四王寺林道)として旧道に代わる基幹道路として作られた道。明治百年記念事業「県民の森センター」(昭和51年6月オープン)、及び全国育樹祭に皇太子殿下・妃殿下が同センターにご臨席(昭和54年11月)に併せて整備が進められ、現在のような形となった。

名称　高橋紹運墓(胴塚)

登録番号 F0004　中世　近世

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城二の丸跡)

天正14(1586)年に岩屋城で自害した高橋紹運を弔う墓。寛政6(1794)年7月27日、三池藩主立花出雲守種周が二百年祭を行い、墓域の修理、熊本藩儒者藪慤の撰文を刻んだ碑の建立、福岡藩主黒田斉隆が墓所周囲に石柵を寄進した。

名称　ヲモナ石

登録番号 F0005

所在場所 大字坂本字ヲモナ石

坂本地区の畑の中にある石。この付近の小字も「ヲモナ石」であり、政庁建設の標準石であるという伝承が伝わっている。その他にも、都府楼の鬼門の方角にあたる場所のため、その目印に石を置いて塚にしたとも言われている。地元ではヲモナ石に行くとカゼにあうと伝えられている。

名称　戌の薬師(インノヤクシ)

登録番号 F0006

所在場所 大字坂本字善正寺

高さ74cm程の石柱の前面に薬師像が彫られている。天部には水を溜める穴があり、この水で目を洗うと眼病が良くなるといわれている。

F 地区

名称　石のある風景

登録番号 F0007

所在場所 大字坂本字善正寺

善正寺跡と言われる田の中に所在する石。耕作に支障があると田の外に石を出したところ、不幸があったので田の中に石を戻したといわれている。近年、一帯が荒れ地となっていたため地区の方々で草刈りなどを行った。

名称　棚田の景観

登録番号 F0008　現代

所在場所 大字坂本字善正寺

四王寺・坂本地区一帯に広がる棚田の景観。坂本地区には「善正寺」という小字名が残っており、寺院跡を段々畑(台地状の田)として利用した様子がうかがえる。

名称　エビスまつり

登録番号 F0009

所在場所 坂本3丁目

毎年12月3日に行われる坂本地区のえびす祭。現在に至るまで、灯明番帳を回しているムラの人々によって長い間続けられている。祭に際しては、しめ打ちを行い、新しい注連縄をかけている。その際に、注連縄の穂先が四王寺山の方を向くように整えられている。

名称　追分石(道標　四王寺国分)

登録番号 F0010

所在場所 大字坂本字善正寺

坂本地区から四王寺山に向かう農道の脇に所在する追分石。高さ35.5cmほどの大きさで、草に隠れるように所在している。表面には「右　四王寺道、左　国分」の銘が残されており、四王寺地区と国分地区とへの追分石として機能していた。

名称　やんぶの墓(山伏塚)

登録番号 F0012

所在場所 坂本

修行中に倒れた宝満山の山伏を祀るため、村人が建立したといわれている。現在でも、咳(百日咳)の時や赤ちゃんの頭におできが出来た時にお参りして、良くなったら白ダゴを年の数作ってあげますと言って願をかけ、治ったら白ダゴを持ってお礼参りをする風習が伝わっている。

名称　河野静雲句碑

登録番号 F0013　現代

所在場所 坂本3丁目

昭和2年(1927)4月8日、太宰府市内の畑から「御笠団印」が掘り出された。これを記念して俳人河野静雲が詠んだ俳句が「仏生會御笠団印掘り出さる」である。この句は、発見された方の家へ渡されていたが、平成13年(2001)12月に発見者の墓前に句碑として建立されたものである。

名称 **玄清法印之墓**

登録番号 **F0014**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

玄清法印は、平安時代の天台宗の高僧で、玄清法流盲僧琵琶の開祖である。弘仁14(822)年に死去といわれ、坂本に埋葬されたといわれていたが埋葬地を特定できずにいた。しかし没後1150年忌この地に特定された。

名称 **えびす様(恵比寿神)**

登録番号 **F0015**　近代

所在場所 **坂本3丁目**

坂本3丁目で祀られているえびす様。1mほどの花崗岩に恵比寿神が彫刻されている。毎夕、地区の方々でこのえびす様と八幡宮とオカッテンサンの三ヶ所に灯明を上げており、灯明帳(板)を廻して順番に当番されている。また、正月には〆飾りを行っている。

名称 **旧小字標石　花屋敷(はなのやしき)**

登録番号 **F0017**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

住居表示変更により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名「花屋敷」の由来には諸説あり、都落ちした安徳帝の行宮があった名残という伝承や、昔の花町であったためなどと言い伝えられている。

名称 **オカッテンサン　鬼子母神堂**

登録番号 **F0018**　現代

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**

祀られている鬼子母神について、『続風土記拾遺』の記載には遍照院に訶利帝母・弥陀・大日を安置するとあり、『明細記』にも「社一所　阿弥陀　大日　訶利帝母」と、鬼子母神の別名である「訶利帝母」が記されている。現在も遠方からの参拝者の方々が訪れている。

名称 **旧小字標石　浦山(うらやま)**

登録番号 **F0019**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。大宰府政庁跡の北西にあたる地域である。

名称 **旧小字標石　林崎(はやしざき)**

登録番号 **F0020**　現代

所在場所 **坂本3丁目　坂本公園入口**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。坂本公園の入口に所在している。

F 地区

名称　**旧小字標石　西浦**(にしうら)

登録番号 **F0021**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。大宰府政庁跡の西方背後にあたる地域である。

名称　**旧小字標石　池田**(いけだ)

登録番号 **F0022**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

名称　**旧小字標石　前**(まえ)

登録番号 **F0023**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

住居表示変更により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明。

名称　**万葉歌碑　大伴旅人**(世の中は…)

登録番号 **F0024**　現代

所在場所 **大字坂本　都府楼跡北辺**

平成19(2007)年3月に建立されたもので、奈良時代の万葉集筑紫歌壇の中心人物であった大伴旅人の歌が刻まれている。歌「世の中は空しきものと知る時しいよゝますます悲しかりけり」訳「世の中はむなしいものだとつくづく知る時、いよいよますます悲哀の感を新たにすることだ」

名称　**坂本八幡宮**

登録番号 **F0025**　中世

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡宮)**

坂本地区の土地神・産土神として崇拝されている八幡宮で、祭神は応神天皇一座。『福岡県神社誌』によると戦国時代の天文・弘治頃(16世紀中頃)に勧請されたといわれる。現在も坂本地区の方々によって、様々な年中行事が行われている。

名称　**旧小字標石　辻**(つじ)

登録番号 **F0026**　現代

所在場所 **坂本3丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明。

名称 **万葉歌碑　大弐紀卿**(正月立ち…)

登録番号 F0027　現代

所在場所 **観世音寺4丁目(都府楼跡史跡地内)**

平成17(2005)年10月建立の碑。奈良時代の官人・大宰大弐で梅花の宴にも列席した筑紫歌壇の一人、紀卿(きのきょう)の歌が伊予青石に刻まれている。歌「正月立ち春の来たらばかくしこそ梅を招きつつ楽しき終へめ」訳「正月になり春が来たので、このように梅を招いて、楽しい日を過ごそう。」

名称 **蔵司　稲荷堂**

登録番号 F0028

所在場所 **観世音寺3丁目**

大宰府政庁跡西方に位置する蔵司の山中にある御堂。江戸時代に書かれた『筑前国続風土記附録』では、観世音寺村内に稲荷社があったことが記されている。現在はコンクリート製の祠が立ち、内部にある木製の祭壇にお稲荷様、恵比寿様、不動明王などが合祀されている。

名称 **旧小字標石　大正府**(おおしょうぶ)

登録番号 F0029　現代

所在場所 **坂本3丁目　坂本公民館入口**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である大正府(おおしょうぶ・おおしょうふ)には、昔の役所跡との謂われが残る。

名称 **旧小字標石　小正府**(こしょうぶ)

登録番号 F0030　現代

所在場所 **坂本3丁目　西日本ヘルスセンター　バス停前**

平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である小正府(こしょうぶ・こしょうふ)は、昔の役所跡に由来するのではないかといわれている。

名称 **旧小字標石　松倉**(まつくら)

登録番号 F0031　現代

所在場所 **坂本2丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

名称 **旧小字標石　エリカド**

登録番号 F0033　現代

所在場所 **坂本2丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

F 地区

名称　大谷川から流れてくる水路(洗出付近)

登録番号 F0034

所在場所 坂本1丁目

昭和28年(1953)に発生した大谷川の氾濫で、近辺の土地は地名の通り”洗い出される”状況であったという。昭和46年(1971)から54年(1979)まで在任した川辺町長の時代に現在のような水路が整備され、その後の大雨でも被害は少なかった。

名称　十三仏堂

登録番号 F0036　近代

所在場所 坂本1丁目

坂本区石橋にある御堂。石造不動明王立像、釈迦如来、文殊菩薩など十三仏が横一列に並び祀られている。近年まで、春・秋に千人参りの人々が来ていた。また、かつては代人さん(祈祷師)がいて、国分・坂本・通古賀で祈祷されていた。よく当たると評判で遠くからも信者が来ていたという。

名称　観音堂と観音様

登録番号 F0037

所在場所 坂本1丁目(字石橋)

坂本1丁目字石橋にある観音堂。堂内には高さ1m程の石造観世音菩薩立像が祀られている。以前は代人さん(祈祷師)がいたという。御堂の隣には十三仏堂がある。

名称　旧小字標石　石橋(いしばし)

登録番号 F0038　現代

所在場所 坂本1丁目(字石橋)

旧小字名の石標(平成5年)。門司から鹿児島まで通り抜ける幹線道路であったため、当時としては珍しい石橋が架かっていた。そのあたりを石橋と呼び地名に残る。

名称　苅萱(かるかや)の関跡の碑

登録番号 F0040

所在場所 坂本1丁目

苅萱の関には、苅萱道心・石堂丸の説話があり、説教「かるかや」として全国的に流布した。また、有名であった苅萱の関は菅原道真、宗祇法師、細川幽斎ら多くの歌人が歌に詠んでいる。現在、関跡には立派な石碑が建立されている。

名称　石碑

登録番号 F0041

所在場所 坂本1丁目

坂本1丁目の恵比寿堂左後ろにある石碑。表面に残された「寄進」の文字がわずかながら判読できる。

名称 **石灯籠**

登録番号 F0042

所在場所 **坂本1丁目**

坂本1丁目にある恵比寿堂の前に所在する石灯籠。御堂の右手に位置している。灯籠上部の石は、五輪塔空風輪。

名称 **恵比寿堂**

登録番号 F0044　近代

所在場所 **坂本1丁目(関屋恵比寿堂)**

昭和9年(1934)、同14年(1939)に発生した飢饉の際に、村を豊かにし救って下さるようにと恵比寿様をお祀りしたといわれる。現在、関屋地区の方々の手でお祀りをされており、毎年12月3日にはえびす講が行われている。

名称 **苅萱大橋(かるかやおおはし)**

登録番号 F0046　現代

所在場所 **通古賀3丁目**

通古賀3丁目を流れる御笠川に架かる橋。昭和60年(1985)3月に完成した橋で、欄干は朱色に塗られ、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **旧小字標石　関屋(せきや)**

登録番号 F0043　現代

所在場所 **坂本1丁目**

平成5(1993)年の住居表示変更に伴い消える旧小字名を印した石標。関屋の由来は、昔の国道である往還に関所があった所といわれ、飛鳥時代の天智天皇の頃まで遡ると伝えられている。この往還沿いには、戦争の際に敵を妨害するために松が植えられており、並木の松と呼ばれていた。

名称 **久保田井堰**

登録番号 F0045　近世

所在場所 **坂本1丁目**

設置時期は定かではないが、江戸時代後期の1800年頃の記録では2町8反3畝を灌漑しており、井堰が損壊して補修を行う場合に大佐野村の山々から資材を調達出来るようにという嘆願が出された記録が残っている。付近には明治35年(1902)に建立された石碑が残されている。

名称 **石燈籠(常夜燈)**

登録番号 F0047　近世

所在場所 **坂本1丁目**

さいふ詣りの道を照らす灯籠として享和2(1802)年に寄進されたもの。台座には石工や願主など20名以上の人々の名が刻まれている。この灯籠に使う油代の為に、天満宮は小作の田を灯明田として貸与していた。灯明は、先の戦時中まで毎夕灯されていたが、現在は毎月25日にのみ灯されている。

F 地区

名称　潮井台（潮齋台　しおいだい）

登録番号 F0048　近世

所在場所 坂本1丁目

付近にある一の鳥居と共に、江戸時代後期の文久2年（1862）5月に建立されたものである。側面には奉献した人々や石工の氏名が刻銘されている。この潮井台は身を清めるための砂を置いた台であり、太宰府天満宮参拝者は砂を潮井として使い身を清め、天満宮へと参拝を行っていた。

名称　関屋の道標（元禄4年の道標）

登録番号 F0049　近世

所在場所 坂本1丁目

一の鳥居のそばにある石碑（写真右側）。元禄4（1691）年に建立されたもので、高さ70cmほどの玄武岩の自然石に表「是ヨリひがしさいふ参詣」裏「元禄四辛未天寄進　福岡呉服町帶屋宇兵書」と刻まれている。一の鳥居での事故による付近の道路整備の際に、道標もやや移動している。

名称　関屋の道標（享和2年の道標）

登録番号 F0050　近世

所在場所 坂本1丁目

一の鳥居のそばにある石碑（写真左側）。享和2年（1802）建立のもので、70cm四方、厚さ30cm程の石に、梅鉢の紋と「天満宮東従是二十ニ丁　享和ニ年壬戌年」と刻まれている。一の鳥居が事故により損傷したのを受けて、付近の道路整備した際、道幅が広がったため道標もやや移動した。

名称　天満宮一の鳥居（関屋の鳥居）

登録番号 F0051　近世

所在場所 坂本1丁目

二本の太い円柱が堀立てられており、地上部より笠木頂部まで高さ6mある。柱の陰刻から文久2（1862）年に筑前國主左近衛権中將従四位下源朝臣斉溥建によって建立されたことが分かる。その後、事故により損傷。

名称　関屋橋の碑

登録番号 F0052　近代

所在場所 坂本1丁目

太宰府天満宮の一の鳥居の側に道標や潮井台と共に並ぶ石碑。明治時代に関屋橋の架橋を記念して建立されたものである。石碑には明治7年（1874）に関屋橋が架けられ、明治20年（1887）4月に再架橋されていることが刻銘で残されており、関屋橋が水害で度々流失していたことがうかがえる。

名称　関屋

登録番号 F0053

所在場所 坂本

太宰府市の西部、四王寺山脈の南麓に位置する坂本区の小字名。地名の由来は、刈萱伝説で有名な刈萱の関があったことによる。

名称 **遠賀団(おかだん)印出土地の碑**

登録番号 F0054　近代 現代

所在場所 **観世音寺3丁目(水城小学校　校庭)**

重要文化財「遠賀団印」(銅印)の出土地を示した記念碑。高さ118cm程の石碑は、出土を記念して昭和に入ってから建立されたもので、もともとは中庭にあったものだが現在は校庭へと移設されている。また、遠賀団印をかたどった記念碑も近年新たに建立されている。

名称 **御笠北高等小学校之跡の碑**

登録番号 F0055　現代

所在場所 **観世音寺3丁目(水城小学校　校庭)**

明治32年(1899)から同44年(1911)まであった、御笠北高等小学校の記念碑で、学校の名を残していこうと、昭和45年(1970)に建立。大正2年(1913)水城尋常小学校に高等小学校が併置されたことで、御笠北高等小学校は解散し、水城尋常小学校がこの地に移転している。

名称 **旧小字標石　来木(らいき)**

登録番号 F0056　現代

所在場所 **観世音寺3丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

名称 **学業院中学校**

登録番号 F0057　現代

所在場所 **観世音寺3丁目(学業院中学校)**

学業院中学校は、昭和22年(1947)4月15日の新制中学校制度移行によって開校。昭和24年に宮村高等女学校理事長の宮村吉蔵氏から土地・校舎の寄贈を受けた。この功績を伝えるため、校内に像と記念碑・顕彰額が設置。校長室前にある扁額の素材は、水城跡出土の木樋材。

名称 **旧小字標石　広丸(ひろまる)**

登録番号 F0058　現代

所在場所 **観世音寺2丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

名称 **旧小字標石　大楠(おおぐす)**

登録番号 F0059　現代

所在場所 **観世音寺2丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名の由来は不明である。

F地区

名称　旧小字標石　蔵司（くらつかさ）

登録番号 F0060　現代

所在場所 観世音寺3丁目

平成5年(1993)8月に旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「蔵司」は「くらのつかさ・くらつかさ」と呼称されており、大宰府の府庫を管理する役所があり「租(税米)」のほか、管内の「調(土地の産物)」、「庸(徭役またはその代わりの物納)」を扱っていた名残といわれている。

名称　旧小字標石　不丁（ふちょう）

登録番号 F0061　現代

所在場所 観世音寺2丁目

平成5(1993)年に太宰府市で建てられた小字の石標の一つ。「ふちょう」と呼称され、「府庁」とも記されることから、大宰府在りし頃の関係する役所跡があった場所の名残と考えられる。発掘調査で、役所跡と考えられる大型建物も検出されている。

名称　高浜虚子歌碑（夜都府楼跡に佇む･･･）

登録番号 F0062　現代

所在場所 観世音寺2丁目

大宰府政庁跡、朱雀通りに面して立つ高浜虚子の歌碑。高浜虚子が大正6(1917)年、初めて九州を訪れた際に都府楼跡で詠んだ句「「夜　都府楼跡に佇む　天の川の下に　天智天皇と臣虚子と 」が刻まれている。歌碑自体は、昭和28年(1953)11月に田中斐川(ひせん)により建立。

名称　大宰府正門礎石（朱雀門礎石）

登録番号 F0063　古代　現代

所在場所 観世音寺4丁目

昭和57(1982)年、政庁正面付近の御笠川改修工事により発見された礎石。大きさは2.42m×1.82mで、上面に径66cmの円形柱座を造り出す。重さが約4トンあるこの巨石は、その出土地から、大宰府政庁朱雀門の礎石であると考えられる。

名称　史蹟太宰府阯碑

登録番号 F0064　近代

所在場所 観世音寺4丁目

大宰府政庁跡の南側に建つ石碑。碑には「史蹟名勝天然記念物保存法」「大正十年三月内務大臣指定」の刻銘が残されており、大正10年(1921)3月3日に政庁中心部が史跡指定を受けたのを記念して建立されたものと考えられる。

名称　都府楼之址従是壱町碑

登録番号 F0065

所在場所 観世音寺4丁目

大宰府政庁跡南側の入口付近に立つ石碑。表面には「都府楼之址　従是壱町」と刻まれており、本来は道標の役割を果たしていたと考えられる。もともとの所在地や由来などは不明である。

名称 **都府楼道路開通記念碑**

登録番号 F0066　近代

所在場所 **観世音寺4丁目**

明治43年(1910)に、榎社から都府楼迄の新道が造られた事を記念した石碑。前面には多数の寄附者と金額が、後面には発起人の名が刻まれている。現在は大宰府政庁跡の南門礎石上に建てられている。

名称 **万葉歌碑　大伴旅人**(やすみしし…)

登録番号 F0067　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**

官人であり、優れた歌人でもあった大宰帥大伴旅人(おおともの たびと)が詠んだ歌を記した万葉歌碑。大宰少弐石川足人の問いかけに応えて詠んだ歌「やすみしし　わご大君の食国は倭も此処も同じとぞ思う」が刻まれている。昭和59(1984)年に福岡ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞの寄贈で建立されたもの。

名称 **万葉歌碑　小野老**(あをによし…)

登録番号 F0068　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**

平成17(2005)年10月に建立されたもので、奈良時代の官人で梅花の宴にも列席した筑紫歌壇の1人であった小野老(おのの おゆ)の歌が刻まれている。歌「あをによし　寧楽の京師は咲く花の　薫ふがごとく　今さかりなり」訳「奈良の都は、咲く花が美しく薫るように、今がまっ盛りである」

名称 **史蹟大宰府阯境界碑**

登録番号 F0069　近代　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**

大宰府展示館の前に所在する2本の石碑。かつて史蹟指定を受けた際の境界石である。

名称 **玉石垣支柱とトウカエデ**

登録番号 F0070

所在場所 **観世音寺4丁目**

昔、大宰府政庁正殿跡周辺を玉石垣で囲っていた時の名残の一本が、トウカエデの幹に巻き込まれたような形になっている。

名称 **太宰府碑**

登録番号 F0071　近代

所在場所 **観世音寺4丁目**

大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑のひとつ。大宰府の意義を後生に伝えようと、福岡藩西学問所甘棠館教授亀井南冥が寛政元年(1789)に建立しようとしたが、藩がその文面に意義をとなえ許可が下りず、南冥は甘棠館教授を罷免された。大正3年(1914)に門下生の尽力により建碑された。

F 地区

名称　都督府古趾

登録番号 F0072　　近代

所在場所 観世音寺4丁目

大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑の1つ。江戸時代、福岡藩では礎石数調査を行い、礎石を取ることを禁じるなど史跡保存を図るが、明治時代になっても標石などは建立されなかった。その為、乙金村大庄屋の高原善七郎が、明治4年(1871)に自費で建立したもの。

名称　太宰府址碑

登録番号 F0073　　近代

所在場所 観世音寺4丁目

大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑のひとつ。明治13年(1880)御笠郡の人々の要請で福岡県令渡辺清が文を撰し、日下部東作書、陸軍大将熾仁親王篆額により、大宰府の由来を彫りつけたもの。

名称　帯塚碑

登録番号 F0075　　現代

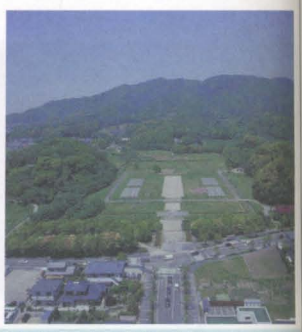
所在場所 観世音寺4丁目

花鳥山仏心寺は『ホトトギス』同人の河野静雲(こうのせいうん)が建てた寺で、高浜虚子を祀る虚子堂の奥にこの帯塚がある。高浜虚子がすり切れるまで愛用した博多帯を静雲に託し、この寺のそばに埋めてほしいと願ったことにより昭和29(1954)年に建立されたものである。

名称　史跡大宰府址境(界)碑

登録番号 F0076　　近代　現代

所在場所 観世音寺4丁目



大宰府址と私有地との境界を示す石碑。観世音寺地区には数多く所在している。

名称　庚申塔

登録番号 F0077　　近世

所在場所 観世音寺4丁目

観世音寺4丁目で祀られている庚申塔。高さ114cmほどの大きさで、江戸時代後期の文化5年(1808)2月に建立されたものである。庚申信仰は、中国の道教思想に由来し、60日ごとに回ってくる庚申の夜に宿主の家に集い、眠らずに夜を明かすもの。

名称　旧小字標石　日吉(ひよし・ひえ)

登録番号 F0078　　現代

所在場所 観世音寺1丁目

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「日吉」は、観世音寺の北にある日吉神社に由来するともいわれている。

名称 **旧小字標石　月山**(つきやま)

登録番号 **F0079**　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「月山」は「つきやま」と呼称され、「築山」「辰山(ときやま)」とも書く。大宰府政庁に時を知らせる漏刻台(水時計)があった所であるといわれている。

名称 **旧小字標石　住ヶ元**(すみがもと)

登録番号 **F0080**　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**

地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「住ヶ元」の由来など詳細は不明である。

名称 **庚申塔**

登録番号 **F0081**　近世

所在場所 **観世音寺4丁目**

観世音寺4丁目学業地区に所在する庚申様。高さ107cm程の石碑には「庚申天」の文字と建立年月日が刻まれており、江戸時代である寛政4年(1792)2月に建立されたことが分かる。地域の方々に信仰されており、以前は田植の際に苗を2～3束御供えしていたという。

名称 **旧小字標石　学業**(がくぎょう)

登録番号 **F0082**　現代

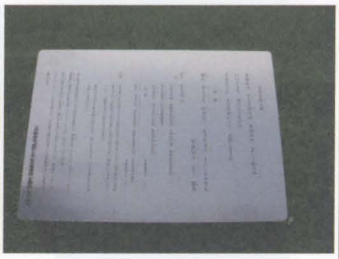
所在場所 **観世音寺4丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「学業」は「がっきゅう」「がくぎょう」とも呼称され、大宰府政庁の官人を育てるための学校院があったことに由来している。

名称 **万葉歌碑　山上憶良**(子等を思ふ歌)

登録番号 **F0083**　現代

所在場所 **観世音寺4丁目**



観世音寺4丁目、学校院跡北側・観世音寺公民館前に所在する万葉歌碑。平成17(2005)年10月に建立されたもので、奈良時代の役人で社会派・生活派と呼ばれる有名な歌人であった山上憶良の歌が2首刻まれている。

名称 **旧小字標石　五反田**(ごたんだ)

登録番号 **F0085**　現代

所在場所 **観世音寺1丁目**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「五反田」の由来など詳細は不明である。

F 地区

名称　学業院址碑（学校院址）

登録番号 F0086　近代　現代

所在場所 観世音寺4丁目

律令制下で中央に大学、地方に国ごとに国学が置かれ、大宰府には府学校が置かれた。大宰府や管内諸国の官吏養成が目的。明経（みんぎょう）・医術・算術等を約200名の人々が学んでいた。明治末期と昭和47年（1972）に建立された2本の石碑が残っている。

名称　都府楼橋碑

登録番号 F0087　近代

所在場所 観世音寺1丁目

都府楼橋を記念して明治43（1910）年に建立された石碑。西面に「都府楼橋」、北面に「一金百圓寄附　吉鹿仙右エ門　梅津傳次郎」、南面に「明治四三年三月」と刻まれている。現在の橋は昭和53年3月に竣工したもの。周辺の区画整理する頃まで、石碑は川底にあったという。

名称　都府楼橋（とふろうばし）

登録番号 F0088　現代

所在場所 観世音寺1丁目・朱雀5丁目・朱雀6丁目

御笠川に架る橋で、国道3号線と観世音寺1丁目を結んでいる。現在の橋は昭和53年（1978）3月に完成したもので、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。

名称　朱雀大橋（すざくおおはし）

登録番号 F0089　現代

所在場所 観世音寺1丁目ほか

昭和59年（1984）3月に完成した、御笠川に架かる橋。大宰府政庁前から南下する県道505号線が通っている。この橋から北側を望むと、四王寺山を背景に大宰府政庁跡が緑の空間として広がり、「古都大宰府」を代表するひとつの景観となっている。

名称　五反田堰

登録番号 F0090　近世　近代　現代

所在場所 観世音寺1丁目

細い木枝を束ねた粗朶（そだ）で造った堰であったが戦後にコンクリート製へと改築。現在は、電動または手動にて堰の水止め板を上げ下げしている。ここから引かれた水は土居内・五反田地域の水田を潤していたが、2008年からは上流にあった露切堰の分もまかなっている。

名称　旧小字標石　土居ノ内（どいのうち）

登録番号 F0091　現代

所在場所 観世音寺1丁目

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年（1993）11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「土居之内」の由来など、詳細は不明である。

名称 **塚**

登録番号 F0093

所在場所 **観世音寺1丁目**

かつて観世音寺1丁目に所在していた塚。以前は田圃の中に、小さな土盛のようなものがあり「塚」と呼ばれていた。土地区画整理により、現存はしていない。

名称 **観世音寺大橋**(かんぜおんじおおはし)

登録番号 F0094　現代

所在場所 **観世音寺1丁目・五条2丁目**

御笠川に架かる橋で、観世音寺1丁目と五条2丁目を結んでいる。この橋から北側への延長線上には観世音寺が位置しており、その参道が望める。現在の橋は昭和57年(1982)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られて、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **高橋紹運公墓道碑**

登録番号 F0095　近代

所在場所 **観世音寺5丁目**

観世音寺5丁目に所在する高橋紹運墓への道を示す道標。表面には「高橋紹運墓道　是ヨリ七町」と刻銘されており、この地点から安養寺武藤少弐の墓を経て、岩屋城二の丸へと登っていく。石碑自体は明治38年(1905)、乙金村の高原謙次郎によって建立されたものである。

名称 **道路更正碑**

登録番号 F0096　現代

所在場所 **観世音寺4丁目(観世音寺公民館横)**

観世音寺4丁目、観世音寺公民館横に所在する道路更生碑。昭和30(1955)年に朝日地蔵から大宰府展示館東側までの道路を拡幅した際の記念碑である。

名称 **公民館建築記念碑**

登録番号 F0097　現代

所在場所 **観世音寺4丁目(観世音寺公民館横)**

観世音寺公民館建築を記念して建立された石碑。昭和31年(1956)5月に建立されたもので、以前は旗立石としても使用されていたという。

名称 **庚申天**

登録番号 F0099　近世

所在場所 **観世音寺4丁目**

高さ126cmほどの石碑には「庚申天」の文字や建立年月日が刻銘されており、江戸時代後期にあたる文化3年(1806)12月に建立されたことが分かる。道路拡張のため奥側へと移動しており、現在は個人宅玄関に位置している。また、田植えの時には手苗を2、3束上げていたという。

F 地区

名称　旧小字標石　安養寺(あんようじ)

登録番号 F0100　現代

所在場所 観世音寺4丁目

平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「安養寺」は、鎌倉時代に大宰少弐武藤資頼が開基したお寺(安養院・安養寺)があった場所と伝えられている。この安養院は、観世音寺49子院の一つとされており、武藤資頼・資能の墓所が存在している。

名称　旧小字標石　堂廻(どうめぐり)

登録番号 F0102　現代

所在場所 観世音寺5丁目

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「堂廻」は「どうめぐり(どうまわり)」と読み、観世音寺の寺領の内、講堂、金堂、戒壇院を含む箇所を意味している。

名称　観世音寺

登録番号 F0103　古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)

朝鮮半島出兵のために筑紫に出向き、661年に朝倉橋広庭宮で亡くなった御母斉明天皇を弔うため、息子天智天皇が発願した寺。度重なる災害で、現在の講堂・金堂は江戸時代に再建。宝蔵には平安・鎌倉期の巨大な仏像16体等が安置(重要文化財)。また、国宝の梵鐘が現存。

名称　戒壇院

登録番号 F0104　古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 観世音寺5丁目

天平宝字5(761)年、東大寺戒壇院に続き、下野薬師寺の戒壇院とともに設置された三戒壇のひとつ。観世音寺内に置かれ、西海道諸国の僧尼の受戒所で、通称西戒壇と呼ばれていた。元禄16(1703)年に観世音寺から分離独立し、現在は臨済宗妙心寺派、山号は宝珠山である。

名称　旧小字標石　山ノ井(やまのい)

登録番号 F0105　現代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社入り口)

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。日吉神社入口に所在している。地名の由来は不明である。

名称　旧小字標石　今道(いまみち)

登録番号 F0106　現代

所在場所 観世音寺5丁目

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。観世音寺境内の東北隅、サルサワ池の跡付近に所在している。地名の由来は不明である。

名称 **旧小字標石　御所ノ内**(ごしょのうち)

登録番号 **F0107**　現代

所在場所 **観世音寺5丁目**

平成5年(1993)の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「御所ノ内」が刻銘されている。小字名の由来は、鎌倉時代に武藤氏の館(御所)があったためと伝えられている。

名称 **大師堂**

登録番号 **F0108**　現代

所在場所 **観世音寺5丁目**

木造瓦葺で中に、石造弘法大師坐像、石造弘法大師坐像、金銅塗大日如来坐像他があり、地元で祀る。御堂は昭和47(1972)年再築。

名称 **本殿拝殿(日吉神社)**

登録番号 **F0109**　古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 **観世音寺5丁目(日吉神社)**

比叡山延暦寺の鎮守神・日吉(ひえ)神社を勧請したもの。現在、年中行事は氏子会のお世話で続けられている。約100人位の地域住民で構成されており、おこもり、宮座には各々40～50人が参加している。平成21年(2009)末から観世音寺ライトアップに合わせて、行灯照明を行っている。

名称 **旧小字標石　露切**(つゆきり・つゆぎり)

登録番号 **F0111**　現代

所在場所 **観世音寺1丁目**

平成5年(1993)11月の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「露切」が刻銘されている。小字名露切(つゆきり・つゆぎり)の由来については不明である。

名称 **五条橋**(ごじょうばし)

登録番号 **F0112**　現代

所在場所 **五条1丁目・五条2丁目・観世音寺1丁目**

五条地区を流れる御笠川に架かる橋で、県道76号線が通っている。現在の橋は昭和48年(1973)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られて、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **高橋口橋**(たかはしぐちばし)

登録番号 **F0113**　現代

所在場所 **五条2丁目・観世音寺1丁目**

御笠川に架かる橋。高橋口はかつて宰府詣りの4つの構口のひとつ。藍染川が合流するこの付近上流を岩渕川といい、昔はこれから下を思ひ川と言っていた。現在橋に書かれている川の名称は上流から「御笠川」である。

F 地区

名称　旧小字石標　朝日(あさひ)

登録番号 F0114　　現代

所在場所 観世音寺5丁目

平成5年に太宰府市で建てられた小字の石標の一つ。朝日山の東に位置し、山の名に由来していると考えられる。山は今は無い。この地に朝日地蔵(旭地蔵)が祀られている。

名称　朝日地蔵堂

登録番号 F0115　　中世 近世 近代 現代

所在場所 観世音寺5丁目

鎌倉時代、横岳山崇福寺の開基、湛慧(たんね)禅師が、正月に観世音寺の前を通りかかった時、観世音寺では正月最初に門前を通った者を鬼とするならわし(追儺・ついな)があった為、捕えられて追儺の鬼にされた。これを恥じて後年、この地に穴を掘って籠もり入定したと言われている。

名称　朝日山遺跡石仏石塔群

登録番号 F0116　　中世 近世

所在場所 観世音寺5丁目(朝日山公園内)

住居地公園の大きなセンダンの木の下にある石塔群。開発に伴って発掘された石造物を集めて説明板を立てている。

名称　導水トンネル(新山の井池～上方・朝日水路)

登録番号 F0117　　近代

所在場所 観世音寺5丁目

新山の井池が出来た後で、その水利用の為、一部を池の堤添いに溝に流し、日吉神社の続きの山の下をトンネル堀して上方、朝日地区の用水とした。現在も水田用に利用されている。

名称　山の井池石塔群

登録番号 F0118　　中世

所在場所 観世音寺5丁目

池のほとりに苔むす石塔あり。五輪塔を集めてある。いつからあるか不明。

名称　導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口)

登録番号 F0120　　近代

所在場所 観世音寺5丁目

大正年間に農業用溜池を増やす為に隊道をつくり、新山の井池を造った。四王寺山の水が山の池に落ちる場所に、導水トンネルを掘り、この新山の池を造った。

名称　**岩屋城合戦 関連石造物 3**

登録番号 **F0121**　中世　近世

所在場所 **太宰府(四王寺山)**

岩屋合戦で戦没の萩尾大学の墓。金光寺跡から磨崖石塔群へと登る道の左手にある。いつもきれいに祀られている。

名称　**旧小字標石　大裏(だいり・おおうら)**

登録番号 **F0122**　現代

所在場所 **観世音寺3丁目　都府楼跡北辺**

住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名「大裏」は内裏、紫宸殿ともいわれ、天智天皇の内裏跡や安徳帝の行宮があった場所だという謂われが残っている。

名称　**観音堂**

登録番号 **F0124**　近世

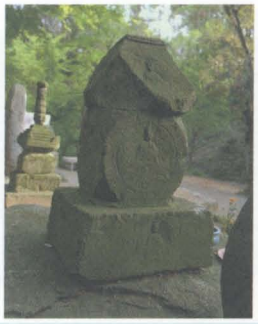
所在場所 **観世音寺4丁目**

観世音寺4丁目大裏にある観音堂。御本尊は『筑前国続風土記附録』にも記録がある石造聖観音坐像である。また、御堂内には板碑と梵字刻まれた切石も共に祀ってある。

名称　**太宰府安養院跡五輪塔残欠**

登録番号 **F0125**　中世

所在場所 **観世音寺4丁目**



観世音寺の北側安養院跡に立っている石造りの五輪塔。この塔は一石の擬灰岩でつくられ、さらに水輪を球形にするものを、八方の隅をカットした形で造られ、高さは75.5cm。鎌倉時代中頃の塔と考えられるもので、少弐資頼の墓に比定されている。同形のものが宇佐にある。

名称　**追分石(道標　花屋敷サコ)**

登録番号 **F0126**

所在場所 **坂本3丁目**

四王寺山への道の分岐点に建立されている追分石で、花屋敷地区からサコ地区への道標とされる。写真表面側には「←迫」の銘があり、矢印で迫地区を示している。また、写真右側側面部には「→　四王寺」の銘あり、四王寺方面への道を示している。

名称　**時の記念日の行事**

登録番号 **F0127**　近代　現代

所在場所 **観世音寺4丁目(政庁跡正殿前)**

水城小学校で行われていた、時の大切さを学ぶ行事。大宰府政庁跡東側の月山に、漏刻が置かれていたことに因んだもの。6月10日に時計を持たずに都府楼跡へ早朝6時ちょうどに、到着出来るかを競うもの。平成23年11月20日に太宰府市民遺産第6号に認定。

F 地区

名称　坂本のダブリュウ

登録番号 F0128　現代

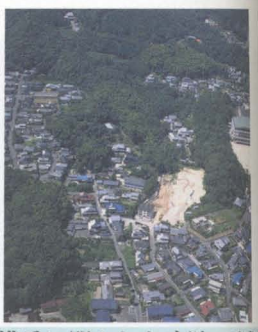
所在場所 坂本

水神に田の水の豊潤を願い、あわせて牛馬安全の祈願を行う行事。4月末から5月初めにかけてのノシロ作りの前に行われ、坂本八幡宮の東側の水路に水神棚を設ける。水神棚は女竹を三本または四本立てて上部を括り、竹で編んだ棚を吊して上に注連を張ったものである。

名称　横岳山崇福寺跡(勝禅寺跡)

登録番号 F0129　中世

所在場所 白川



禅僧である湛慧のよって太宰府の横岳に開かれた寺院。発掘調査によって仏殿・僧堂と瑞雲堂が確認されている。

名称　関屋のつなぎだご

登録番号 F0130　近世　近代

所在場所 坂本1丁目

洗出付近の旧街道沿いの団子屋で売られていた名物で、親指大の団子5～6個を竹串にさして餡を塗ったもの。関屋の商人が、高橋紹運の機智を称え、竹串の団子を竹に突き刺された島津兵に見立て、売り出したといわれる。明治の中頃、小学校建設のために転業した。

名称　御笠団印出土地周辺遺跡

登録番号 F0131　古代

所在場所 坂本3丁目

太宰府市坂本3丁目に広がる遺跡。「御笠団印出土地周辺遺跡」の名称は、第1～11次調査のみの名称である。発掘調査によって、7世紀の竪穴住居・建物、奈良～平安時代の木棺墓・溝・井戸などが確認されている。

名称　大宰府跡(大宰府政庁跡、都府楼跡)

登録番号 F0133　古代

所在場所 観世音寺4丁目

古代律令制下にあって外交を掌り、西海道(九国三島)諸国を統括した「大宰府」の中心をなす遺跡である。国際情勢の転換に対処するため、外交国防の中枢として、「那津官家」から移建されたと推定される。現在は発掘調査成果をもとに環境整備され、往時の遺構が平面復原されている。

名称　大石垣(大野城跡)

登録番号 F0134　古代

所在場所 坂本

大宰府政庁の後背部分にあたる石垣で、政庁横を流れる川の上流約2km付近に位置する。全長約64m、高さ約4.5m、外壁面は約72度の傾斜をなしている。盲水門的構造であった可能性が考えられ、背面では積み石も検出され、上端の幅が約4mの石塁であることも確認された。

名称 **坂本村**

登録番号 F0135

所在場所 **坂本**

『筑前続風土記』によると「四王寺に上がる道筋なるがゆへ、坂本と云」とあり、四王寺山の登り口であった事に由来するという。古代から中世にかけて、四王院の座主が善正寺坂本坊に存在したとされている。近世には、武士であった大田家と武藤家が中心となり発展が進んだと伝えられている。

名称 **善正寺ヤシキ**

登録番号 F0136

所在場所 **坂本3丁目**

付近には戌薬師や、由来不詳の岩石が数個置かれており、「ヤシキ」があったことが想像できる空間である。善正寺は『筑前国続風土記』によれば「四王寺の座主坂本坊善正寺なり。僧位大僧正を極官とする」とあり、『武藤少弐系図』によれば少弐氏滅亡とともに坂本坊も絶えたという。

名称 **甲城谷(口上谷)**

登録番号 F0137

所在場所 **坂本**

地元坂本地区の方の話によると、以前は東谷口下方の山麓にある砂防ダム西側付近を「甲城谷(口上谷)」と呼んでいたという。地名は時代とともに変わっているケースがあり、従来は広範囲で「甲城谷」と呼称されていたものが、現代では上記のような地域を指すようになってきたようである。

名称 **門ノ石スエ**

登録番号 F0138

所在場所 **坂本**

坂本口城門は古くから知られており、『太宰府旧蹟全図北』にも「門ノ石スエ」として一対の礎石が図示されている。現在残されている1個の礎石は推定地より約150m程下方にあり、その地点に城門を築くのは立地的に疑問であり、礎石の向き具合等からも上部から転落してきたものと考えられる。

名称 **東谷口築堤碑**

登録番号 F0139 近代

所在場所 **大字坂本　坂本新池畔**

坂本新池の堤防東端に建てられている東谷口築堤の石碑。昭和11(1936)年、坂本新池が完成した際に建立されたものである。

名称 **大行事碑**

登録番号 F0140 近世

所在場所 **大字観世音寺　安之浦池横　山中**

観世音寺区安之浦池横の山中にある大行事塔。高さ177cm×幅95cmの大きさで、「慶應三丁卯四月日」と陰刻があり1867年に建立されたことがわかる。牛馬を飼っていた時代は9月におまつりをしていた。現在は注連縄をかけるのみだが、毎年正月前に掛け替えを行っている。

F地区

名称　坂本区のほんげんぎょう

登録番号 F0141

所在場所 観世音寺4丁目　坂本八幡宮前の梅林

毎年正月7日の早朝に行われる火焚き行事。坂本区は政庁域北西端の広場に櫓を立てて行っている。櫓は、高さ3m程で真ん中に葉のついた孟宗竹が立てられている。前日の夕方には、各戸から正月飾りを持ち寄って櫓に取り付けている。区の行事として復興され30～40年が経過している。

名称　観世音寺区のほんげんぎょう

登録番号 F0142

所在場所 観世音寺4丁目

正月7日の早朝に行われる火焚き行事。観世区では公民館前のちびっこ広場に櫓を立て、子供会のお母さん方がぜんざいの炊き出しを行っている。60年位前までは、上方往還安養寺月山など各組毎に行っていた。35年程前に区の呼びかけで復興され、現在も続けられている。

名称　大城山(四王寺山)

登録番号 F0143

所在場所 太宰府

標高410.0mを測る。最高点は宇美町と大野城市の境界に位置する。

名称　導水トンネル(安の浦から安養寺地区)

登録番号 F0144

所在場所 観世音寺4丁目　安の浦池より安養寺へ

安ノ浦池の水を有効利用するために建設された導水トンネル。安ノ浦池から取水して、安養寺地区へと流れる部分がトンネルとなっており、安養寺道の上方からは道の下を通っている。現在は山ノ井池からの用水と一緒に使用されている。

名称　旧小字標　油田(あぶらでん・あぶらだ)

登録番号 F0146　現代

所在場所 観世音寺2丁目

太宰府市の旧小字名を記した石碑。住居表示変更によって消失する由緒ある小字名を残すため、平成5年(1993)11月に建立されたものである。

名称　玄昉の墓

登録番号 F0147　中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)

玄昉は奈良時代の僧。渡唐中は玄宗皇帝、帰国後は聖武天皇からの信任厚く、重用された。後に観世音寺造営を命じられ大宰府に下り、天平18(746)年6月、落慶法要中、怨霊に空高く連れ去られ、胴や手足がばらばらに落ちてきた。この怪死は「藤原広嗣の怨霊に殺されたのだ」と噂された。

名称 **導水トンネル**(安の浦池から学業地区へ)

登録番号 F0148

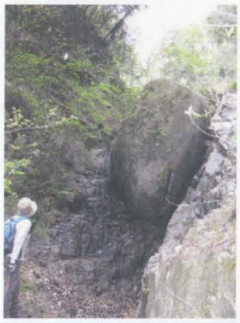
所在場所 **観世音寺4丁目**

安ノ浦池の水を有効利用するために建設された導水トンネル。安ノ浦池から、池尻の溝を下り、竹林の中を抜ける部分がトンネルとなっており、学業の民家付近で流路が2つに分かれている。現在は、竹林を通る部分がコンクリート製に改修されており、学業の流路は1方向だけが使用されている。

名称 **般度の滝**

登録番号 F0149

所在場所 **大字坂本**



『旧蹟全図』にも記載があり古くから信仰の場で、行者の方々が多く訪れており、寄進された石仏は100体以上にのぼる。昭和48年(1973)7月30日の水害により、広さ8畳程の御堂が流される等の大きな被害を受け、滝自体も消滅してしまった。流失した石仏はオカッテンサンに祀られている。

名称 **少弐資能**(しょうにすけよし)**墓**

登録番号 F0150 中世

所在場所 **観世音寺4丁目**

少弐資頼の子資能の墓とされる宝篋印塔。鎌倉時代、元寇時に活躍し、84歳で死去。崇福寺大応国師が導師となり、葬儀が行われた。その後行方不明であったが、明治末に横岳の水田から発見、関係者の配慮で五条の血方持様横に祀られ、昭和47年(1972)に現在地へ移動。

名称 **旗立石(日吉神社)**

登録番号 F0151

所在場所 **観世音寺5丁目(日吉神社)**

日吉神社参道入口にある旗立石。現在も活用されており、正月には氏子会で製作した幟を、七夕ごもりの時には短冊で飾った笹を立てるのに用いられている。

名称 **ゼウウンノハカ**

登録番号 F0152

所在場所 **太宰府(四王寺山 岩屋城二の丸跡)**

天正14(1586)年に岩屋城で自害した高橋紹運を弔う墓。『太宰府旧蹟全図北』では墓域が描かれ、「ゼウウンノハカ」と記されている。高橋紹運公の人気は現在においても高く、墓所の草刈りや清掃をされている方々がおられ墓域はいつも整然としている。

名称 **大宰府条坊跡**

登録番号 F0153 古代

所在場所 **太宰府市・筑紫野市**

九州にあった九国三島(のち二島)の統括ならびに外交の場として、大和政権によって置かれた大宰府で、政庁を含む現在の太宰府市中央部から筑紫野市北部にあったとされる官人居住地。【左写真：白枠内(推定範囲)】

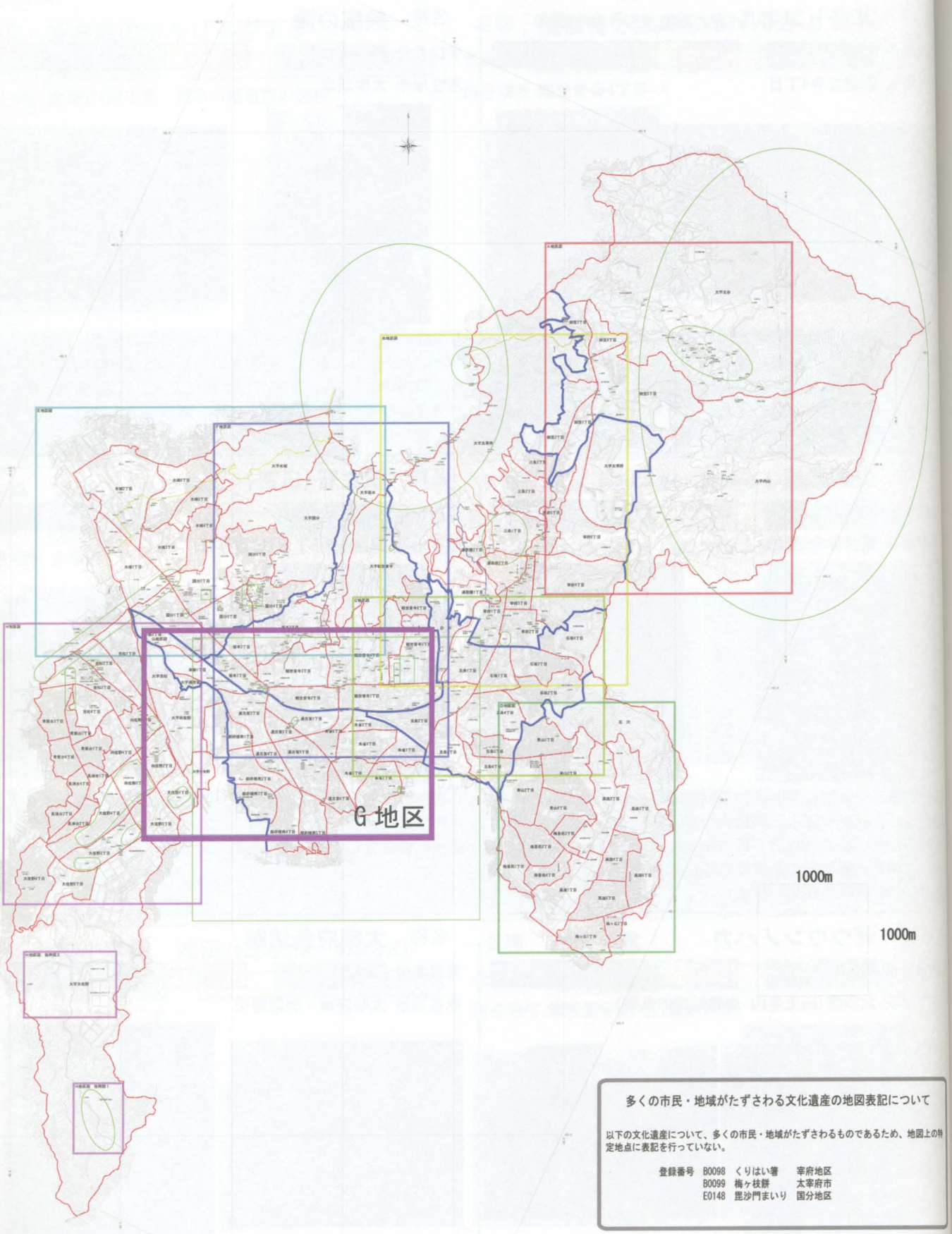
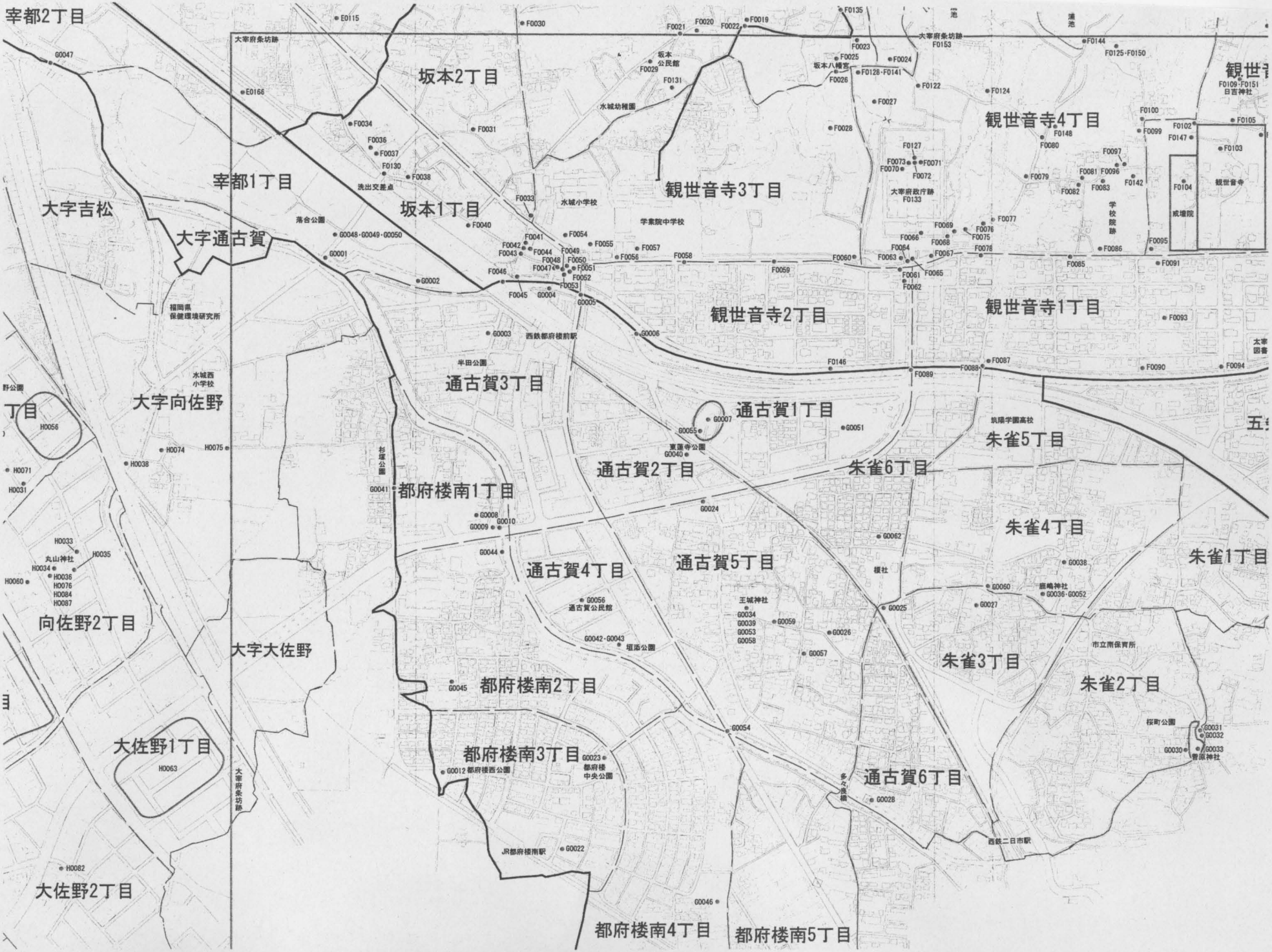

G地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい箸 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 15. G 地区位置図


宰都2丁目
坂本2丁目
宰都1丁目
坂本1丁目
観世音寺4丁目
観世音寺3丁目
観世音寺2丁目
観世音寺1丁目
大字吉松
大字通古賀
大字向佐野
通古賀3丁目
通古賀1丁目
通古賀2丁目
朱雀6丁目
朱雀5丁目
都府楼南1丁目
朱雀4丁目
朱雀1丁目
通古賀4丁目
通古賀5丁目
向佐野2丁目
大字大佐野
朱雀3丁目
朱雀2丁目
都府楼南2丁目
大佐野1丁目
都府楼南3丁目
通古賀6丁目
大佐野2丁目
都府楼南4丁目
都府楼南5丁目
大宰府条坊跡
坂本公民館
水城幼稚園
洗出交差点
落合公園
水城小学校
学業院中学校
福岡県保健環境研究所
水城西小学校
西鉄都府楼前駅
半田公園
杉塚公園
東蓮寺公園
通古賀公民館
垣添公園
都府楼西公園
都府楼中央公園
JR都府楼南駅
丸山神社
王城神社
榎社
鹿嶋神社
市立南保育所
桜町公園
菅原神社
西鉄二日市駅
多々良橋
坂本八幡宮
大宰府政庁跡
学校院跡
観世音寺
戒壇院
日吉神社
筑陽学園高校
大宰府条坊跡

名称 **落合橋**(おちあいばし)

登録番号 G0001 現代

所在場所 **宰都1丁目**

御笠川が鷺田川と合流する付近に架かる橋。度々水害の被害に遭っており、平成15年(2003)の水害では損壊し、後に架け直されている。現在の橋は平成18年(2007)9月に完成したもので、欄干が美しく朱色に塗られ、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **半田橋**(はんだばし)

登録番号 G0002 現代

所在場所 **宰都1丁目・通古賀3丁目**

宰都地区と通古賀地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。平成18年(2006)8月に完成した橋で、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。橋が結ぶ宰都地区は平成15年以降に整備が進められた地域で、橋のたもとには公園も設けられている。

名称 **旧小字標石　半田**(はんだ)

登録番号 G0003 現代

所在場所 **通古賀3丁目(半田公園入口)**

平成6年(1994)11月の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「半田」と番号の「九番」が刻銘されている。小字名半田の由来については不明である。

名称 **関屋橋**(せきやばし)

登録番号 G0004 現代

所在場所 **坂本1丁目・通古賀3丁目**

坂本1丁目と通古賀3丁目を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は平成2年(1990)10月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **苅萱橋**(かるかやばし)

登録番号 G0005 現代

所在場所 **観世音寺2丁目・通古賀1丁目・通古賀3丁目・坂本1丁目**

御笠川に架かる橋。旧国道3号線である県道112号線が通っている。現在の橋は平成8年(1996)1月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 **東蓮寺橋**(とうれんじばし)

登録番号 G0006 現代

所在場所 **観世音寺2丁目・通古賀1丁目**

観世音寺地区と通古賀地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は平成元年(1989)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

G 地区

名称　東の陵（東蓮寺跡、薬師山）

登録番号 G0007

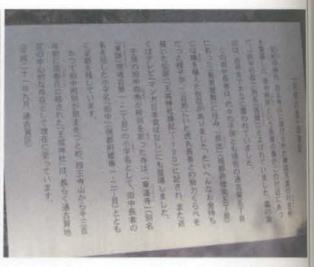
所在場所 通古賀1丁目

東蓮寺は、最澄の筑前七薬師を納めた寺のひとつと言い伝えられる。田中熊別の霊を祀るため、後裔の田中熊秀が建てた寺との伝承が残り、田中の森が西陵と呼ばれるのに対し、薬師山は東陵と言われる。

名称　田中の森（西の陵）

登録番号 G0008　古代

所在場所 都府楼南1丁目



記紀の時代、四王寺山に設けられた神武天皇の行在所を警護した田中熊別という長者の墓がこの付近にあって、「田中の森」（別名「西陵」）とよばれていた。通古賀交差点の近く、鷺田川にかかっている橋が田中橋、その一帯の小字を田中という。田中長者の伝説が残る。

名称　「旧小字　田中」の石碑

登録番号 G0009　現代

所在場所 都府楼南1丁目

長者の話で知られる、田中長者の先祖田中熊別（神武天皇に仕えた人。大野城の山頂で東夷征伐の武運を祈願した神社の祭主を務め、後に国衙庄（通古賀）に下向した）の「西陵（墓）」と伝えられる‘田中の森’の名残がある一帯が「田中」と呼ばれていた。

名称　田中橋

登録番号 G0010　現代

所在場所 都府楼南1丁目

県道板付・牛頸・筑紫野線（505号）の鷺田川に架かる橋。現在の橋は昭和60（1985）年3月完成。明治28（1895）年4月の銘文が刻まれている「田中橋碑」は、王城神社の境内に移設されている。

名称　四季桜

登録番号 G0012　現代

所在場所 都府楼南3丁目・筑紫野市杉塚（都府楼西公園）

都府楼西公園内にあり、昭和62年（1987）、都府楼団地開設20周年記念事業として住民有志により寄贈された。9月下旬から10月にかけて花を咲かせる。

名称　都府楼教員住宅

登録番号 G0022　現代

所在場所 都府楼南3丁目

昭和43（1968）年に建てられた福岡県教職員住宅で、当初2棟建てられたが、平成19（2007）年に1棟が、23（2011）年に残りの1棟も解体された。

名称　**都府楼団地夏祭り**

登録番号 G0023　現代

所在場所 **都府楼団地**

昭和45(1970)年、都府楼団地自治会発足とともに親睦融和策の一環として、8月に第1回「盆踊り大会」が開催された。現在も継続している。

名称　**旧小字標石　北ノ橋**(きたのはし)

登録番号 G0024　現代

所在場所 **通古賀5丁目**

平成6年(1994)11月の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「北ノ橋」と番号の「拾壱番」が刻銘されている。小字名北ノ橋の由来については不明である。

名称　**伝「鶴の墓」の石**

登録番号 G0025

所在場所 **朱雀3丁目(西鉄電車踏切横)**

伝承に由来する石。昔、飛騨の匠が木で鶴を作った。よくできたのでその鶴に乗り唐まで行った。唐の人々は怪しんで矢を放ち、矢は鶴の片羽に当たった。匠は片羽の鶴を操って太宰府まで飛んで来たが力尽きて榎寺の近くに落ちた。匠は鶴を愛おしんでそこに手厚く埋葬し、故郷に帰ったという。

名称　**飛梅の原木**

登録番号 G0026

所在場所 **通古賀5丁目**

太宰府天満宮飛び梅の原木といわれている。いくつか説があるが、菅原道真が昌泰4(901)年大宰権帥に左遷される時、邸宅の紅梅殿の梅に「東風吹かば･･･」と詠みかけるとそれに応じた梅の一枝が筑紫に飛んでいったという飛梅伝説は有名である。

名称　**隈麿公奥都城**(くままろこうおくつき)

登録番号 G0027　現代

所在場所 **朱雀3丁目(榎納骨堂敷地内)**

菅原道真の息子隈麿の墓。奥津城(おくつき)とは神道でいう墓のこと。901年菅原道真の左遷が決まった時、隈麿と紅姫の幼子だけは大宰府に同行したといわれている。辛い配流生活の中、902年に隈麿は病を得て急逝したという。現在の祠は、昭和60年(1985)に奉納。

名称　**多々良井堰**

登録番号 G0028　現代

所在場所 **通古賀6丁目(般若寺跡　多々良橋そば)**

昭和59年(1984)5月に建設されたもので、近年普及してきたゴム引布製起伏堰である。ゴム引布製起伏堰は、ゴム引布製のチューブに空気や水を注入・排出することで起伏させる堰のこと。従来の鋼鉄製井堰よりも設置やメンテナンスのコストが安いなどの利点が挙げられる。

G地区

名称　般若寺跡　石造七重塔

登録番号 G0030　中世

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)

古代寺院の般若寺跡に建つ石塔。鎌倉時代後期に造立された七重塔で、太宰府市で一番古い層塔である。花崗岩製で、高さは3.3mあり、台石には金剛界四方仏の梵字が刻まれている。昭和29年(1954)国指定有形文化財に指定。昭和51年(1976)には、解体修理・保存処置。

名称　猿田彦太神碑

登録番号 G0031

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)

菅原神社にある石碑。高さ113cm程の自然石に「猿田彦太神」と刻まれている。

名称　更正道路碑

登録番号 G0032　近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)

道路が改良されたことを記念して、明治45年(1912)3月に建立された碑。高さ94cm程の石碑には、寄付者の氏名や寄付額等が刻銘されている。

名称　本殿跡台座(菅原神社)

登録番号 G0033　近世

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)

朱雀2丁目にある菅原道真を祀る神社。建立年月日など由来は不明であるが、文和2(1353)年に片野村が太宰府天満宮に寄進された時に勧請された鎮守神ではないかという説もある。旧社地は現在納骨堂のある場所だったが、大正10年(1921)般若寺跡に近い現社地に移転したという。

名称　王城神社

登録番号 G0034

所在場所 通古賀5丁目(王城神社)

事代主命を祭神として祀る神社。『王城大明神縁起』によると「神武天皇東征の折、今の四王寺の山上に城を構えた。また、この嶺に事代主命を祀り、東夷を平らげんことを祈らせた。その後、天智帝の時に大野の城を築いた際に、事代主命を国衙庄(通古賀)に遷した。」と伝えている。

名称　鹿嶋神社の宮相撲

登録番号 G0036

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社)

7月のオヨドの際、現在も子ども会を中心に宮相撲が行われている。幼稚園児を含めてかなり参加者がおり、優勝者や何人抜きかをした子どもには景品が出る。行事を通じて子ども達が、お宮で遊んだり親しんでくれる事が大切だと、地域の人々、保護者が協力して開催されている。

名称 **晴明井のエノキ**

登録番号 G0038

所在場所 **朱雀4丁目**

晴明井の傍らにある市内最大のエノキである。高さ20m、幹回り3.5m。苔むした幹とゴツゴツした根元には巨木の風格が感じられる。また、現在でも井戸端に座り込み、このエノキの木陰の下で語らう人々が見られるなど、地域にとけ込んだ情景はエノキとともに貴重である。

名称 **恵比寿祭(通古賀)**

登録番号 G0039

所在場所 **通古賀地区・通古賀5丁目(王城神社境内)**

市内各地において、生業を守り財福をもたらす神様として路傍に恵比寿様が多く祀られている。王城神社の恵比寿祭りは12月1日と決まっている。また、祭神は事代主命すなわち恵比寿神であり、当日は本殿内の恵比寿像が年に1度開帳される。

名称 **旧小字標石　東蓮寺(とうれんじ)**

登録番号 G0040　現代

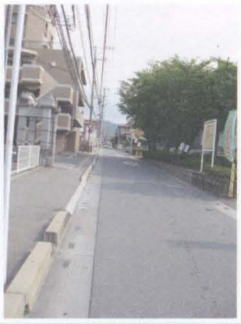
所在場所 **通古賀2丁目(東蓮寺公園入口)**

平成6年(1994)11月の住居表示変更に際して建立された標石の1つ。地名の由来には、西の陵といわれる「田中の森」に対し、東にあるので「東蓮寺」と呼ばれたという説や、最澄の筑紫七薬師を納めた寺の1つとして名が見える通古賀の東林寺に由来するなどの説が伝えられている。

名称 **大宰府条坊の名残 2**

登録番号 G0041　古代

所在場所 **都府楼南1丁目～2丁目**

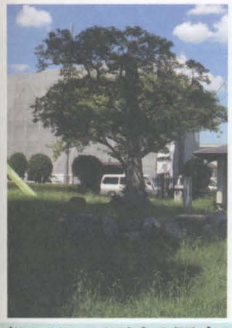


大宰府条坊跡における坊路(南北道路)の名残と推定されている地。これまで、市教育委員会文化財課により2ヶ所の調査が行われている。

名称 **もちの木**

登録番号 G0042　現代

所在場所 **通古賀4丁目垣添公園**



通古賀4丁目の垣添公園内に植樹されているもちの木。公園の優美な景観を形作っている。傍らには「旧小字垣添」の石碑がある。

名称 **旧小字標　垣添(かきぞえ)**

登録番号 G0043　現代

所在場所 **通古賀4丁目　垣添公園内**

平成6年(1994)の住居表示変更により建てられた石碑。旧小字名「垣添」を記しており、26番の番号がふられている。地名「垣添」の由来は、扇屋敷に関係したものという説や、昔この地に風雅な女人であったという檜垣嫗が住んでいたことに由来するという説が伝わっている。

G地区

名称　マムシの生息地

登録番号 G0044

所在場所 通古賀4丁目　鷺田川河川敷

昔、鷺田川河川敷の空き地にはマムシが多数生息していたとのこと。現在は河川改修が行われており、その面影は残っていない。

名称　「とののくら」の名称表示

登録番号 G0045

所在場所 都府楼南2丁目

「とののくら」（殿の蔵）の由来は、江戸時代に地元の年貢米等を一時保管する倉庫と考えられる。向佐野地区にも「殿の倉跡」の碑があり、ここから福岡城の倉屋敷まで年貢米を運んだと伝えられている。

名称　大宰府条坊の名残 3

登録番号 G0046　古代

所在場所 都府楼南4丁目

大宰府条坊跡における坊路と推定される地。道路、井戸、土坑や牛、馬などの動物が歩いた痕跡等、奈良時代中頃から平安時代後期頃までの遺構が確認されている。主な出土品は、中国の越州窯青磁、都の緑釉陶器、周防からの緑釉陶器、銅製の耳飾り等がある。

名称　下川原橋

登録番号 G0047　現代

所在場所 宰都2丁目・吉松

下川原橋（しもかわはらばし）は宰都地区と吉松地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。平成18年（2006）に完成し、同年6月2日に開通式が行われた。

名称　関屋井堰復旧工事碑

登録番号 G0048　現代

所在場所 宰都1丁目（落合橋傍）

関屋井堰復旧工事の記念石碑。高さは114cmで、昭和25年（1950）3月に建立されたもの。その後、昭和60年頃に行われた観世音寺区の区画整理事業時に撤去・放置されていたが、それを見た個人が自宅で大切に保管されていた。落合公園整備に併せて、石碑も現在地に移設。

名称　旧落合橋擬宝珠円柱

登録番号 G0049　現代

所在場所 宰都1丁目　落合橋側

上部には擬宝珠の装飾が施されており、高さは140cmほど。落合橋は平成15年（2003）の水害により架け直されるが、それに伴い旧橋の欄干は廃棄された。そのうちの1本を個人が譲り受け、旧橋の名称板と一緒に保管していた。落合公園整備に併せて、欄干も現在の場所に移されている。

名称 **旧落合橋親柱**

登録番号 G0050　近代

所在場所 **宰都1丁目　落合橋側**

昭和5年(1930)に旧落合橋が架けられた時の親柱。現在の落合橋は平成15年水害で架け直されたものである。旧落合橋の親柱は3本あるが、いずれも高さ約80cm、幅・奥行ともに31cm程の大きさである。個人が保管されていたが、落合公園の整備に伴い、ここに置かれることになった。

名称 **ドロクサンヤネのセンダン**

登録番号 G0051　近世

所在場所 **通古賀1丁目　通古賀近隣公園内**

樹齢200年前後のセンダンの木。江戸時代に通古賀在住の医者であった陶山道益が、氾濫しやすい御笠川の堤防が頑丈になるようにと竹などを植えた。その藪になった堤防を「ドウエキサンヤネ」と言い、いつしか「ドロクサンヤネ」というようになった。

名称 **鹿嶋神社　本殿と拝殿**

登録番号 G0052

所在場所 **朱雀4丁目　鹿嶋神社境内**

榎の旧家である菊武家の御先祖が、鹿嶋明神を勧請して建立したといわれる。『福岡県神社史』には、明治5年11月3日に村社に定められた記録が残っている。本殿は金属薄板葺き、大きさ3間×3間の建物である。例祭は毎年10月19日に、太宰府天満宮の神職によって行われている。

名称 **王城神社本殿及び拝殿**

登録番号 G0053　現代

所在場所 **通古賀5丁目　王城神社境内**

寛政2(1790)年太宰府天満宮六度寺の法印船賀和尚による「王城神社縁起」が伝わっており、戦乱で荒れ果てた神社を氏子達が再建して祀った事が記録されている。御祭神は事代主命で、毎年10月17日に例祭が行われる。拝殿はコンクリート銅板葺きで、昭和56年(1981)7月に再建されたもの。

名称 **鷺田橋親柱**

登録番号 G0054　近代

所在場所 **通古賀5丁目　鷺田橋**

昭和7年(1932)3月に竣工した鷺田橋の親柱。幅80cm×奥80cm×高さ110cmの大きさのもので、現在も使われている。

名称 **大行事塔(東蓮寺)**

登録番号 G0055　近世

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**

大行事とは山王(さんのう)二十一社の中七社(なかしちしゃ)のひとつ。牛馬の安全の神様として農家の信仰を受けていた。江戸時代の安政5年(1858)に全国的にコレラが大流行し、約三万人の死者が出た。このため、安泰をも祈る人々によって、安政7年(1860)に建立されたものと思われる。

G地区

名称　旧小字標　西ノ後(にしのうしろ)

登録番号 G0056　現代

所在場所 通古賀4丁目

平成6年(1994)11月の住居表示変更により建てられた石碑。旧小字である「西ノ後」を記しており、25番の番号がふられている。地名「西ノ後」は扇屋敷に関係する地名とされ、以前は「ヤネ」と称して、竹や雑木が塀のように植えられていたという。

名称　旧小字標　鶴畑(つるのはた・つるはた)

登録番号 G0057　現代

所在場所 通古賀5丁目

平成6年11月の住居表示変更にともない建てられたもの。幅[illegible]cm×奥14cm×高さ88cmの石柱で、「廿七番」の番号が刻まれている。地名「鶴畑(つるはた・つるのはた)」の由来は、伝説「鶴の墓」の鶴が不時着した場所だからともいわれている。

名称　クスの大木

登録番号 G0058

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内

王城神社拝殿左に位置する楠の大木。根本に恵比寿神が祀られている。

名称　礎石

登録番号 G0059

所在場所 通古賀5丁目 王城館前

王城神社隣の王城館前にある旗立石の台座として使用されている。割られて4個程を1つにして使われており、側のソテツの土留めでも1個以上使われている。『とおのこが風土記』では長沼賢海氏の説「国府遺跡」を取り上げている。

名称　猿田彦太神

登録番号 G0060

所在場所 朱雀3丁目

朱雀3丁目に祀られている石塔。高さ158cmの自然石に「猿田彦太神」の文字が刻まれている。

名称　共同井戸　手押しポンプ式井戸 1~7

登録番号 G0062　現代

所在場所 朱雀6丁目

昭和30年代に榎寺住宅が開設された時に、飲料水用として設置された共同井戸の跡。住宅地の道の端に造られていて、今も道の一部として残っている。7ヶ所の内、手押しポンプが残っているのは3ヶ所。井戸の他、区画の中央には流し溝も通っている。

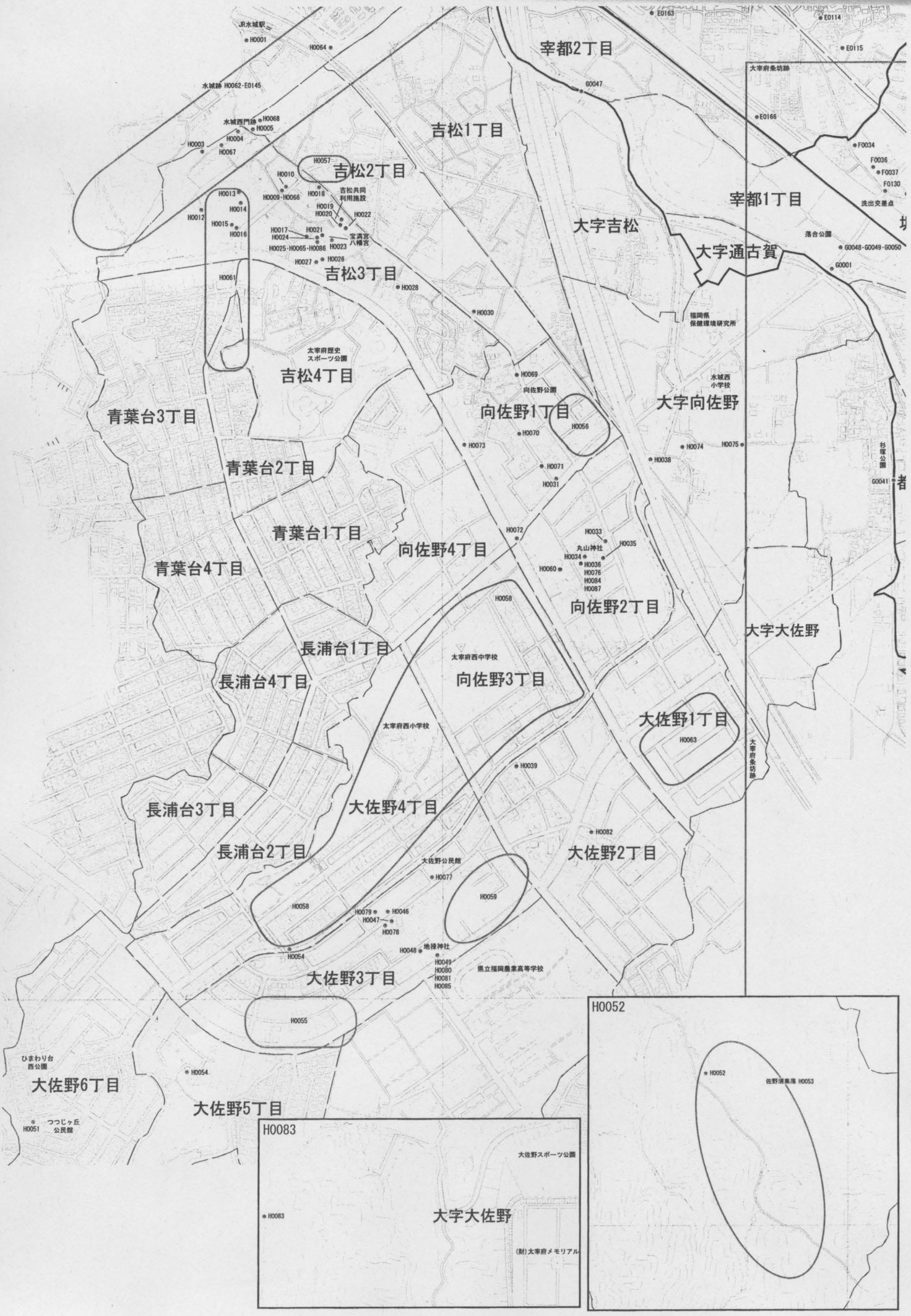


図17.H地区文化遺産位置図

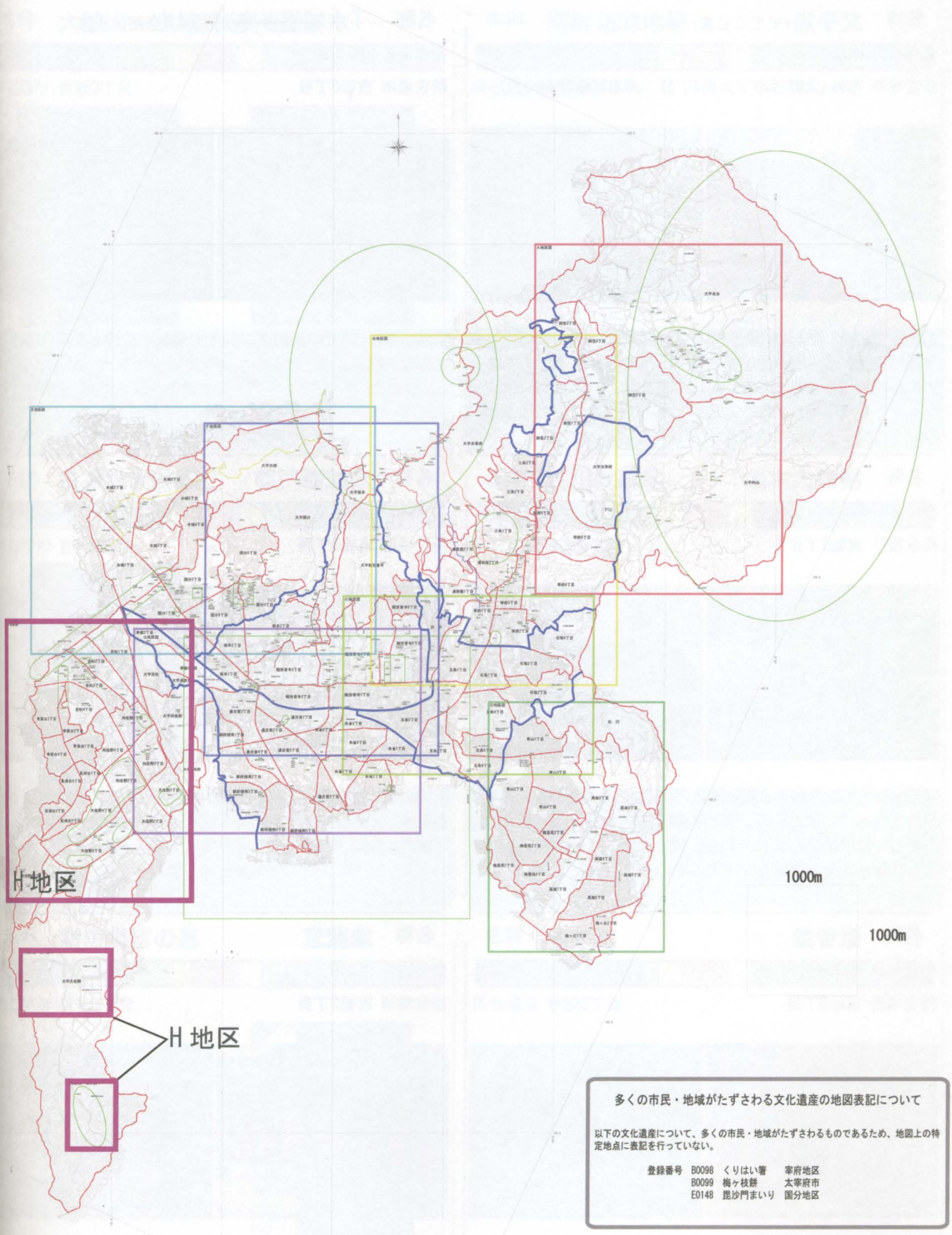

H地区
H 地区
1000m
1000m
多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について
以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の特定地点に表記を行っていない。
登録番号 B0098 くりはい箸 宰府地区
B0099 梅ヶ枝餅 太宰府市
E0148 毘沙門まいり 国分地区

図 18. H 地区位置図

H地区

名称　父子島（ててこじま）

登録番号 H0001　古代

所在場所 市外（大野城市下大利4丁目　JR水城駅西側の丘）

水城築造に関わる伝説の1つ。JR水城駅西側の丘には、「水城の西側で働いていた父と子が、土塁ができあがったとの知らせにわきおこる歓声のなか、いっぺんに力が抜けて担いでいた土をその場に投げ出した。その土が不思議なことに土饅頭のように盛り上がって丘になった。」という。

名称　「水城堤」平成15年7月豪雨被害跡

登録番号 H0003　現代

所在場所 吉松3丁目

平成15年7月15日の豪雨の際、土砂崩れの被害を受けた「水城堤」の一現場。

名称　桜の大木跡

登録番号 H0004　近代

所在場所 吉松3丁目

「水城堤」の西門を挟んだ西側の突端部には、大きな桜の樹が植えられていたという。西門の礎石も置かれ宴会のテーブルとして地域に親しまれていた。現在は、桜の樹も枯れ、礎石も移動し、その痕跡さえも見られない。

名称　水城西門跡

登録番号 H0005　古代

所在場所 吉松2丁目

西暦664年に、唐・新羅連合軍に備えて造られた防衛施設である水城。そこには東と西に二つの門があり、この地はその「西門」の跡である。

名称　観音堂

登録番号 H0009

所在場所 吉松3丁目

太宰府市吉松にある観音堂。十一面千手観音菩薩を祀り、四国23番札所となっている。以前はムラで大切に祀っており、7月17日夏祭りオヨドは氏神様よりも盛大であったといわれている。

名称　地蔵堂

登録番号 H0010

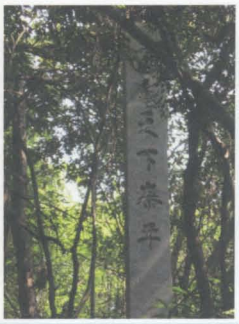
所在場所 吉松3丁目

観音堂の横にあるお地蔵さんと呼ばれている。地蔵菩薩のほか弘法大師座像、阿弥陀如来座像、切石馬頭観音など、個人でお祀りできなくなった仏様、お地蔵さま、大師像などを集め、現在7体が祀られている。

名称　**大陸山　水城院(廃寺跡)**

登録番号 **H0012**　近代

所在場所 **吉松3丁目**



大正13年(1924)7月、日蓮宗僧侶高鍋日統を中心に、「大陸発展、海外雄飛、大亜親交の道場」とする目的により建立された寺院の跡。戦後しばらくは活動していたが、その後廃寺になった。大正15(1926)年5月15日　朝鮮総督斉藤実により、朝鮮全羅北道出土の梵鐘の寄贈を受ける。

名称　**高射砲陣地跡**

登録番号 **H0013**　近代

所在場所 **吉松3丁目**

太平洋戦争末期に、旧日本軍の諸施設防護、および南部から来る連合国軍の爆撃機に対応するために設置された高射砲陣地の跡。【右写真は、跡地からの太宰府の眺め】

名称　**古渓大明神祠**

登録番号 **H0014**　近代

所在場所 **吉松3丁目**

「コッケサマ」は、もと京都大徳寺の住僧で豊臣秀吉の怒りにふれ博多に流罪となった古渓禅師のこと。明治初期、村中大火があり、博多古渓町より勧請され、民家横の山の中に祀られた。秋の宝満宮・八幡宮の宮座の折に注連縄がつくられ、ここにも奉納される。

名称　**浅川家墓地**

登録番号 **H0015**　中世　近世　近代

所在場所 **吉松3丁目**

明治期において吉松地区の農業の発展に寄与した篤農家浅川甚次郎の墓とその一族の墓地。

名称　**熊田勇吉の墓**

登録番号 **H0016**　現代

所在場所 **吉松3丁目**

明治期の吉松地区の政治的先駆者である熊田勇吉の墓。墓裏面に功績碑文がある。墓の横には、「故　熊田勇吉百回忌供養塔」が建てられている。

名称　**汐井川**

登録番号 **H0017**

所在場所 **吉松3丁目**

吉松大池から大佐野川に注ぐ川(水路)。かつては清流で、きれいな砂が採れ、潮井としていた。

H地区

名称　島本遺跡

登録番号 H0018　古代

所在場所 吉松3丁目

水城西門を通り、筑紫館(鴻臚館)に通じる官道跡の遺跡。かつては舗装の色を区別してあり、1階駐車場部分に官道幅を見ることができたが、現在は同色となり判別ができなくなっている。

名称　石碑(神徳如天)

登録番号 H0019　現代

所在場所 吉松3丁目

宝満宮、八幡宮の入口右側にあり。昭和30(1955)年吉松区の10人が土地183坪を宝満宮八幡宮に寄贈したのを記念して建立。「昭和三十年」の紀年銘がある石碑。碑銘「神徳如天　宝満宮司西高辻信貞書」、そのほか、寄贈者名が記されている。

名称　若宮様(石塔)

登録番号 H0020

所在場所 吉松3丁目

宝満宮・八幡宮の入口に「庚申塔」(猿田彦大神)と並んで建つ石塔「若宮さま」。

名称　宝満宮旗立石

登録番号 H0021　近代

所在場所 吉松3丁目

「明治廿二(1889)年巳丑三月建」の紀年を持つ旗立石

名称　猿田彦大神

登録番号 H0022

所在場所 吉松3丁目

吉松宝満宮・八幡宮入口にある猿田彦大神石塔。

名称　石碑

登録番号 H0023　近代　現代

所在場所 吉松3丁目

吉松の宝満宮・八幡宮の拝殿左側の花梨の木の根元にある石碑。銘文は判読不能。台座には、平成3年9月14日台風17号と刻まれている。

名称 **「けやき」の木**

登録番号 **H0024** 近代

所在場所 **吉松3丁目**

浅川甚次郎(慶応2年〈1866〉11月13日生まれ、篤農家、区長を3期務める)が宝満宮に献木したケヤキの木。傍に「献木 区長浅川甚次郎」と刻まれた石碑がある。

名称 **宝満宮・八幡宮**

登録番号 **H0025** 近世 近代

所在場所 **吉松3丁目**

藩政時代に尊田・吉松で各々祀られていた八幡宮・宝満宮が合祀されている(合祀期は明治25年頃)。両者の産土の神を祀る。近年の秋の宮座は、10月15日に近い日曜日に行われている。

名称 **八幡宮遥拝所**

登録番号 **H0026** 近代

所在場所 **吉松3丁目**

吉松の枝村園田(尊田)の氏神八幡宮が本村の氏神宝満宮に合祀された(明治25年頃)ため、跡地である現在の太宰府歴史スポーツ公園相撲場入口付近に建てられた遥拝所。福岡・筑紫野線道路開通のため、現在は宝満宮の裏山に移転した(大正9年)。

名称 **板碑**

登録番号 **H0027**

所在場所 **吉松3丁目**

八幡宮遥拝所横にある。尊田の「八幡宮」、後の「八幡宮遥拝所」境内に祀られていたものをここに移転した、との話が伝えられる。

名称 **猿田彦尊**

登録番号 **H0028** 近世

所在場所 **吉松3丁目**

旧道に面して建つ尊田の路傍神。「猿田彦尊」。

名称 **天神の森**

登録番号 **H0030**

所在場所 **吉松2丁目**

吉松にある広さ3坪程の三角形をした竹藪で、そこに菅原道真が腰掛けたという小さな石があった。この竹藪にはマムシがたくさんいたので、やはり聖地だということで周囲に榊を植えて中に入らないようにしていた。現在、竹藪は切り払われており、僅かに三角形の敷地が名残をとどめている。

H地区

名称　猿田彦大神

登録番号 H0031　　近世

所在場所 向佐野1丁目

大正11年(1922)の郡制廃止時、大佐野、向佐野、吉松の3地区を通る道を造った時、大佐野から出た石を向佐野がもらって碑を造った猿田彦大神碑との説有り。

名称　庚申塔(庚申天)

登録番号 H0033

所在場所 向佐野2丁目

姪浜から引いてきた石でつくったと伝えられ、当初は近隣の屋敷外(シラツチ)に祀られていたものが、現在地に移転した。庚申信仰は、中国の道教思想に由来し、60日ごとに回ってくる庚申の夜に宿主の家に集い、眠らずに夜を明かすもの。

名称　毘沙門堂

登録番号 H0034

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)

古くからあり、'ビシャモンヤシキ'と呼ばれていた。現在は祠堂内に石製・木製の「毘沙門天立像」2体が祀られている。

名称　前田公園地下遺跡

登録番号 H0035　　古代　中世　近世

所在場所 向佐野2丁目(前田公園)

前田公園の地下に残された遺跡。小字前田・日焼・久郎利にまたがり、旧石器時代から江戸時代に至る遺跡がある。この公園の北東に接する久郎利遺跡には、奈良時代の整然と並ぶ建物群が確認され、官道に係わる公的な施設が置かれていたと考えられている。

名称　丸山神社

登録番号 H0036

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社)

流離の神様で、地元の人々によって大切に祀られている。昔は牛頸の平田にあったといわれ、いつの日か大水で流されてきたという。その場所を宮ノ本といい、ムラの人はモトミヤと呼んでいた。明治20年の大雨の時に流され、現在地にお祀りしたといわれる。

名称　国鉄鹿児島本線赤煉瓦造架橋

登録番号 H0038　　近代

所在場所 向佐野

明治22(1889)年の博多～千歳川間の鉄道開通に伴い向佐野に架けられた鉄橋。ドイツ式の赤煉瓦で造られたものであった。1999年から新橋の架橋工事が行われ、2001年の新橋完成とともに姿を消した。

名称 **大日如来像**

登録番号 H0039

所在場所 **大佐野2丁目**

婦人部で年一回篠栗まで一泊二日のお参りに行く際には、この場所に集合して出発した。帰ってきたときも、この場所に集まり宴会をした。区画整理のとき、現在地へ移す。左右の石は本来はお堂の外の左右にあったが、区画整理でお堂を移すときにお堂の中へ入れて祀っている。

名称 **宮原源作翁顕彰碑**

登録番号 H0046 近代

所在場所 **大佐野3丁目(大佐野公園)**

資産家で一言では言い尽くせないほど大佐野のために尽くし、明治の初め大佐野に共有田、共有山の制度を作った宮原源作の顕彰碑。大正3年建立。

名称 **ポンプ式井戸**

登録番号 H0047 現代

所在場所 **大佐野3丁目(大佐野公園前バス停広場)**

昔を偲ぶポンプ式の井戸。「飲料不可」の掲示がある。

名称 **お堂(聖観音堂)**

登録番号 H0048 近代 現代

所在場所 **大佐野3丁目(地禄神社横)**

聖観音を祀っている。個人宅から現在地に移転。区画整理の時に現在地に移った。お堂は、集落の人がお参りしていた。

名称 **地禄神社**

登録番号 H0049

所在場所 **大佐野3丁目(地禄神社)**

祭神は埴安神で、地域守護神・農耕守護神である。代々武蔵村荒穂大明神の平田氏が祭祀に関わり、例祭は近世を通じて9月15日、現在は10月17日である。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 H0051

所在場所 **大佐野6丁目**

コンクリート製の祠の中に花崗岩を加工した碑銘「猿田彦大神」が建てられている。最近建てられているが、時期は不明である。

H地区

名称　猿田彦大神

登録番号 H0052　　近代

所在場所 大佐野字佐野浦

かつてあった佐野浦集落の中にある猿田彦大神碑で、碑銘「猿田彦大神」とされ市内でも珍しいものである。明治14(1881)年の銘が刻まれている。現在は、ここに通じる道が分かりづらくなっている。

名称　佐野浦集落

登録番号 H0053　　近代　現代

所在場所 大佐野字佐野浦

大字大佐野字佐野浦に所在した集落。現在は山林と化しているが、かつての面影をとどめるように家の区画が石垣として残り、「猿田彦大神」石碑が建っている。多くは太宰府市所有地となっている。

名称　大佐野川

登録番号 H0054

所在場所 大佐野5丁目長ヶ坪橋付近

大佐野集落から向佐野集落へと流れる川で、現在はつつじヶ丘や区・ひまわり台区の人達が蛍の生息地にしようと河川の清掃を行い、また河川の岸にコスモスを植え護岸の美化に努めている。。

名称　カヤノ遺跡

登録番号 H0055　　原始　古代

所在場所 大佐野3丁目

縄文時代早期の遺物と、古墳時代末から奈良時代にかけての集落跡が見つかっている。9世紀になると集落は廃絶し、墓が営まれた。

名称　久郎利遺跡(くろうりいせき)

登録番号 H0056　　古代

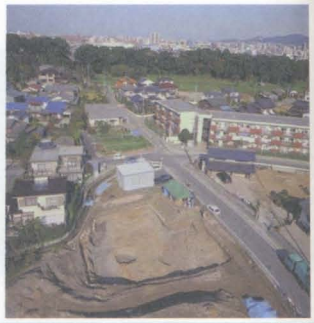
所在場所 向佐野1丁目

太宰府市向佐野地域に広がる遺跡。奈良時代の建物が整然とならぶように検出されている。

名称　吉松松本遺跡

登録番号 H0057　　古代

所在場所 吉松2丁目

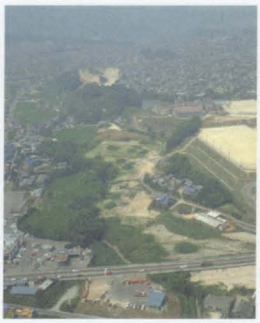


太宰府市吉松地域に広がる遺跡。発掘調査によって、水城西門を通過する官道が検出された。

名称 **宮ノ本遺跡**

登録番号 H0058　原始 古代

所在場所 **向佐野3丁目・大佐野4丁目**



原始・古代の墳墓群や須恵器窯跡などが調査されている。太宰府西小学校内の宮ノ本1号墓(9世紀)からは、国内の出土例としては初めて買地券が出土している。

名称 **京ノ尾遺跡**

登録番号 H0059　原始

所在場所 **大佐野3丁目**

太宰府市南西端に位置する大佐野にある遺跡。古墳時代の竪穴住居や、戦国時代に埋没した谷などが確認されている。

名称 **佐野塾跡**

登録番号 H0060　近世

所在場所 **向佐野2丁目**

佐野塾とは、太宰府市向佐野にある川辺家の屋敷内に天保年間から明治初年まであった寺子屋。明治になって寺子屋をたたみ、その後倉庫として昭和30年ごろまで使われる。現在は「佐野塾之址」碑が建つ。石碑後方にある土壇状の高まりが、倉庫跡だといわれている。

名称 **神ノ前窯跡**

登録番号 H0061　原始 古代

所在場所 **青葉台3丁目**

窯跡は標高46～47mの位置にあり、水城大堤側の水田面との比高は約20mほどである。太宰府市から大野城市牛頸にかけて分布する牛頸窯跡群の一支群として考えられ、2号窯跡では須恵器とともに瓦類の生産も兼ねている。この瓦類は九州地方最古期に位置づけることができるものである。

名称 **水城跡**

登録番号 H0062　古代

所在場所 **国分・市外(大野城市)**

唐・新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土塁。日本書紀に「大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城といふ」とあり、記録上確認できる日本最初の城である。現存の堤防は高さ13m、幅約80m、全長1.2km、博多側に幅60m、深さ4mの外堀が確認されている。

名称 **フケ遺跡**

登録番号 H0063　原始

所在場所 **大佐野1丁目**

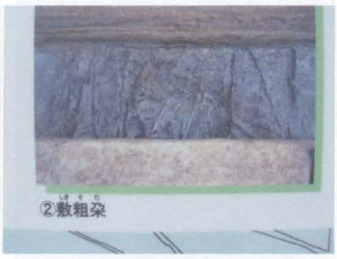
古墳時代後期の集落遺跡。区画整理事業に伴い埋蔵文化財調査が実施され現在は残されていない。

H地区

名称　水城跡・線路切り通し

登録番号 H0064　近代

所在場所 吉松



国特別史跡「水城跡」の切通し部分。明治22年(1889)「九州鉄道」博多駅～千歳川駅間の開通のために、水城跡の一部が切通しとなった。その後、大正8年(1919)に完成した複線化工事に伴う拡幅工事を受けている。大正2年(1913)に線路拡幅工事の調査が行われた際のスケッチが残されている。

名称　宝満宮・八幡宮の年間諸祭

登録番号 H0065

所在場所 吉松3丁目(宝満宮・八幡宮)

4月・春籠り、田植え後の7月中旬・サナブリ籠り、7月中旬・夏籠り、夏まつり(オヨド)、9月上旬・秋籠り、10月15日・秋祭り宮座、10月28日・神送り、11月28日・神戻し、等が地域の方々によって行われていた。行事は減少したが、現在も夏祭り(オヨド)、宮座が実施されている。

名称　小祠、仏堂の信仰行事(吉松)

登録番号 H0066

所在場所 吉松3丁目

観音様のヨド(7月17日)、川祭り(八反川、汐井川)、ダブリュウ(10月初め)、庚申講、大師講(毎月20日)、英彦山まいり、札うち等の行事が行われていた。現在も周辺住民の努力により一部が継続され、これらの行事や伝統が区民住民の団結力を高める役割を果たしている。

名称　水城院への参詣道

登録番号 H0067　近代

所在場所 吉松3丁目

高鍋日統師が、斎藤実氏や頭山満氏等の要人を水城院まで招待するために整備した水城西門から水城院へと続く私道。大正15年(1926)に完成したこの道路を、地元の人々は親しみを込めて「日統参道路」と呼んだ。また、斎藤実(朝鮮総督)から寄贈された梵鐘は、この道を通ったという。

名称　水城経塚

登録番号 H0068　中世

所在場所 吉松2丁目

3基の経筒が発掘されたが、既に2基は盗掘されていた。残る1基からは、経筒、短刀、飾金具、ガラス玉などが出土しており、これらの品々は12世紀前半～中頃に作られたものと推定され、経筒塚の造営時期も同時期であると推定されている。

名称　長浦遺跡(ながうらいせき)

登録番号 H0069　古代

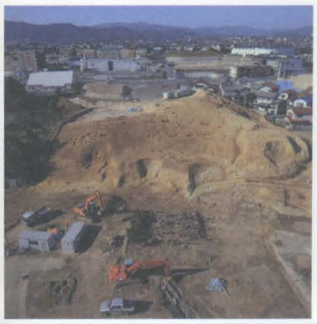
所在場所 向佐野1丁目

標高33mから36mにかけて遺構が展開している。検出された遺構から、この傾斜地には、弥生時代前期の貯蔵穴や奈良時代の墓地(火葬墓)が形成されていた。

名称 **日焼遺跡**(ひやけいせき)

登録番号 H0070 古代

所在場所 **向佐野1丁目**



古代官道(西門ルート)に近接し、現在の向佐野公園の西側丘陵一帯において、9世紀中頃～10世紀後半にかけて造られた12基の土葬墓(木棺墓)が検出されている。埋納品も鏡、鉄釘、陶器、木棺等が見つかり、有力な高階層の人々の墓と位置づけられている。

名称 **古代官道跡の名残**

登録番号 H0071 古代

所在場所 **向佐野1丁目**

向佐野付近で見られる、水城西門から杉塚廃寺付近へと抜ける古代官道の名残。写真右側のブロック塀の際(きわ)が、官道の端と推定されている。この付近は丘陵地で、古代官道は前田遺跡の方向へ直線的に延びている。現在は両側に住宅が建ち並んでいる。

名称 **向佐野地下歩道**

登録番号 H0072 現代

所在場所 **向佐野2丁目**

県道福岡筑紫野線を横断するため「長浦台入口」交差点に設置された地下歩道。昭和53年(1978)3月に竣工したもので、当時は太宰府西小学校・太宰府西中学校への通学路として大いに利用された。現在は交差点に信号が設置されたこともあり、利用する人はまばらになっている。

名称 **新向佐野地下道**

登録番号 H0073 現代

所在場所 **向佐野1丁目11**

向佐野地区の農作業者が、農業用溜池である長浦池を運用・維持管理する往来のために設けられた地下道。県道31号線(福岡筑紫野線)が建設される以前は、向佐野から長浦池までの専用の道路が存在していたが、県道31号線建設に伴い、迂回路が必要となった。

名称 **大宰府条坊の名残**

登録番号 H0074 古代

所在場所 **大字向佐野**

大宰府条坊(鏡山条坊復元案)の西側周辺に位置している。北部の筑前国分寺跡地区の道路や東部の天満付近の斜行地割施行エリア等との関連を総合的に勘案され、奈良時代には現在想定されている条坊域より2区画ほど広がり、この付近が条坊の西端だとの説もある。

名称 **大宰府条坊の名残**

登録番号 H0075 古代

所在場所 **大字向佐野　水城西小学校東側**

水城西小学校の東側を南北に走っている道路は、大宰府条坊跡の坊路と推定されている地で、条坊の西端と考えられている。この付近は一面に田んぼが広がっており、古代の条坊の名残が良くみられる地域である。これまで一切発掘は行われておらず、今後の調査が期待されている。

H地区

名称　向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事

登録番号 H0076

所在場所 向佐野2丁目

向佐野地区では、以前は観音講や大師講、庚申講などが盛んに行われていた。また、昭和初期までは札うち、戦後まもなくまでは彦山参りも行われていた。現在はこれらの信仰行事も減少してしまったが、地区の方々によって庚申講が行われている。

名称　申田彦尊

登録番号 H0077

所在場所 大佐野3丁目

大佐野3丁目に所在する庚申塔。高さ88cm程の石碑正面には「申田彦尊」と刻まれており、左右にも銘が残されている。もともとは大佐野の京の尾地区にあったが、区画整理に際して現在地へと移されている。

名称　旧小字石碑「カヤノ」

登録番号 H0078　現代

所在場所 大佐野3丁目

大佐野3丁目の大佐野公園前バス停広場に所在する石碑。この地域の旧字名であった「カヤノ」を記している。

名称　大佐野地区のほうげんきょう

登録番号 H0079

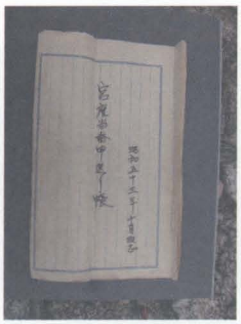
所在場所 大佐野3丁目(大佐野公園)

昔は各組毎に道路・辻で行われていたが、現在は火災等の危険もあり大佐野公園で行われている。大佐野地区では、毎年1月7日前後の日曜日に行われており、前日に竹やカヤを取って来て櫓を組んでいる。当日は正月飾りを燃やし、その火で餅を焼いて食べる。

名称　宮座祭

登録番号 H0080

所在場所 大佐野地区



大佐野地区で行われている宮座祭。旧来は7組35軒で運営されており、7組の方が年1回持ち回りで自宅にて宴席を設けて行われていた。宴席には「埴大神」の掛け軸が置かれ、午前中地録神社にお参りして、宴が行われる。2010年には6軒の方々によって行われており、宴席は外部でされている。

名称　宮座祭

登録番号 H0081

所在場所 大佐野　(地禄神社　公民館)

7組で当番座が交代して行われ、7年に一回当番がまわってくる。当番座の組みは以下の作業をする。地禄神社の清掃、注連縄の製作、神輿の準備、餅つき(2009年は未実施)。地禄神社で祭事が行われた後、祭壇のお供物、注連縄を公民館に移し、再度祭壇を設け直会をする。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 H0082

所在場所 **大佐野2丁目(道路わき)**

大佐野2丁目に所在する猿田彦大神碑。高さは177cmほどで、裏面にも銘が残されている。区画整理の際、現在地に移されている。

名称 **池ん谷の池**

登録番号 H0083

所在場所 **大佐野(光妙教会敷地内)**

流れ込む川などはなく、雨水が溜まってできた池とも、山の頂上のたまり水の周囲に堤防をつけて池にしたものともいわれている。以前はこの地で雨乞い行事「龍のぼり(龍上げ)」が行われており、池に御神酒を入れて龍神を怒らせるため池をかき混ぜという。現在はわずかに沼の形を残している。

名称 **丸山神社の年間諸祭**

登録番号 H0084

所在場所 **向佐野2丁目　丸山神社**

伝統的な年間行事が氏子・地区の方々によって行われている。「春籠もり」「夏籠もり」「オヨド・宵祭り」「秋籠もり」「宮座」「神送り」などの年間行事が、現在も大切に受け継がれて行われている。またこの他に、境内の清掃等も氏子・老人クラブの方々によって毎月行われている。

名称 **地禄神社(イチイガシ)**

登録番号 H0085

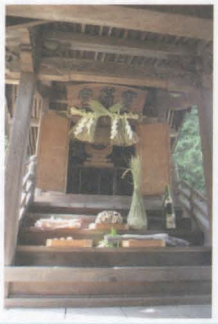
所在場所 **大佐野3丁目(地禄神社)**

地禄神社境内に生育するイチイガシ。2009年の調査時で、樹高21.3m、幹周り3.3m、枝張が東4m、西5.5m、南9m、北3mを測る巨木であり、市内屈指のイチイガシである。天然記念物として太宰府市の指定を受けている。

名称 **宝満神社の宮座**

登録番号 H0086

所在場所 **吉松3丁目(宝満宮)**



宮座とは、まつり座を設けて神を迎え、供物を献じ、祈願・感謝をこめる行事。拝殿にて神事を執り行う。お供えは、野菜(大根、人参、ごぼう、栗、みかん等)と新米を供えている。

名称 **丸山神社の宮座**

登録番号 H0087

所在場所 **向佐野2丁目(丸山神社)**

宮座とは、まつり座を設けて神を迎え、供物を献じ、祈願・感謝をこめる行事。丸山神社における宮座開催日は、毎年10月第3日曜日と決められている。氏子組織は19軒あり、1番座～6番座で構成されて毎年の当番を担当されている。

4. 文化遺産から太宰府市民遺産へ

a. 本書の活用方法

本書の活用方法は、読者の皆さんの考えで如何様にも利用できるものです。先ほど記しましたように平成23年までの太宰府を知る上で、多様な感性で収集された文化遺産に関する情報です。当然のことながら個人所有のもの、調査未了のもの、市域外で未整理のものがあるなど、平成23年までの太宰府といえども、選択された情報であることは否めません。「育てる文化遺産情報」として今後も調査を継続し、情報の更新を図っていきます。

本書の活用方法の二三を記しておきます。あとは、読者の皆さんの考えでご活用ください。

①文化遺産を知る手引き

詳細な情報は掲載しておりません。身近な文化遺産を知る導入にご使用ください。詳細な情報は、先述しましたように、各機関にお尋ねください。

②身近な文化遺産の存在意味を知る

文化遺産は、時間の経過とともに行為や存在意味が忘れられ、いつしか無用の長物と化し、捨てられ・壊され・失われていきます。捨てる・壊す・失う前に、それが何かを問い、知るために本書を活用ください。

③太宰府の歩み・個性を知る

今を生きる私たちは、太宰府に生きた先人達の積み重ねの上で生活をしています。太宰府の先人達が継承してきた様々なモノ・コト（出来事の物語）は、太宰府で培われ育てられたものです。いわば太宰府の個性を表現するものの一つです。

④つながりを知る

文化遺産の多くは、人と人とのつながりで継承されてきました。人はひとりでは生きていけないのと同様に、モノ・出来事はひとつでは存在しません。つくる・つかう・置くなど様々な状況の結果として、そこに存在しています。眼前に存在しているモノ・行為の背景にある人と人とのつながり、モノとモノとのつながりを知ることにお役立てください。

b. 文化遺産からはじまるまちづくり

人口流失、商業活性化など多くのまちで同じ問題で日々議論が交わされ、様々な事業が展開されています。個性を失ったまちに人は魅力を感じない。どこにでもあるまちをつくり出しては、そこに行く価値を見いだせない。1970年代からの高度経済成長期には、山を削り、谷を埋め、川をつけ替える人類史上、初めての地形を変える大造成の時代でした。そこから生まれたのは、綺麗なまち、住みよいまちでしたが、どこかで見たまちが多くの地域に出現したのではないでしょうか。太宰府も福岡市のベッドタウンとして多くの宅地が造り出され、人口も右肩上がりに増加していきました。太宰府は、大宰府で知られるように、いにしえの昔から多くの人々が生き、行き来し、その痕跡として多くの文化遺産が積み重なり、実に個性豊かな地域をつくりだしています。また、太宰府天満宮があるまち、史跡のまちとして名を知られ、多くの人々が今も行き来しています。時間の流れと大きな社会のうねりの中で、昔ながらの風景・風情は、現代的な風景・風情へと変化していきました。

新旧問わず、個性は存在します。個性を新たにつくりだすことは、創造することに似て大変なエネルギーを要します。「今ある個性を知り、それを育てること」、これも大変ですが、新たに創造するよりは、継承することの方が、できることを見いだすことができるのではないかと思います。

今ある個性を表現するもののひとつが文化遺産です。文化遺産の存在を知り、存在する意味を知り、そして育てることが太宰府市民遺産の取り組みです。その第一歩が、文化遺産の存在を知ることです。この一歩目を、文化遺産調査ボランティアの方々に行っていただきました。そこには、新たな出会いもありました。人とモノもさることながら、調査員相互の出会い、調査者と地

域の方々との出会いなど、この取り組みによって人と人とのつながりが生まれ、時には育ちました。文化遺産からはじまるまちづくりのもう一つの姿は、人と人とがつながることです。

平成16･22年度に策定した『太宰府市歴史文化基本構想』では、未来の市民に伝える太宰府を、従来型の文化財から、真に未来の市民に継承したいモノ・コトとしての文化遺産まで裾野を広げ、「見守る」「保護する」「育成する」の三つを柱に取り組むことにしました。まだはじまったばかりで、担当部署でも十分理解が足りているとは言い難い面があります。この三つの柱の中で、最初に意図したことは、自ら見つけた、知ったものに対する愛着心の芽生えでした。そこには、存在を知ることから、その存在意味までを知った方に芽生える、「見守る」気持ちの萌芽を期待しました。単に、存在を知った、その存在意味を知ったということだけでなく、そこには、身近な人たちが継承してきたという親近感と「使命」感が重なり合い、異なった感情移入が生じたのだと思います。父母、祖父母が継承してきたもの、自らが幼かった頃に体験したことなど、自分の生きてきた経験（歴史）自体が、かけがえのない文化遺産を体験し記憶していることに改めて気付かれた方も多くおられたようです。文化遺産調査に関わっていただいた市民ボランティアの皆さんは、今も元気に関わっていただいています。平成23年3月で文化庁からの受託事業（文化財総合的把握モデル事業）が終了し、その際、文化遺産調査ボランティアの方々と今後について話し合いました。その時の言葉が、自分たちが見つけた文化遺産を「見守りたい」でした。この「見守りたい」に拘束力はありません。そこには始める勇気とやめる勇気が表裏の関係として存在しています。継承しなければいけないという脅迫観念に苛まれることこそが、継承する気持ちを弱らせてしまいます。いっそのこと、「自分たちの代だけ、楽しく継承していくことができたらそれでいい。」という思いで行っていただけたらいいのではないかと考えています。楽しくないものには、誰も継承したいという思いは生じない、ただ辛いだけの苦行になってしまいます。しかし、いつも元気で笑いが絶えない活動は、自然とつながっていくものだと思います。継承していく者がいなくれば、やめる勇気、そういうものなんだという思い切ったあきらめも今後は大切だろうと思います。

c. 太宰府市民遺産

未来の市民に伝えていきたいと思うものを、自らのできることで保護育成する。もし、その文化遺産が多くの市民に共有できる物語をもつのであれば、その物語と自らができる保護育成活動とともに景観・市民遺産会議へ提案する。そして、そこで認められれば、太宰府市民遺産に認定されます。保護育成することは、できることをできる範囲で行う。大きな資金がなくても、市民に語り伝える活動でも構わない。それが多くの市民に共有されることが大切です。例えば、平成24年2月に市内で開催された地域の文化祭（都府楼団地自治会主催の文化祭）で、地域の文化遺産の紹介パネルが展示されました。この展示は、文化遺産調査に携わってくださったボランティア調査員のお一人が自主的に取り組まれたものです（**図19**）。このように、できることを自らのできる範囲で行うことで、身近にある文化遺産の意味が継承されていくことにつながります。このような活動も、文化遺産に対する育成活動の一つといえます。

図19. 地域の文化祭で展示された文化遺産調査成果
【都府楼団地自治会】

太宰府市民遺産に話を戻すと、一旦、太宰府市民遺産に認定されると、市民

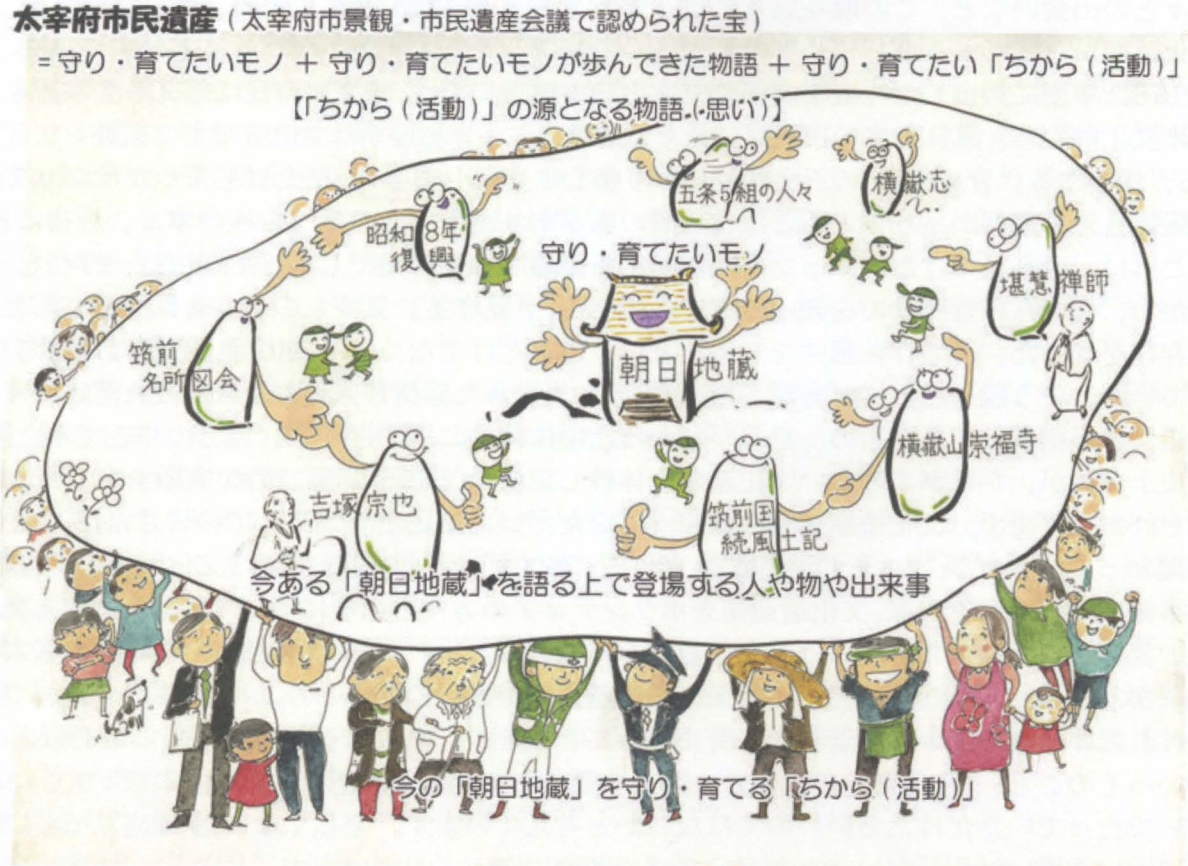


図 20. 太宰府市民遺産のイメージ

代表で構成される景観・市民遺産会議の場で、育成活動に関する議論をすることができるようになります。育成活動を継続するための議論、支援を受けるための議論を、市民－事業者－行政機関皆で行うことができます。しかし、様々な事情で支援できないと判断された場合は、失われてもやむを得ないということもあり得ます。支援ありきではありません。一方で、保護育成する団体や個人が、孤独に悩むのではなく思いを共有する多くの人で考えることができることが、太宰府市民遺産の利点です。支援の方法もできることを持ち寄って助け合う。金銭的、人的、物的支援など様々な方法で助け合うことができることも太宰府市民遺産の利点です。動き出して未だ1年余りで、太宰府市民遺産の利点が見えづらく、感じづらい状況が続いていますが、次第に多様な支援の姿が浸透していくと、「利点」も見えてくるのではないかと思います。

d. 行政計画の中の文化遺産

文化遺産調査活動から太宰府市民遺産までの取り組みは、平成23年3月に策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』に立てた内容であり、実践活動です。太宰府市は、平成20年度から3ヶ年にわたり文化庁からの受託事業である「文化財総合的把握モデル事業」を受託し、『太宰府市歴史文化基本構想』として二つの計画を位置づけました。一つは平成16年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』であり、いま一つは先に記した『太宰府市民遺産活用推進計画』です。前者が考え方を示した計画であり、後者はそれを受けて実践するための方法を具体的に示した実務計画です。

この実務計画に、本書に収めた文化遺産情報を収集してくださった文化遺産調査ボランティア活動が位置づけられています。さらに、収集された諸情報を広く公開し、多くの市民の皆さまに「見守って」いただく計画として記しています。それらの広く多彩な文化遺産の中から、学術的・芸術的・鑑賞的に優れたものを抽出し、未来に継承していくものを文化財として保護していく、従

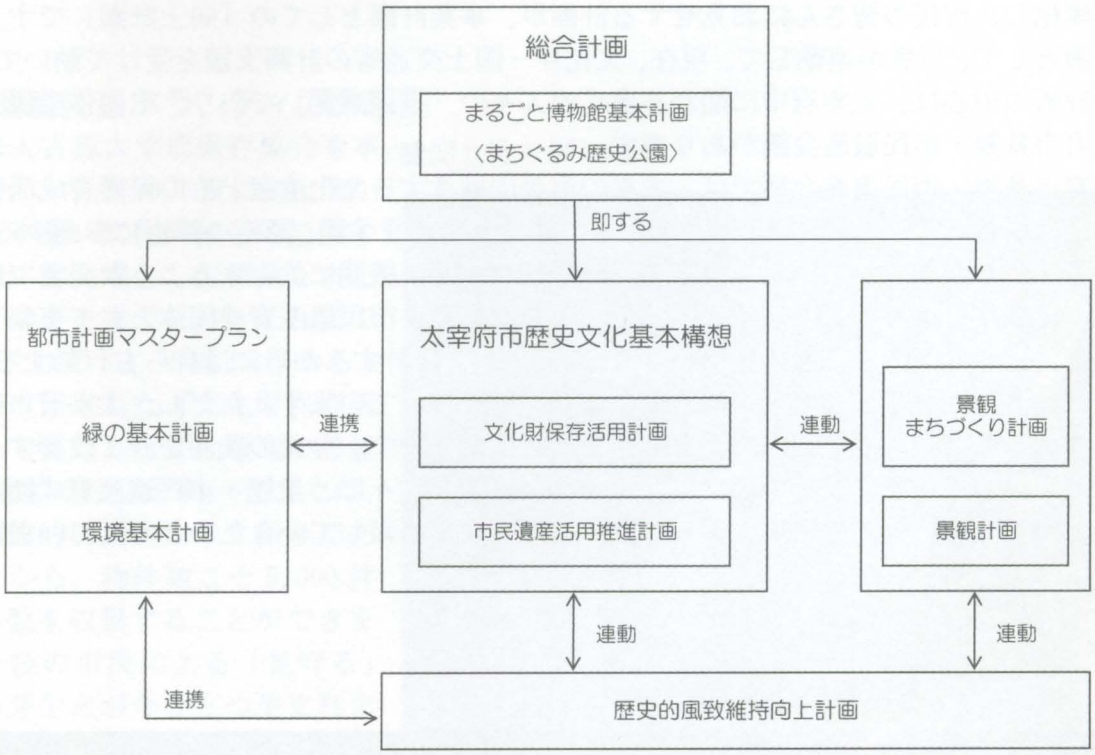


図 21. 関連計画 1

来型の保護施策も記しました。さらに本市の特色として全国に先駆けて動き始めたのが、『太宰府市民遺産』の取り組みです。未来の市民に継承していきたいものを、市民目線で抽出し、継承していく市民独自の育成活動とともに景観・市民遺産会議で認める。継承していきたい文化遺産を構成する様々な文化遺産を、多様な手法で保護育成していく取り組みが『太宰府市民遺産』です。住民－事業者－行政など太宰府市に関わる多様な市民が、育成していく諸活動を支援するのも太宰府市民遺産の取り組みのひとつです。「できることを持ち寄る」ことで、皆で支えていく取り組みです。

『太宰府市歴史文化基本構想（以下「歴文構想」と記します。）』に連動する計画として、『太宰府市景観計画（以下、「景観計画」と記します。）』と『太宰府市歴史的風致維持向上計画（以下、「向上計画」と記します。）』があります。この二つの計画との関係は、図 22 に示したように、市民の皆さんが考える「歴史的」や未来の市民に伝えていきたいモノとは何かという根拠を与えてくれるのが「歴文構想」であり、その根拠をルールとして制度化し、未来の市民に伝えていきたいモノを保護継承していく計画が「景観計画」です。さらに、「歴文構想」で描いた太宰府の

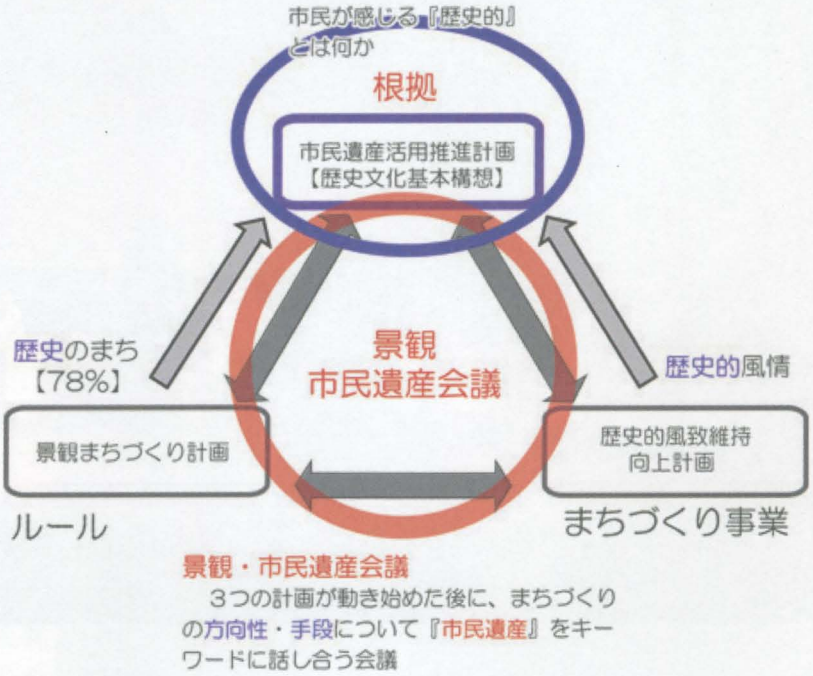


図 22. 関連計画 2

姿を実体化し、市民の皆さんにお見せする計画が、事業計画としての「向上計画」です。三位一体の計画として、三者が連動して、現在、文化庁－国土交通省の計画支援を受けて動いています。三つの計画の中心は、太宰府市に関わる多くの人々の「市民感覚」であり、その体現機関としての太宰府市景観・市民遺産会議があります。

太宰府市景観・市民遺産会議では、未来の市民に継承する文化遺産とその保護育成活動を含めた文化遺産継承活動を、太宰府市民遺産として認定していますが、認定の採否に参画する権利は、市民皆さんにあります。しかし、実務を伴わずかつ一部の機関に依存するような発言では、活動や意欲の継続性を求めることが難しいため、現在は景観・市民遺産育成団体として実動していただく団体代表者の方のみに参画資格を与えています。「発言するからには自らも行動する。」という協働の理念に則って、景観・市民遺産会議の運営を行っています。ただし、太宰府市民遺産や景観・市民遺産会議の取り組みは、まだ始まったばかりです。今後の動向をみて改善すべき点は多々あるものと思います。その際には、できるだけ多く方々に、景観・市民遺産育成団体として参画していただき、太宰府市民にとってより良き方向を模索していきたいと考えています。

■太宰府市景観・市民遺産会議

附編

1. 文化遺産調査ボランティアの活動

■聞き取り調査風景

財団法人古都大宰府保存協会を事務局に据え、平成20年度に文化庁からの受託事業（文化財総合的把握モデル事業）を発端として開始しました。そこに至るまでには、これまで記してきたように、平成13年から4ヶ年をかけ策定した『文化財保存活用計画』で実施した文化遺産の悉皆調査が基盤にあります。そこでは、市民を補佐的に据えた取り組みであったことから、物件数こそ5,000件を超える数を収集することができましたが、後の市民による「見守る」気持ちの芽生えが今ひとつ生まれませんでした。その反省に立ち、平成20年度から開始した文化遺産調査は、市民を主体とするボランティア活動による文化遺産調査に切り替えることになりました。その成果は、本書の中にも収められているように、実に多様で多彩なものが集まり、市役所文化財課単独では到底あつめることができなかったものが収集されることになりました。言い換えると、調査を進めた「今」の太宰府を知ることができる先駆的でかつ大きな成果だといえます。

先に調査者としてあげた方々が、参加者としてボランティア活動を展開してくださり、平成24年現在も62人の方々が現役でがんばっていただいています。今後は、各々の成果を基にした文化遺産地図つくりや、対象住民への文化遺産巡りも企画されています。

これまでの活動を以下に記します。

■経過

平成20年2月　文化遺産調査ボランティア説明会

平成20年3月　文化遺産調査活動開始

①太宰府小学校区班
②水城小学校区班
③太宰府東小学校区班
④太宰府南小学校区班
⑤水城西小学校区班
⑥太宰府西小学校区班
⑦国分小学校区班
⑧御笠川班
⑨東ヶ丘班

以上9班で開始

■文化遺産調査風景

平成23年3月まで、文化遺産調査ボランティア会議を毎月1回開催し、調査の方向性、目的の確認などを実施するとともに、参加者の知識の向上を図る目的で研修を重ねてきました。

■ワークショップ風景

平成23年4月　文化遺産調査ボランティア活動の今後について方針確認

平成23年度は、毎月二回ないし三回の研修を実施しています。研修内容は、これまで調査を行ってきた文化遺産情報について各小学校区を基本に、現地研修を行っています。この事前研修として、『福岡県地理全誌』など地域を知る上で基本となる文献の講読会を開催し、地域の歴史を学んだ上で、次の週に現地研修に臨むという活動を一年間継続しました。

その中で作成された文化遺産散策マップは、文化遺産調査ボランティアの方々がつくりあげた、今ひとつの大きな成果です。今回本報告に掲載することができませんでしたが、各班の成果として、今後市民公開を考えていきます。

また新たな調査班として日田街道班が結成され、現在現地確認調査が続けられています。

2. 基本文献一覧

文化遺産調査に際して、参考となる文献を記載しています。手引き的なものから専門的なものまで記しています。また、太宰府の文化遺産を知る上で必要となる資料は、これだけではありません。ここに記した書物・資料から広げていくなり、探索していただきたいと思います。

なお、ここに記した資料は、下記機関にて保管しています。ご覧になりたい方は、事前にご連絡いただき、所蔵施設内で閲覧いただきたく御願いいたします。これらの資料の外部貸出は行っておりません。ご注意ください。

■所蔵機関

太宰府市史資料室（太宰府市文化ふれあい館　2階）
電話：092-921-2322
太宰府市教育委員会文化財課調査研究室（太宰府市文化ふれあい館　2階）
電話：092-924-8533

基本文献一覧

■古典

『太宰府旧蹟全図』北図・南図　作者不詳　1812（文化9）年写

六度寺の僧船賀法印の書と推定され、制作年代は不詳ながら文化3年の可能性が高い作品。古代の大宰府の範囲を描き、その内外の地名、旧蹟を知ることができる絵画資料。北図は大野城から二日市あたりまで、南図は二日市から基山（佐賀県基山町）までを描く。

『筑前国続風土記』　貝原益軒　1709（寛永6）年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。

『筑前国続風土記　附録』　加藤一純　1806（文化3）年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国続風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『続風土記』に記載されなかったものを編纂。

『筑前国続風土記　拾遺』 青柳種信　1835（天保6）年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国続風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『続風土記』ならびに『同　附録』に記載されなかったものを編纂。

『太宰管内志』 上中下巻　伊藤常足　1841（天保12）年

本書が著されるまでに記された歴史書、地理書などを網羅した辞書。旧大宰府管内の九国二島に関する史料が記述されている。

『筑前名所図会』 奥村玉蘭　1821（文政4）年

筑前国に起こった様々な事件を歴史絵図として後生に伝えようとして描かれたもの。江戸期の太宰府を知る上で貴重な絵画資料。（1985年文献出版より復刻）

■通史

『太宰府史鑑』 高原謙次郎・江島茂逸　1903（明治36）年　菅公会

明治35年、菅公一千年大祭に際して編纂された太宰府史で、太宰府の歴史、旧跡までの記述が行われている。（文献出版より昭和50年に復刻）

『太宰府小史』 太宰府天満宮　1952年

昭和27年、菅公一千五十年大祭に際してまとめられた太宰府史で、上代（古代）、中世の太宰府史ならびに伝説・史跡についての記述が見られる。（西高辻信貞氏により昭和55年復刊）

『福岡県史』 第1～4巻　福岡県　1962～1965年

福岡県の通史として編まれたもの。

『福岡県の歴史』 福岡県　1981年

福岡県史編纂を前に普及版として刊行。

『大宰府の歴史』 全7巻　（財）古都大宰府を守る会　1984～1987年

昭和58年4月から昭和60年3月まで、第一線の研究者を講師として開催された「太宰府アカデミー」の講義録

『太宰府市史』 全13巻　太宰府市　1992～2005年

太宰府市の自然・歴史・美術・民俗・建築など、太宰府を知る上で重要な書。

『太宰府紀行』 （財）古都大宰府保存協会　2011年

太宰府にある様々な文化遺産について分かりやすく解説。太宰府にある「今」を意味とともに伝える書。

■時代史・地域史・分野史

『大宰府都城の研究』 鏡山猛　1968年　風間書房

大宰府条坊の存在を平安時代の文献と歴史地理学の手法を用いて論証。その後の大宰府条坊研究の基礎を築く。

『古代の大宰府』 倉住靖彦　1985年　吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『古代を考える　大宰府』 田村圓澄　1987年　吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『遠の朝廷　大宰府』 杉原敏之　2011年　新泉社

太宰府における埋蔵文化財調査成果を踏まえ、太宰府の歴史を紹介。

『邪馬台国と大宰府』 長沼賢海　1968年　太宰府天満宮文化研究所

長沼賢海氏の論著を集成したものだが、筑前国府所在地に関する論考などを所収

『大宰府と観世音寺』 高倉洋彰　1996年　海鳥社

観世音寺の歴史を大宰府との関係を併せて解説。

『菅原道真と太宰府天満宮』上下巻　太宰府天満宮文化研究所編　1975年

昭和52年、菅公一千七十五年大祭に際して記念事業として刊行された書。御祭神である菅原道真公から太宰府天満宮に関する論文を集録。

『天神さまと二十五人』 太宰府天満宮文化研究所編　2002年

太宰府天満宮の御祭神菅原道真に纏わる人々を取り上げ解説する。

『宝満山の地宝』 小田富士雄編　1982年　太宰府天満宮文化研究所

宝満山を舞台に行われた学術調査の成果報告書

『宝満山歴史散歩』 森弘子　2000年　葦書房

宝満山に残された文化遺産を解説

『宝満山の環境歴史学的研究』 森弘子　2009年　岩田書院

宝満山の学術的研究成果、文献・考古など幅広い分野からの分析と論考が記されている。

『太宰府発見　歴史と万葉の旅』 森弘子　2003年　海鳥社

万葉集をはじめとする文芸の世界を説きながら、大宰府（太宰府）の歴史を解説。

『大宰府万葉の世界』 前田淑　2007年　弦書房

大伴旅人、山上憶良等による大宰府を中心に形成された「筑紫歌壇」を中心にまとめた書。

『太宰府天満宮連歌史』 Ⅰ～Ⅳ　川添昭二・棚町知彌・島津忠夫編著　1980～1987年

文道の神として室町時代から崇敬された菅神のもとで執り行われた連歌の神事、その時歌われた連歌資料を集成。

『福岡県碑誌』筑紫之部　荒井周夫　1929年

福岡県内にある歌碑・句碑などを集成。

『福岡県の文学碑』近・現代編　大石實編著　2005年　海鳥社

福岡県内にある歌碑・句碑など文芸作品を普及する目的で建てられた碑を集成。作者、所在地、碑文に至るまで細かく解説されている。

『わがまち散策　太宰府への招待』 太宰府市総務部企画課編　1990年

昭和49年1月から広報だざいふに連載された文化財シリーズの内、13年分をまとめ編集したもの。

『太宰府伝説の旅（改訂版）』 大隈和子　2010年　（財）古都大宰府保存協会

太宰府に残る昔話、言い伝えを分かりやすく解説。

『福岡県農地改革史』 農地委員会福岡県協議会　1950年

福岡県の農業に関する通史。農業を視点として記してあり、地主制度など詳細に記されている。

『筑紫の歴史と農業』 白水昇　1975年　筑紫の歴史と農業刊行会

原始から現代に至るまでを農業史の観点から記述。

『郷土読本』 水城尋常高等小学校　1937年

旧水城村の郷土史を記した書。時の記念日の行事や、史跡などが記されている。

『とおのこが風土記』 太宰府市通古賀区　2003年

地域史を地域の住民がまとめた書。自らの歩みも記され、一般書には決して記されることのない、受け継いできた「生の歴史」がある。

『学業院物語』 矢木信男　2006年　（株）梓書院

学業院中学校について、その起こりから今に至る歴史を記す。

『太宰府　－人と自然の風景－』 太宰府市文化ふれあい館　2002年

太宰府の自然や風景を、写真・絵画資料を使って概説。特に絵画資料は、各時代の太宰府への印象・姿を知る上で参考になり、手引き書として活用できる。

『福岡県史　民俗資料編』 福岡県　1988 年
太宰府市新町・北谷についての民俗調査成果を記載。
『福岡県の地名』 平凡社　2004 年
福岡県にある地名、旧跡、遺跡までを記載。
『福岡県百科事典』上下巻　西日本新聞社　1982 年
福岡県における歴史、産業、文化など 23 分野にわたる事項について記している。
『日本建築史図集』 日本建築学会編　1949 年　彰国社
日本における建築物に関する概説書。竪穴住居から現代建築までを記載。

■史料・年表
『福岡県史資料』第 1 ～ 10 輯　続第 1 輯　続第 4 輯　福岡県　1932 ～ 1943 年
福岡県に関わる様々な史料を抽出し掲載。文化年間伊能忠敬測量日記や田畑石高帳、伝記など多岐にわたる史料が掲載されている。
『大宰府・太宰府天満宮史料』 太宰府天満宮　1964 ～ 2006 年
大宰府及び太宰府天満宮に関する文献史料を網羅。太宰府を研究するための基本史料集。
『大宰府古代史年表』 重松敏彦編　2007 年　吉川弘文館
536 年から 1156 年までの大宰府で起きた出来事を年表形式で集成。また大宰府に関わった官人一覧も附記。
『日本古典文学大系』1 ～ 100 巻　岩波書店　1957 ～ 1967 年
万葉集、風土記、日本書紀などを掲載した大系書

■調査報告書
『福岡県地理全誌』 福岡県　1880（明治 13）年
新政府によって明治初期に行われた地誌編纂で編まれた書。福岡県の農産物、地理、歴史が記されている。（『福岡県史』近代資料編に再録）
『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第 1 輯～第 16 輯　福岡県　1925（大正 14）～ 1952（昭和 27）年
大正から昭和にかけて調査された史跡や天然記念物、名勝の有り様を知る上で重要。
『大宰府史跡　発掘調査年度概報』 九州歴史資料館　1971 ～ 1999 年
太宰府市内の史跡指定地内で行われてきた埋蔵文化財の学術調査概要の報告書
『大宰府史跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅵ　2001 ～ 2010 年継続
市内の史跡で行われている埋蔵文化財学術調査の報告書
『大宰府政庁跡』 九州歴史資料館　2002 年
特別史跡大宰府跡の中心的位置にある大宰府政庁跡で行われてきた学術調査の報告書。
『観世音寺』全 5 冊　九州歴史資料館　2006 年
史跡　観世音寺で行われてきた学術調査の報告書
『水城跡』上下巻　九州歴史資料館　2009 年
特別史跡水城跡で行われてきた学術調査の報告書
『大宰府政庁周辺官衙跡』Ⅰ・Ⅱ　九州歴史資料館　2010・2011 年
大宰府政庁前面域（南域）で行われてきた学術調査報告書。
『大宰府条坊跡　－太宰府市の文化財－』ほか　太宰府市教育委員会　2012 年継続
太宰府町ならびに市として行ってきた文化財調査の報告書。市域に所在する大宰府条坊跡をはじめ筑前国分寺跡、水城跡などを報告。
『中世墓資料集成　－九州・沖縄－』 中世墓資料集成研究会　2004 年
2004 年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『中世墓資料集成　－補遺編－』　中世墓資料集成研究会　2007年
2007年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成
『太宰府の民俗』第1・2集　太宰府市史編集委員会　1990・1992年
太宰府市史編纂事業にともない実施された民俗調査に関する報告書。集録地域：水城・国分・坂本・大佐野・向佐野・吉松、その後は太宰府市史　民俗資料編として統括掲載。
『太宰府の民俗』Ⅰ　太宰府市文化ふれあい館　2011年継続
市内のお宮で行われている宮座ならびにワラ綯い技術に関する調査報告書

■論文・機関誌
『筑紫史談』第1集～90集　筑紫史談会　1914～1945年
筑紫に関する歴史・地理の論文集。大正から昭和前期にかけての歴史的な関心事や、当時の太宰府の様子を多様な視点で知る上で貴重な書。
『大宰府古文化論叢』上下巻　九州歴史資料館編　1983年　吉川弘文館
九州歴史資料館開館十周年を記念して発刊された大宰府（太宰府）に関する論文集
『九州歴史資料館　研究論集』1～36　1975～2011年継続中
太宰府を中心に九州をフィールドとして、文献・考古・工芸など多分野の論考を集録。
『都府楼』　1～43号　（財）古都大宰府保存協会　2011年継続
昭和61年から発刊されている古都大宰府保存協会の機関誌で、その時々の話題や、文化遺産に関する論考などを多彩に掲載する。
『年報　太宰府学』1～6　太宰府市　2007～2011年
太宰府市史資料室の編集になる紀要。太宰府に関わる様々な論考、文献目録、資料目録等を掲載する。

■史跡保存史
『古都大宰府保存への道』（財）古都大宰府保存協会　1994年
大宰府保存運動について江戸時代から現代までの歩みを記す。

名称	読み仮名	登録番号	頁
■あ行			
秋葉神社	あきばじんじゃ	A0045	17
浅川家墓地	あさかわけぼち	H0015	125
朝日地蔵堂	あさひじぞうどう	F0115	104
朝日橋(あさひばし)	あさひばし	B0043	31
朝日橋関連石柱三本	あさひばしかんれんせきちゅうさんぼん	B0044	31
朝日山遺跡石仏石塔群	あさひやまいせきせきぞうせきとうぐん	F0116	104
天原山安楽寺太宰府天満宮 検校坊墓所	あまがはらやまあんらくじだざいふてんまんぐう　けんこうぼうぼしょ	B0009	26
池ん谷の池	いけんたにのいけ	H0083	135
石垣(個人宅)	いしがき	D0015	55
石灯龍	いしどうろう	B0018	27
石灯籠	いしどうろう	F0042	93
石燈籠(常夜燈)	いしどうろう(じょうやとう)	F0047	93
石のある風景	いしのあるふうけい	F0007	88
板碑	いたび	B0006	25
板碑	いたび	B0084	38
板碑	いたび	B0100	39
板碑	いたび	H0027	127
一字一石塔	いちじいっせきとう	D0003	54
一のイデ(小野井手または一番井手)	いちのいで	A0004	11
一丁坂道路拡張工事記念碑	いっちょうざかどうろかくちょうこうじきねんひ	A0050	17
井戸	いど	A0032	15
稲子地蔵	いなごじぞう	E0115	76
井上哲次郎生誕地碑	いのうえてつじろうせんたんちひ	C0018	49
今王地蔵ほか	いまおうじぞう	D0011	54
イヤノ浦橋	いやのうらばし	A0010	12
「岩踏川」の石柱	いわふみがわのせきちゅう	B0038	30
岩踏橋(いわふみばし)	いわふみばし	B0037	30
岩屋城跡	いわやじょうあと	B0015	27
岩屋城合戦 関連石造物 1	いわやじょうかっせん　かんれんせきぞうぶつ1	B0071	36
岩屋城合戦 関連石造物 3	いわやじょうかっせん　かんれんせきぞうぶつ3	F0121	105
岩屋城合戦犠牲者追悼伝要	いわやじょうかっせんぎせいしゃついとうでんよう	B0077	37
岩屋磨崖石塔群	いわやまがいせきとうぐん	B0103	40
戌の薬師(インノヤクシ)	いんのやくし	F0006	87
宇佐八幡宮祠	うさはちまんほこら	C0006	47
内山辛野遺跡(うちやまからしのいせき)	うちやまからしのいせき	A0077	21
梅大路の道標	うめおおじのみちしるべ	C0005	47
梅ヶ枝餅	うめがえもち	B0099	39
浦之城公園	うらのじょうこうえん	B0028	29
浦之城橋(うらのじょうばし)	うらのじょうばし	B0041	31
浦之城橋石柱	うらのじょうばしせきちょう	B0040	30
裏ノ田地下道	うらのたちかどう	E0160	80
裏ノ田池(裏の田・浦の田)	うらのたのいけ	E0161	80
ウランカワイデ	うらんかわいで	A0020	14
恵比寿神	えびすがみ	B0019	27
恵比寿神	えびすがみ	B0095	39
えびす様	えびすさま	B0108	40
えびす様(恵比寿神)	えびすさま	F0015	89
恵比寿像(線刻)	えびすぞう	B0109	41
恵比寿像□	えびすぞう	C0022	50
恵比寿像	えびすぞう	C0024	50
恵比寿堂	えびすどう	F0044	93
エビスまつり	えびすまつり	F0009	88
恵比寿祭(通古賀)	えびすまつり（とおのこが）	G0039	117
老松神社	おいまつじんじゃ	E0026	62
老松神社のほんげんきょう	おいまつじんじゃのほんげんぎょう	E0169	81
老松図	おいまつず	E0176	82
追分石(道標　四王寺国分)	おいわけいし	F0010	88

追分石(道標　花屋敷サコ)	おいわけいし	F0126	105
王城神社本殿及び拝殿	おうぎじんじゃ　ほんでんおよびはいでん	G0053	119
大石垣(大野城跡)	おおいしがき	F0134	106
王城神社	おおぎじんじゃ	G0034	116
大城山(四王寺山)	おおぎやま	F0143	108
大佐野川	おおざのがわ	H0054	130
大佐野地区のほうげんきょう	おおざのちくのほうげんぎょう	H0079	134
大谷	おおたに	B0120	42
大谷川から流れてくる水路(洗出付近)	おおたにがわからながれてくるすいろ	F0034	92
大野城跡	おおのじょうあと	E0143	77
大野城橋	おおのじょうばし	E0015	62
大人足形(オオヒノアシガタ)	おおひのあしがた	B0122	43
大水避け石垣	おおみずよけいしがき	A0019	14
遠賀団(おかだん)印出土地の碑	おかだんいんしゅつどちのひ	F0054	95
オカッテンサン　鬼子母神堂	おかってんさん	F0018	89
奥園遺跡(おくぞのいせき)	おくぞのいせき	B0124	43
奥ノ池	おくのいけ	E0104	74
潮井台(潮齋台　しおいだい)	おしおいだい	F0048	94
落合橋(おちあいばし)	おちあいばし	G0001	113
オッゴヤのイデ	おっごやのいで	A0009	12
お堂(聖観音堂)	おどう（せいかんのんどう）	H0048	129
お堂跡推定地	おどうすいていち	E0117	76
鬼瓦	おにがわら	E0151	78
鬼ノコシカケ	おにのこしかけ	B0121	43
帯塚碑	おびつかひ	F0075	98
お山の見える場所	おやまのみえるばしょ	E0123	77

■か行

戒壇院	かいだんいん	F0104	102
学業院址碑(学校院址)	がくぎょういんあとのひ	F0086	100
学業院中学校	がくぎょういんちゅうがっこう	F0057	95
鍛冶久地下道(太宰府市-06)	かじきゅうちかどう	E0166	81
鹿嶋神社　本殿と拝殿	かしまじんじゃ　ほんでんとはいでん	G0052	119
鹿嶋神社の宮相撲	かしまじんじゃのみやずもう	G0036	116
学校法人　筑紫女学園	がっこうほうじん　ちくしじょがくえん	C0027	50
金掛天満宮(水神・大黒天・天満宮)	かねかけてんまんぐう	C0015	49
歌碑(春はもえ･･･)	かひ	A0066	19
竈門神社	かまどじんじゃ	A0072	20
竈門神社新宮(北谷遙拝所)	かまどじんじゃしんぐう(きただにようはいじょ)	A0013	13
上ノ池をのぞむ風景	かみのいけをのぼむふうけい	E0103	74
神ノ前窯跡	かみのまえかまあと	H0061	131
カヤノ遺跡	かやのいせき	H0055	130
苅萱大橋(かるかやおおはし)	かるかやおおはし	F0046	93
苅萱(かるかや)の関跡の碑	かるかやのせきあと	F0040	92
苅萱橋(かるかやばし)	かるかやばし	G0005	113
河野静雲句碑	かわのせいうんくひ	F0013	88
川原地下道(太宰府市-07)	かわはらちかどう	E0059	68
観世音寺	かんぜおんじ	F0103	102
観世音寺大橋(かんぜおんじおおはし)	かんぜおんじおおはし	F0094	101
導水トンネル(新山の井池～上方・朝日水路)	かんぜおんじくどうすいとんねる	F0117	104
導水トンネル(安の浦から安養寺地区)	かんぜおんじくどうすいとんねる	F0144	108
観世音寺区のほんげんぎょう	かんぜおんじくのほんげんぎょう	F0142	108
観音堂	かんのんどう	E0013	61
観音堂	かんのんどう	F0124	105
観音堂	かんのんどう	H0009	124
観音堂と観音橡	かんのんどうとかんのんぞう	F0037	92
北谷口橋	きただにくちはし	A0051	17
北谷地蔵堂	きただにじぞうどう	A0024	14
北谷ダム	きただにだむ	A0001	11
北谷地区の井川	きただにちくのいがわ	A0075	21

北谷の道標	きただにのみちしるべ	A0014	13
貴船神社	きふねじんじゃ	A0021	14
旧落合橋親柱	きゅうおちあいばしおやばしら	G0050	119
旧落合橋擬宝珠円柱	きゅうおちあいばしぎほうじゅえんちゅう	G0049	118
旧河川	きゅうかせん	E0074	70
旧小字標　油田(あぶらでん・あぶらだ)	きゅうこあざ　あぶらでん	F0146	108
旧小字標　垣添(かきぞえ)	きゅうこあざ　かきぞえ	G0043	117
旧小字標　鶴畑(つるのはた・つるはた)	きゅうこあざ　つるのはた	G0057	120
旧小字標　西ノ後(にしのうしろ)	きゅうこあざ　にしのうしろ	G0056	120
旧小字石碑「カヤノ」	きゅうこあざせきひ　かやの	H0078	134
旧小字石標　朝日(あさひ)	きゅうこあざせきひょう　あさひ	F0114	104
旧小字標石　安養寺(あんようじ)	きゅうこあざせきひょう　あんにょじ	F0100	102
旧小字標石　池田(いけだ)	きゅうこあざせきひょう　いけだ	F0022	90
旧小字標石　石橋(いしばし)	きゅうこあざせきひょう　いしばし	F0038	92
旧小字標石　今道(いまみち)	きゅうこあざせきひょう　いまみち	F0106	102
旧小字標石　浦山(うらやま)	きゅうこあざせきひょう　うらやま	F0019	89
旧小字標石　エリカド	きゅうこあざせきひょう　えりかど	F0033	91
旧小字標石　大楠(おおぐす)	きゅうこあざせきひょう　おおぐす	F0059	95
旧小字標石　大正府(おおしょうぶ)	きゅうこあざせきひょう　おおしょうふ	F0029	91
旧小字標石　学業(がくぎょう)	きゅうこあざせきひょう　がくぎょう	F0082	99
旧小字標石　北ノ橋(きたのはし)	きゅうこあざせきひょう　きたのはし	G0024	115
旧小字標石　蔵司(くらつかさ)	きゅうこあざせきひょう　くらつかさ	F0060	96
旧小字標石　小正府(こしょうぶ)	きゅうこあざせきひょう　こしょうぶ	F0030	91
旧小字標石　御所ノ内(ごしょのうち)	きゅうこあざせきひょう　ごしょのうち	F0107	103
旧小字標石　五反田(ごたんだ)	きゅうこあざせきひょう　ごたんだ	F0085	99
旧小字標石　住ヶ元(すみがもと)	きゅうこあざせきひょう　すみがもと	F0080	99
旧小字標石　関屋(せきや)	きゅうこあざせきひょう　せきや	F0043	93
旧小字標石　大裏(だいり・おおうら)	きゅうこあざせきひょう　だいり	F0122	105
旧小字標石　月山(つきやま)	きゅうこあざせきひょう　つきやま	F0079	99
旧小字標石　辻(つじ)	きゅうこあざせきひょう　つじ	F0026	90
旧小字標石　露切(つゆきり・つゆぎり)	きゅうこあざせきひょう　つゆきり	F0111	103
旧小字標石　土居ノ内(どいのうち)	きゅうこあざせきひょう　どいのうち	F0091	100
旧小字標石　堂廻(どうめぐり)	きゅうこあざせきひょう　どうめぐり	F0102	102
旧小字標石　東蓮寺(とうれんじ)	きゅうこあざせきひょう　とうれんじ	G0040□	117
旧小字標石　西浦(にしうら)	きゅうこあざせきひょう　にしうら	F0021	90
旧小字標石　花屋敷(はなのやしき)	きゅうこあざせきひょう　はなやしき	F0017	89
旧小字標石　林崎(はやしざき)	きゅうこあざせきひょう　はやしざき	F0020	89
旧小字標石　半田(はんだ)	きゅうこあざせきひょう　はんだ	G0003	113
旧小字標石　日吉(ひよし・ひえ)	きゅうこあざせきひょう　ひよし　ひえ	F0078	98
旧小字標石　広丸(ひろまる)	きゅうこあざせきひょう　ひろまる	F0058	95
旧小字標石　不丁(ふちょう)	きゅうこあざせきひょう　ふちょう	F0061	96
旧小字標石　前(まえ)	きゅうこあざせきひょう　まえ	F0023	90
旧小字標石　松倉(まつくら)	きゅうこあざせきひょう　まつくら	F0031	91
旧小字標石　山ノ井(やまのい)	きゅうこあざせきひょう　やまのい	F0105	102
旧小字標石　来木(らいき)	きゅうこあざせきひょう　らいき	F0056	95
「旧小字　田中」の石碑	きゅうこあざたなかのせきひ	G0009	114
旧太宰府町道	きゅうださいふちょうどう	B0072	36
共同井戸	きょうどういど	A0015	13
共同井戸	きょうどういど	A0030	15
共同井戸　手押しポンプ式井戸 1～7	きょうどういど　ておしぽんぷしきいど	G0062	120
共同井戸、共同風呂跡	きょうどういど、きょうどうぶろ	A0034	15
京ノ尾遺跡	きょうのおいせき	H0059	131
クスの大木	くすのたいぼく	G0058	120
久保田井堰	くぼたいぜき	F0045	93
熊田勇吉の墓	くまだゆうきちのはか	H0016	125
隈麿公奥都城(くままろこうおくつき)	くままろこうおくつき	G0027	115
グミの大木(桜並木)	ぐみのたいぼく	D0022	55
供養塔	くようとう	E0153	78
供養塔の桜	くようとうのさくら	E0154	79

索引【か行】

蔵司　稲荷堂	くらつかさ　いなりどう	F0028	91
くりはい箸(くりあい箸)	くりはいばし	B0098	39
黒岩稲荷神社	くろいわいなりじんじゃ	B0013	27
久郎利遺跡(くろうりいせき)	くろうりいせき	H0056	130
ケイサシノ井	けいさしのい	E0006	60
「けやき」の木	けやきのき	H0024	127
建重寺橋(けんじゅうじばし)	けんじゅうじばし	B0045	31
玄清法印之墓	げんしょうほういんのはか	F0014	89
県道開通記念碑	けんどうかいつうきねんひ	A0059	18
玄昉の墓	げんぼうのはか	F0147	108
鯉・ハヤ等の生息地	こい・はやなどのせいそくち	D0017	55
甲城谷(口上谷)	こうじょうだに	F0137	107
高射砲陣地跡	こうしょほうじんちあと	H0013	125
庚申尊天	こうしんそんてん	A0076	21
庚申尊天	こうしんそんてん	B0085	38
庚申尊天	こうしんそんてん	B0118	42
庚申尊天	こうしんそんてん	E0063	68
庚申天	こうしんてん	A0017	13
庚申天	こうしんてん	B0008	26
幸神天(庚申天)	こうしんてん	B0032	29
庚申天	こうしんてん	B0047	32
庚申塔	こうしんとう	B0031	29
庚申塔	こうしんとう	F0077	98
庚申塔	こうしんとう	F0081	99
庚申天	こうしんとう	F0099	101
庚申塔(庚申天)	こうしんとう	H0033	128
更正道路碑	こうせいどうろのひ	G0032	116
弘法大師・地蔵様	こうぼうたいし・じぞうさま	B0107	40
光明寺石庭	こうみょうじせきてい	B0086	38
公民館建築記念碑	こうみんかんけんちくきねんひ	F0097	101
国鉄鹿児島本線赤煉瓦造架橋	こくてつかごしまほんせんあかれんがぞうかきょう	H0038	128
国分　毘沙門堂	こくぶ　びしゃもんどう	E0097	73
国分瓦窯跡	こくぶかわらがまあと	E0113	75
国分区のほんげんぎょう	こくぶくいきのほんげんぎょう	E0090	73
国分小学校裏山の日の出が見える場所	こくぶしょうがっこううらやまのひのでがみえるばしょ	E0031	63
国分小裏山より見る四王寺山(秋の風景)	こくぶしょうがっこううらやまよりみるしおうじやま	E0162	80
国分小学校下の風景	こくぶしょうがっこうしたのふうけい	E0044	65
国分天満宮	こくぶてんまんぐう	E0078	71
国分天満宮境内の石柱	こくぶてんまんぐうけいだいのせきちゅう	E0079	71
国分天満宮の宮座	こくぶてんまんぐうのみやざ	E0170	81
国分ポスト横の石	こくぶぽすとよこのいし	E0121	76
国分松本遺跡	こくぶまつもといせき	E0185	83
国分寺史跡指定境界標(5)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0069	69
国分寺史跡指定境界標(4)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0070	69
国分寺史跡指定境界標(9)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0071	70
国分寺史跡指定境界標(10)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0072	70
国分寺史跡指定境界標(8)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0081	71
国分寺史跡指定境界標(2)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0086	72
国分寺史跡指定境界標(3)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0087	72
国分寺史跡指定境界標(1)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0091	73
国分寺史跡指定境界標(7)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0099	74
国分寺史跡指定境界標(6)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう	E0100	74
国分寺西側境界線の土地	こくぶんじにしがわきょうかいせんのとち	E0082	71
国分寺西側境界の延長になる道	こくぶんじにしがわきょうかいのえんちょうになるみち	E0064	69
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(1)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます	E0068	69
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(2)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます	E0077	70
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの枡(3)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます	E0101	74
国分寺西側道跡の名残をとどめる道	こくぶんじにしがわどうろのなごりをとどめるみち	E0083	71
国分寺西側と北側の境界線が交わる所	こくぶんじにしがわときたがわのきょうかいせんがまじわるところ	E0065	69

国分寺前石製燈籠	こくぶんじまえせきせいとうろう	E0155	79
国分寺南側の道路	こくぶんじみなみがわのどうろ	E0058	68
五穀神	ごこくしん	A0057	18
五条遺跡	ごじょういせき	C0020	49
五条小橋(ごじょうこばし)	ごじょうこばし	C0004	47
五条橋(ごじょうばし)	ごじょうはし	F0112	103
古代官道跡の名残	こだいかんどうあとのなごり	H0071	133
ゴタンダイデ	ごたんだいで	A0041	16
五反田堰	ごたんだぜき	F0090	100
古渓大明神祠	こっけだいみょうじんほこら	H0014	125
古墓(自然石)	こぼ	A0078	21
五輪塔	ごりんとう	A0068	20
衣挂神社(衣掛神社)	ころもかけじんじゃ（きぬかけじんじゃ）	E0050	66
衣挂神社(衣掛神社)の参道(改修)	ころもかけじんじゃのさんどう	E0156	79
衣挂神社(衣掛神社)焼納祭	ころもかけじんじゃのしょうのうさい	E0052	67
衣挂神社(衣掛神社)のほんげんぎょう	ころもがけじんじゃのほんげんぎょう	E0175	82
衣挂神社(衣掛神社)の宮座	ころもがけじんじゃのみやざ	E0173	82
衣挂神社(衣掛神社)のヨド	ころもがけじんじゃのよど	E0174	82
金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸	こんごうひょうえのいど	A0070	20
紺町地下道(太宰府市-05)	こんまちちかどう	E0163	80

■さ行

賽の神・小夜神(さいのかみ)	さいのかみ	E0041	65
宰府の溝(1)ふれあい広場	さいふのみぞ いち	B0113	41
宰府の溝(3)小鳥居小路	さいふのみぞ さん	B0115	42
宰府の溝(2)	さいふのみぞ に	B0114	41
宰府の溝への取水場	さいふのみぞへのしゅすいば	B0117	42
坂本区のほんげんぎょう	さかもとくのほんげんぎょう	F0141	108
坂本のダブリュウ	さかもとのだぶりゅう	F0128	106
坂本八幡宮	さかもとはちまんぐう	F0025	90
坂本方面への近道	さかもとほうめんへのちかみち	F0001	87
坂本村	さかもとむら	F0135	107
鷺田橋親柱	さぎたがわおやはしら	G0054	119
桜の大木跡	さくらのたいぼくあと	H0004	124
座頭の塔(玄清法印墓)	ざとうのとう	B0088	38
佐野浦集落	さのうらしゅうらく	H0053	130
佐野塾跡	さのじゅくあと	H0060	131
幸の元井堰取水口跡	さやのもといせきしゅすいこうあと	B0005	25
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	B0082	37
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0016	62
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0030	63
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0088	72
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0022	126
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0031	128
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0051	129
猨田彦大神	さるたひこおおかみ	H0052	130
猿田彦大神・大行事塔ほか	さるたひこおおかみ・だいぎょうじとうほか	D0012	55
猿田彦尊	さるたひこそん	A0069	20
猿田彦尊	さるたひこそん	B0035	30
猿田彦尊	さるたひこそん	H0028	127
申田彦尊	さるたひこそん	H0077	134
猿田彦太神	さるたひこだいじん	G0060	120
猿田彦大神	さるたひこだいじん	H0082	135
猿田彦太神碑	さるたひこだいじんひ	G0031	116
三条・天満宮方面への仕事道	さんじょう・てんまんぐうほうめんへのしごとみち	B0059	34
三條橋(さんじょうばし)	さんじょうばし	B0036	30
汐井川	しおいがわ	H0017	125
四王寺山　三十三石仏	しおうじやま　さんじゅうさんせきぶつ	B0119	42
四王寺山三十三石仏　第1番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいいちばんふだしょ	B0012	26
四王寺山三十三石仏　第9番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいきゅうばんふだしょ	B0060	34

四王寺山三十三石仏　第5番札所□	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいごばんふだしょ	B0068	35
四王寺山三十三石仏　第31番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいさんじゅういちばんふだしょ	B0074	36
四王寺山三十三石仏　第32番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいさんじゅうにばんふだしょ	B0073	36
四王寺山三十三石仏　第30番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいさんじゅうばんふだしょ	F0002	87
四王寺山三十三石仏　第3番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいさんばんふだしょ	B0065	35
四王寺山三十三石仏　第11番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅういちばんふだしょ	B0058	33
四王寺山三十三石仏　第15番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうごばんふだしょ	B0053	33
四王寺山三十三石仏　第13番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうさんばんふだしょ	B0055	33
四王寺山三十三石仏　第17番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうななばんふだしょ	B0051	32
四王寺山三十三石仏　第12番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうにばんふだしょ	B0057	33
四王寺山三十三石仏　第18番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうはちばんふだしょ	B0050	32
四王寺山三十三石仏　第10番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうばんふだしょ	B0061	34
四王寺山三十三石仏　第14番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうよんばんふだしょ	B0056	33
四王寺山三十三石仏　第16番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいじゅうろくばんふだしょ	B0052	32
四王寺山三十三石仏　第7番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいなばんふだしょ	B0067	35
四王寺山三十三石仏　第27番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいにじゅうななばんふだしょ	E0005	60
四王寺山三十三石仏　第28番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいにじゅうはちばんふだしょ	E0007	60
四王寺山三十三石仏　第26番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいにじゅうろくばんふだしょ	E0001	60
四王寺山三十三石仏　第2番札所□	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいにばんふだしょ	B0064	34
四王寺山三十三石仏　第8番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいはちばんふだしょ	B0063	34
四王寺山三十三石仏　第4番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいよんばんふだしょ	B0066	35
四王寺山三十三石仏　第6番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ　だいろくばんふだしょ	B0069	35
四王寺山の井戸　持国天ノ井	しおうじやまのいど　じこくてんのい	B0054	33
四王寺山の井戸　増長天ノ井	しおうじやまのいど　ぞうちょうてんのい	B0075	36
四王寺山のビューポイント 1	しおうじやまのびゅーぽいんと 1	E0002	60
四王寺山のビューポイント 2	しおうじやまのびゅーぽいんと 2	E0008	61
四王寺山のビューポイント 3	しおうじやまのびゅーぽいんと 3	E0009	61
四王寺山のビューポイント 5	しおうじやまのびゅーぽいんと 5	B0070	35
四王寺山のビューポイント 6	しおうじやまのびゅーぽいんと 6	B0062	34
四王寺林道開設記念碑	しおうじりんどうかいせつきねんひ	F0003	87
しかけ水路	しかけすいろ	A0007	12
四季桜	しきざくら	G0012	114
式部稲荷下宮	しきぶいなりげぐう	A0063	19
史蹟大宰府阯境界碑	しせきださいふあときょうかいひ	F0069	97
史跡大宰府址境(界)碑	しせきださいふあときょうかいひ	F0076	98
史蹟太宰府阯碑	しせきださいふあとひ	F0064	96
史蹟筑前國分寺阯(児童公園内)の石柱	しせきちくぜんこくぶんじあとのせきちゅう	E0089	72
史跡の公有地境界石柱(1)	しせきのこうゆうちきょうかいせきちゅう	E0076	70
史跡の公有地境界石柱(2)	しせきのこうゆうちきょうかいせきちゅう	E0096	73
史蹟水城跡境界(5)	しせきみずきあときょうかい	E0035	64
史蹟水城跡境界(1)	しせきみずきあときょうかい	E0043	65
史蹟水城跡境界(2)	しせきみずきあときょうかい	E0046	66
史蹟水城跡境界(3)	しせきみずきあときょうかい	E0048	66
史蹟水城跡境界(4)	しせきみずきあときょうかい	E0172	82
自然石	しぜんせき	A0011	12
地蔵堂	じぞうどう	A0064	19
地蔵堂	じぞうどう	A0065	19
地蔵堂	じぞうどう	H0010	124
地蔵菩薩	じぞうぼさつ	A0071	20
地蔵菩薩(板碑)□	じぞうぼさつ	A0073	20
慈母観音(子安観音)	じぼかんのん	B0027	28
島本遺跡	しまもといせき	H0018	126
清水谷トンネル	しみずだにとんねる	C0023	50
下大利橋	しもおおりはし	E0014	62
下川原橋	しもかわらばし	G0047	118
十一面観音群	じゅういちめんかんのん	D0002	54
十三仏堂	じゅうさんぶつどう	F0036	92
集水枡	しゅうすいます	E0168	81
少弐資能(しょうにすけよし)墓	しょうにすけよしのはか	F0150	109

白川橋(しらかわばし)	しらかわばし	C0001	47
「白川橋」の石柱	しらかわばしのせきちゅう	C0002	47
新池(窪の池、窯の池、瓦窯の池)	しんいけ	E0110	75
新池　墓石	しんいけ　はかいし	E0112	75
新池土堤	しんいけのどて	E0111	75
神牛塚	しんぎゅうづか	C0025	50
新溜池・新池	しんためいけ　いんいけ	A0006	11
陣ノ尾1号墳	じんのういちごうふん	E0144	77
陣ノ尾川沿いの道	じんのうがわぞいのみち	E0056	67
陣ノ尾川の側溝	じんのおかわのそっこう	E0057	67
新町	しんまち	B0089	38
新向佐野地下道	しんむかいざのちかど	H0073	133
真誉親王墓	しんよしんのうのはか	A0012	12
水準点	すいじゅんてん	E0114	75
水城院への参詣道	すいじょういんへのさんけいみち	H0067	132
水路(旧日田街道沿いの水路)	すいろ	E0021	62
姿見の井	すがたみのい	E0049	66
朱雀大橋(すざくおおはし)	すざくおおはし	F0089	100
晴明井のエノキ	せいめいのいのえのき	G0038	117
ゼウウンノハカ	ぜううんのはか	F0152	109
石塔	せきとう	B0087	38
石碑	せきひ	F0041	92
石碑(神徳如天)	せきひ	H0019	126
石碑	せきひ	H0023	126
関屋	せきや	F0053	94
関屋井堰復旧工事碑	せきやいぜきふっきゅうこうじひ	G0048	118
関屋のつなぎだご	せきやのつなぎだご	F0130	106
関屋の道標(元禄4年の道標)	せきやのみちしるべ	F0049	94
関屋の道標(享和2年の道標)	せきやのみちしるべ	F0050	94
関屋橋(せきやばし)	せきやばし	G0004	113
関屋橋の碑	せきやばしのひ	F0052	94
善五郎稲荷祠(中宮)	ぜんごろういなりほこら	B0011	26
千手観音(筑紫四国第九十五番札所)	せんじゅかんのん	E0045	65
善正寺ヤシキ	ぜんじょうじやしき	F0136	107
ソイライデ	そいらいで	A0038	16
ソイラ5号橋	そいらごごうばし	A0042	17
ソイラ3号橋	そいらさんごうばし	A0035	15
ソイラ2号橋	そいらにごうばし	A0026	15
ソイラ橋	そいらばし	A0037	16
ソイラ4号橋	そいらよんごうばし	A0036	16
礎石(伝国分尼寺の礎石)	そせき	E0146	77
礎石	そせき	G0059	120
染川(藍染川)	そめがわ(あいぞめがわ)	B0080	37

■た行

大行事塔	だいぎょうじとう	A0056	18
大行事碑	だいぎょうじひ	E0120	76
大行事碑	だいぎょうじひ	F0140	107
大行事塔(東蓮寺)	だいぎょうじひ	G0055	119
大国神社	だいこくじんじゃ	B0110	41
醍醐橋(だいごばし)	だいごばし	B0042	31
大師様	たいしさま	C0026	50
大師堂	たいしどう	A0025	15
大師堂	たいしどう	A0052	18
大師堂	たいしどう	B0034	29
大師堂	たいしどう	B0049	32
大師堂	たいしどう	F0108	103
大日堂	だいにちどう	B0030	29
大日堂	だいにちどう	B0033	29
大日如来	だいにちにょらい	A0039	16

大日如来像	だいにちにょらい	H0039	129
平重盛の墓	たいらのしげもりのはか	B0046	31
大陸山　水城院(廃寺跡)	たいりくさん　みずきいん	H0012	125
高尾川周辺の豊かな自然(1)	たかおがわしゅうへんのゆたかなしぜん	D0006	54
高砂橋	たかすなばし	B0003	25
高橋構口跡	たかはしかまえぐち	C0021	49
高橋口橋(たかはしぐちばし)	たかはしぐちのはし	F0113	103
高橋紹運公墓道碑	たかはしじょううんこうぼどうのひ	F0095	101
高橋紹運墓(胴塚)	たかはしじょううんはか	F0004	87
高浜虚子歌碑(夜都府楼跡に佇む･･･)	たかはまきょしかひ	F0062	96
太宰府址碑	だざいふあとひ	F0073	98
太宰府安養院跡五輪塔残欠	だざいふあんようういんあとごりんとうざんけつ	F0125	105
太宰府口城門跡	だざいふくちじょうもんあと(いしこづんばば)	B0090	39
大宰府跡(大宰府政庁跡、都府楼跡)	だざいふしせき	F0133	106
大宰府条坊跡	だざいふじょうぼうあと	F0153	109
大宰府条坊の名残	だざいふじょうぼうのなごり いち	H0074	133
大宰府条坊の名残	だざいふじょうぼうのなごり いち	H0075	133
大宰府条坊の名残 3	だざいふじょうぼうのなごり さん	G0046	118
大宰府条坊の名残 2	だざいふじょうぼうのなごり に	G0041	117
大宰府正門礎石(朱雀門礎石)	だざいふせいもんそせき	F0063	96
太宰府天満宮の常夜燈	だざいふてんまんぐうのじょうやとう	A0060	18
太宰府碑	だざいふひ	F0071	97
多々良井堰	たたらいぜき	G0028	115
たな池	たないけ	A0016	13
田中の森(西の陵)	たなかのもり	G0008	114
田中橋	たなかばし	G0010	114
棚田の景観	たなだのふうけい	F0008	88
谷池	たにいけ	A0008	12
玉石垣支柱とトウカエデ	たまいしがきしちゅうととうかえで	F0070	97
溜池「奥ノ池」の水路	ためいけ「おくのいけ」のすいろ	E0105	74
溜池「奥ノ池」の水路	ためいけ「おくのいけ」のすいろ	E0106	75
太郎左近社	たろうさこんしゃ	C0019	49
田圃沿いの昔の道	たんぼぞいのむかしのみち	E0023	62
力石	ちからいし	C0017	49
筑紫四国第12番札所	ちくししこくだいじゅうにばんふだしょ	D0016	55
筑紫四国29番札所	ちくししこくにじゅうきゅうばんふだしょ	D0001	54
筑前国分尼寺跡	ちくぜんこくぶあまでらあと	E0053	67
筑前国分尼寺の東側の道	ちくぜんこくぶあまでらのひがしがわのみち	E0055	67
筑前国分尼寺南側の境界線	ちくぜんこくぶあまでらみなみがわのきょうかいせん	E0054	67
筑前国分寺(龍頭光山筑前国分寺)	ちくぜんこくぶんじ(りゅうとうこうざん　ちくぜんこくぶんじ)	E0075	70
筑前国分寺講堂跡	ちくぜんこくぶんじこうどうあと	E0080	71
血方持観音(ちけもちかんのん)	ちけもちかんのん	C0013	48
地禄神社	ちろくじんじゃ	H0049	129
地禄神社(イチイガシ)	ちろくじんじゃのいちいがし	H0085	135
築地塀があったと思われる場所	ついじべいがあったとおもわれるばしょ	E0085	72
塚	つか	F0093	101
父子島(ててこじま)	ててこじま	H0001	124
伝「鶴の墓」の石	でん　つるのはかのいし	G0025	115
伝衣塔(でんえとう)	でんえとう	B0081	37
天神の森	てんじんのもり	H0030	127
天拝橋(てんぱいきょう)	てんぱいきょう	A0062	19
天満宮一の鳥居(関屋の鳥居)	てんまんぐういちのとりい	F0051	94
導水トンネル(安の浦池から学業地区へ)	どうしとんねる	F0148	109
導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口)	どうすいとんねる	F0120	104
東蓮寺橋(とうれんじばし)	とうれんじばし	G0006	113
道路更正碑	どうろこうせいひ	F0096	101
道路造成(田中-松本線)記念碑	どうろぞうせいきねんひ	E0066	69
時の記念日の行事	ときのきねんびのぎょうじ	F0127	105
都督府古趾	ととくふこせき	F0072	98

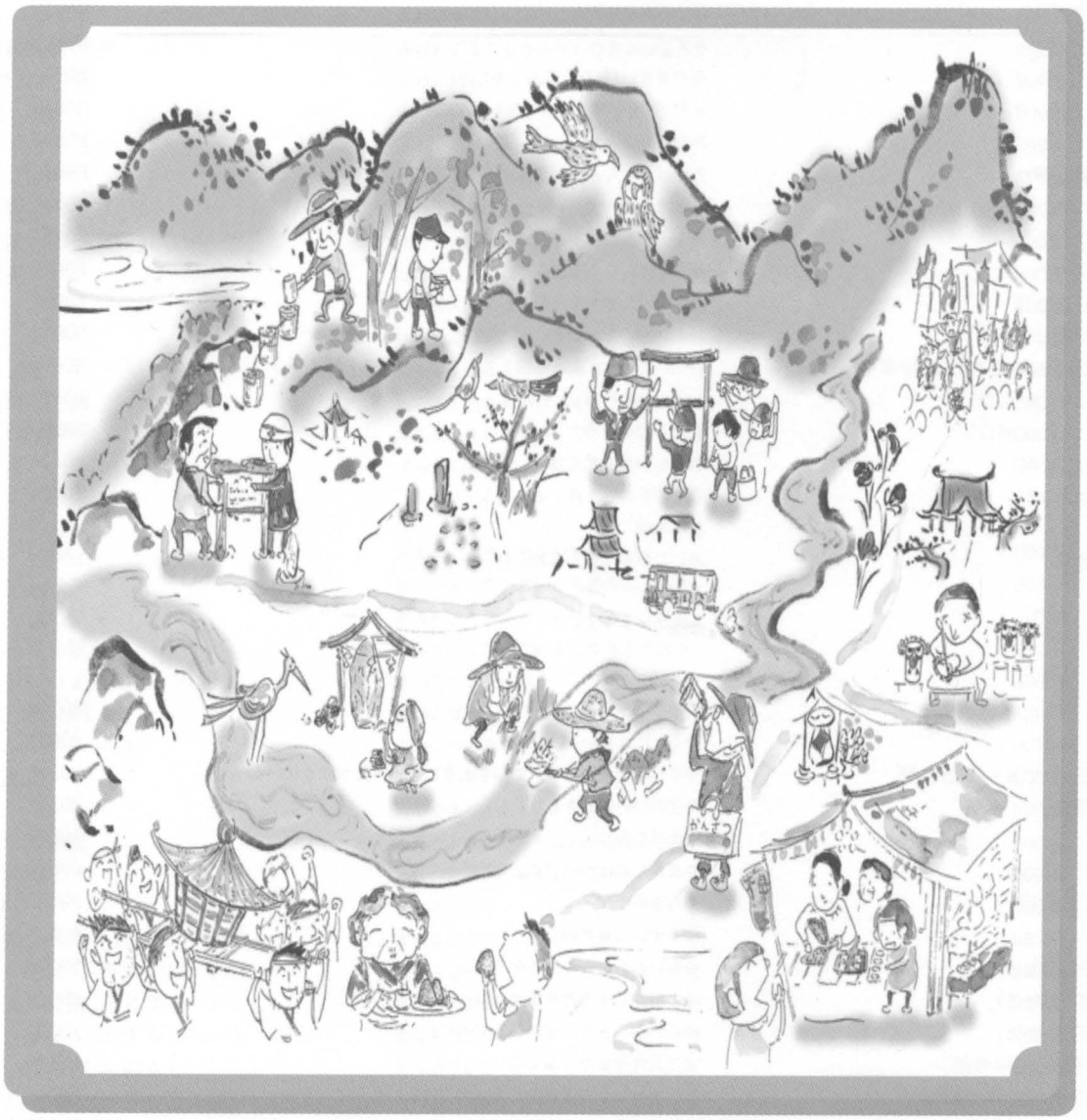
「とののくら」の名称表示	とののくらのめいしょうひょうじ	G0045	118
飛梅の原木	とびうめのげんぼく	G0026	115
都府楼教員住宅	とふろうきょういんじゅうたく	G0022	114
都府楼団地夏祭り	とふろうだんちなつまつり	G0023	115
都府楼道路開通記念碑	とふろうどうろかいつうきねんひ	F0066	97
都府楼之址従是壱町碑	とふろうのあとこれよりいっちょうひ	F0065	96
都府楼橋(とふろうばし)	とふろうばし	F0088	100
都府楼橋碑	とふろうばしひ	F0087	100
ドロクサンヤネのセンダン	どろくさんやねのせんだん	G0051	119
どろんこ祭り	どろんこまつり	E0171	81
■な行			
長浦遺跡(ながうらいせき)	ながうらいせき	H0069	132
夏祭り	なつまつり	D0029	56
成屋形遺跡(なりやかたいせき)	なりやかたいせき	E0147	78
成屋形地下道(太宰府市―01)	なりやかたちかどう	E0159	79
西島伊三雄風景(宝満山)画(油絵)	にしじまいさおふうけいが	D0009	54
西ノ池	にしのいけ	E0060	68
二のイデ	にのいで	A0005	11
日本経済大学	にほんけいざいだいがく	C0011	48
ヌノハエ石(推定)	ぬのはえいし	B0076	36
野口地下道(太宰府市―03)	のぐちちかどう	E0165	80
■は行			
旗立石	はたたていし	B0083	37
旗立石(日吉神社)	はたたていし	F0151	109
八幡宮遥拝所	はちまんぐうようはいじょ	H0026	127
八朔の千燈明	はっさくのせんとうみょう	B0079	37
八反田イデ	はったんだいで	A0043	17
八反田地下道(太宰府市―04)	はったんだちかどう	E0149	78
八反田橋(はったんだばし)	はったんだばし	A0044	17
はね石	はねいし	A0018	13
原遺跡	はらいせき	B0105□	40
原八坊中堂跡	はらはちぼうちゅうどうあと	B0101□	39
原八坊本堂跡	はらはちぼうほんどうあと	B0020	28
半田橋(はんだばし)	はんだばし	G0002	113
般度の滝	はんどのたき	F0149	109
般若寺跡　石造七重塔	はんにゃじあと　せきぞうななじゅうのとう	G0030	116
本殿拝殿(日吉神社)	ひえ(ひよし)じんじゃ	F0109	103
東ケ丘だより	ひがしがおかだより	D0028	56
東ケ丘団地簡易郵便局の開設	ひがしがおかだんちかんいゆうびんきょくのかいせつ	D0030	56
東谷口築堤碑	ひがしだにくちちくていひ	F0139	107
東の陵(東蓮寺跡、薬師山)	ひがしのりょう	G0007	114
引陣地蔵(ヒキジジゾウ)	ひきぢじぞう	E0116	76
毘沙門堂	びしゃもんどう	B0025	28
毘沙門堂	びしゃもんどう	H0034	128
毘沙門まいり	びしゃもんまいり	E0148	78
毘沙門詣りの道(現在の道)	びしゃもんまいりのみち	E0182	83
毘沙門詣りの道1(旧道から)	びしゃもんまいりのみち1	E0177	82
毘沙門詣りの道3(裏ノ田池～みどり公園)	びしゃもんまいりのみち3	E0179	83
毘沙門詣りの道4(水城団地内に残る道)	びしゃもんまいりのみち4	E0180	83
毘沙門詣りの道5(登山口)	びしゃもんまいりのみち5	E0181	83
毘沙門天の鳥居	びしょもんてんのとりい	B0111	41
毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道～裏ノ田池)	びしょもんまいりのみち2	E0178	83
日田街道	ひたかいどう	E0033	63
日田街道(博多往還)	ひたかいどう	E0047	66
ヒトツバタゴ	ひとつばたご	B0125	43
ひともっこ山(跡)	ひともっこやま	E0034	64
火の尾跡(推定)	ひのおあと	E0011	61
日焼遺跡(ひやけいせき)	ひやけいせき	H0070	133

福岡県立太宰府病院	ふくおかけんりつださいふびょういん	C0009	48
福岡女子短期大学・福岡国際大学	ふくおかじょしたんきだいがく・ふくおかこくさいだいがく	C0007	48
フケ遺跡	ふけいせき	H0063	131
普賢道路修繕費寄付表	ふげんどうろしゅうぜんひきふひょう	B0021	28
普賢橋(ふけんはし)	ふけんばし	B0002	25
普賢菩薩堂	ふげんぼさつどう	B0007	26
文庫部	ぶんこぶ	D0024	55
別所2号橋	べっしょにごうはし	A0022	14
宝満宮・八幡宮	ほうまんぐう・はちまんぐう	H0025	127
宝満宮・八幡宮の年間諸祭	ほうまんぐう・はちまんぐうのねんかんしょさい	H0065	132
宝満宮旗立石	ほうまんぐうはたたていし	H0021	126
宝満山	ほうまんざん	A0080	21
宝満山橋	ほうまんざんばし	A0003	11
宝満神社の宮座	ほうまんじんじゃのみやざ	H0086	135
鉾ノ浦溜池築造之碑	ほこのうらためいけちくぞうのひ	C0010	48
本殿跡台座(菅原神社)	ほんでんあとだいざ	G0033	116
ポンプ式井戸	ぽんぷしきいど	H0047	129

■ま行

前田公園地下遺跡	まえだこうえんちかいせき	H0035	128
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちょうぼう	D0025	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちょうぼう	D0026	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちょうぼう	D0027	56
松川貯水池(松川(まつごう)ダム)	まつごちょすいち	A0074	21
松川橋(まつごうばし)	まつごばし	A0061	19
松川道(まつごうへのみち)	まつごへのみち	B0102	40
マムシの生息地	まむしのせいそくち	G0044	118
丸山神社	まるやまじんじゃ	H0036	128
丸山神社の年間諸祭	まるやまじんじゃのねんかんしょさい	H0084	135
丸山神社の宮座	まるやまじんじゃのみやざ	H0087	135
万葉歌碑(妹が見し…)	まんようかひ	B0048	32
万葉歌碑　娘子児島・大納言大伴卿	まんようかひ	E0167	81
万葉歌碑　大伴旅人(世の中は…)	まんようかひ	F0024	90
万葉歌碑　大弐紀卿(正月立ち…)	まんようかひ	F0027	91
万葉歌碑　大伴旅人(やすみしし…)	まんようかひ	F0067	97
万葉歌碑　小野老(あをによし…)	まんようかひ	F0068	97
万葉歌碑　山上憶良(子等を思ふ歌)	まんようかひ	F0083	99
三浦潮井碑	みうらおしおいのひ	B0004	25
三浦の碑(五条)	みうらのひ（ごじょう）	C0003	47
三浦橋	みうらばし	B0001	25
御笠川のゴム製井堰	みかさがわのごむせいいぜき	E0122	76
御笠北高等小学校之跡の碑	みかさきたこうとうしょうがっこうあとのひ	F0055	95
御笠団印出土地周辺遺跡	みかさだんいんしゅつどちしゅうへんいせき	F0131	106
身代地蔵菩薩(屋敷神)	みがわりじぞうぼさつ	E0062	68
水瓶山(雲龍神)祠と石	みずかめやまほこらといし	B0010	26
水瓶山道標	みずかめやまみちしるべ	B0026	28
水城跡	みずきあと	E0145	77
水城跡	みずきあと	H0062	131
水城跡(東門側)	みずきあと（ひがしもんがわ）	E0036	64
水城跡・線路切り通し	みずきあと・せんろきりとうし	H0064	132
水城跡石碑及び関連施設	みずきあとせきひおよびかんれんしせつ	E0037	64
水城瓦窯跡	みずきかわらがまあと	E0040	65
水城経塚	みずききょうづか	H0068	132
水城大堤之碑	みずきたいていのひ	E0042	65
「水城堤」平成15年7月豪雨被害跡	みずきていへいせいじゅうごねんしちがつごううひがいのあと	H0003	124
水城展望台(水城南西方向を見る)	みずきてんぼうだい	E0032	63
水城西門跡	みずきにしもんあと	H0005	124
水城の関(水城東門の礎石)	みずきのせき	E0051	66
水城の渡し跡	みずきのわたし	E0027	63
水城橋(みずきばし)	みずきばし	E0029	63

水城村からの道	みずきむらからのみち	E0164	80
「水城」銘　墨書土器発見場所	みずきめいぼくしょどきはっけんばしょ	E0039	64
水城木樋跡(東門)	みずきもくひあと	E0038	64
水手(今、田アリ)	みずて	B0112	41
宮座祭	みやざさい(ちろくじんじゃ)	H0081	134
宮座祭	みやざさいのきろく(ちろくじんじゃ)	H0080	134
宮ノ本遺跡	みやのもといせき	H0058	131
宮原源作翁顕彰碑	みやはらげんさくおきなけんしょうひ	H0046	129
ミョウカクイデ	みょうかくいで	A0040	16
妙見祠(町方)	みょうけんほこら(まちかた)	E0152	78
妙見祠(村方)	みょうけんほこら(むらかた)	E0010	61
民家の敷地を通る道	みんかのしきちをとおるみち	E0061	68
向佐野地下歩道	むかいざのちかほどう	H0072	133
向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事	むかいざのちくしょうほこら・ぶつどうのしんこうぎょうじ	H0076	134
昔の水路(トンネル入口)	むかしのすいろ	E0157	79
昔の水路(トンネル出口)	むかしのすいろ	E0158	79
昔の洗濯場(岩踏川)	むかしのせんたくば	B0116	42
ムクノキの巨木3本	むくのきのきょぼくさんぼん	E0095	73
ムマノセ	むまのせ	B0123	43
明治百年記念碑	めいじひゃくねんきねんひ	E0084	72
もちの木	もちのき	G0042	117
門ノ石スエ	もんのいしすえ	F0138	107
■や行			
薬師堂	やくしどう	E0142	77
薬師如来堂	やくしにょらいどう	B0022	28
薬師如来・伝教大師・弘法大師	やくしにょらいどう・でんきょうたいし・こうぼうたいし	B0106	40
山の井池石塔群	やまのいいけせきとうぐん	F0118	104
山の神	やまのかみ	A0002	11
山伏墓(五条)	やまぶしのはか（ごじょう）	C0014	48
やんぶの墓(山伏塚)	やんぶのはか	F0012	88
湧水取水口	ゆうすいしゅすいぐち	A0023	14
由来不詳の石造物(2)	ゆらいふしょうのせきぞうぶつ	B0126	43
由来不詳の石造物(1)	ゆらいふしょうのせきぞうぶつ　1	E0012	61
由来不詳の石造物(4)	ゆらいふしょうのせきぞうぶつ　4	E0003	60
横岳山崇福寺跡(勝禅寺跡)	よこたけやまそうふくじ	F0129	106
小祠、仏堂の信仰行事(吉松)	よしまつしょうほこら。ぶつどうのしんこうぎょうじ	H0066	132
吉松松本遺跡	よしまつまつもといせき	H0057	130
夜泣き石地蔵堂	よなきいしじぞうどう	B0016	27
■ら行			
龍上げの道	りゅうあげのみち	B0014	27
龍頭不動明王院	りゅうとうふどうみょうおういん	A0058	18
連歌屋橋(れんがやばし)	れんがやばし	B0039	30
■わ・を			
若宮様(石塔)	わかみやさま	H0020	126
若宮神社	わかみやじんじゃ	E0098	73
ヲモナ石	をもないし	F0005	87



太宰府市の文化財　第115集

太宰府市文化遺産情報 1

－文化遺産からはじまるまちづくり－

（未来の市民に伝えたい「今」）

平成24(2012)年3月

発行　太宰府市教育委員会

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号

印刷　㈱三光　福岡営業所

〒812-0015

福岡市博多区山王一丁目14-4